

学科到達目標

科目区分	授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数																				担当教員	履修上の区分
					1年				2年				3年				4年				5年					
					前		後		前		後		前		後		前		後		前		後			
					1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
一般	必修	国語 I A	履修単位	2	2	2																			小池 博明	
一般	必修	物理 I	履修単位	2	2	2																			奥村 紀浩	
一般	必修	化学 I	履修単位	2	2	2																			板屋 智之, 滝善洋	
一般	必修	基礎数学演習	履修単位	2	2	2																			小林 茂樹, 平良弘, 濱口直樹, 西信洋, 小原大樹	
一般	必修	基礎数学 B	履修単位	4	4	4																			濱口 直樹, 西信洋, 小原大樹	
一般	必修	基礎数学 A	履修単位	2	2	2																			轟 龍一	
一般	必修	英語 I B	履修単位	4	4	4																			山崎 健永, 富和元	
一般	必修	英語 I A	履修単位	1	2																				高桑 潤	
一般	必修	芸術	履修単位	1	2																				服部 秀子, 上村まり	
一般	必修	保健・体育 I	履修単位	2	2	2																			児玉 英樹, 内山了治, 小川裕樹, 唐木田礼奈	
一般	必修	世界史	履修単位	2	2	2																			久保田和男, 寺川直樹	
一般	必修	国語 I B	履修単位	2	2	2																			曾田 友紀子	
一般	必修	国語 II	履修単位	2			2	2																	戸谷 精三	
一般	必修	日本史	履修単位	2			2	2																	二星 潤	
一般	必修	保健・体育 II	履修単位	4			4	4																	児玉 英樹, 内山了治, 小川裕樹, 唐木田礼奈	
一般	必修	英語 II A	履修単位	1				2																	高桑 潤	
一般	必修	英語 II B	履修単位	4			4	4																	高桑 潤, 小宮真美, 赤瀬正樹	
一般	必修	線形代数 I	履修単位	2			2	2																	新開 和幸	
一般	必修	微分積分 I	履修単位	4			4	4																	小林 茂樹, 平良弘, 林本厚志	



一般	必修選択	日本文学	0048	学修単位	2	<input type="text"/>	2	<input type="text"/>	小池 博明
一般	必修選択	西洋史	0049	学修単位	2	<input type="text"/>	2	<input type="text"/>	久保田和男
一般	必修選択	東洋史	0050	学修単位	2	<input type="text"/>	2	<input type="text"/>	久保田和男
一般	必修選択	日本社会史	0051	学修単位	2	<input type="text"/>	2	<input type="text"/>	二星 潤
一般	必修選択	日本文化史	0052	学修単位	2	<input type="text"/>	2	<input type="text"/>	二星 潤
一般	必修	倫理学	0053	学修単位	2	<input type="text"/>	2	<input type="text"/>	鬼頭 葉子
一般	必修選択	社会哲学	0054	学修単位	2	<input type="text"/>	2	<input type="text"/>	鬼頭 葉子
一般	必修選択	論理トレーニング	0055	学修単位	2	<input type="text"/>	2	<input type="text"/>	鬼頭 葉子
一般	必修選択	法学	0056	学修単位	2	<input type="text"/>	2	<input type="text"/>	関 良徳
一般	必修選択	中国語 I	0057	学修単位	2	<input type="text"/>	2	<input type="text"/>	張 淑華
一般	必修選択	中国語 II	0058	学修単位	2	<input type="text"/>	2	<input type="text"/>	張 淑華
一般	必修選択	ハングル I	0059	学修単位	2	<input type="text"/>	2	<input type="text"/>	裴 湖珠
一般	必修選択	ハングル II	0060	学修単位	2	<input type="text"/>	2	<input type="text"/>	裴 湖珠
一般	必修	スポーツ I	0061	履修単位	1	<input type="text"/>	2	<input type="text"/>	児玉 英樹, 内山 了治, 小川 裕樹, 篠原 克修
一般	必修	日本語コミュニケーションスキル (留学生対象)	0062	履修単位	2	<input type="text"/>	2	<input type="text"/>	岡宮 美樹
一般	必修選択	英語IV (E)	0063	履修単位	2	<input type="text"/>	2	2	クレイトン
一般	必修選択	英語IV (M)	0064	履修単位	2	<input type="text"/>	2	2	クレイトン
一般	必修選択	英語IV (S)	0065	履修単位	2	<input type="text"/>	2	2	クレイトン
一般	必修選択	英語IV (J)	0066	学修単位	2	<input type="text"/>	2	2	デヴィッドソン
一般	必修選択	英語IV (C)	0067	履修単位	2	<input type="text"/>	2	2	デヴィッドソン
一般	必修選択	経済学	0069	学修単位	2	<input type="text"/>	2	<input type="text"/>	永田 邦和
一般	必修	地球科学	0070	履修単位	1	<input type="text"/>	2	<input type="text"/>	大西 浩次

一般	必修	スポーツⅡ	0067	履修単位	1	<input type="text"/>	児玉英樹, 内山了治, 小川裕樹, 篠原克修	
一般	必修選択	英語Ⅴ(E)	0068	学修単位	2	<input type="text"/>	オサダ	
一般	必修選択	英語Ⅴ(S)	0069	学修単位	2	<input type="text"/>	クレイトン	
一般	必修選択	英語Ⅴ(J)	0070	学修単位	2	<input type="text"/>	デヴィッドソン	
一般	必修選択	英語Ⅴ(C)	0071	学修単位	2	<input type="text"/>	デヴィッドソン	
一般	必修選択	英語Ⅴ(M)	0072	学修単位	2	<input type="text"/>	オサダ	
一般	必修選択	特別学修(外国語)	0073	履修単位	2	<input type="text"/>	集中講義	久保田和男

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	国語 I A
科目基礎情報					
科目番号	0001		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般科		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	①教科書:『新 高等学校国語総合』明治書院, ②『新版三訂カラー版 新国語便覧』第一学習社, ③『テーマ別現代文 ウィニングクリア1』尚文出版, ④『やればできるシリーズ じっくり身につく現代文1』京都書房, ⑤『新入試 評論文読解のキーワード300 改訂版』明治書院, ⑥『常用漢字ダブルクリア 三訂版』, ⑦国語辞典(新たに購入する必要はない。中学校で使用したものでよい。電子辞書でも可)。*①②は国語 I B と共通。				
担当教員	小池 博明				
目的・到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平易な論理的文章の構成や要旨をおおむね理解できる。</li> <li>・平易な小説の主題をおおむね理解でき、登場人物の心情やものの見方を、表現に即して読むことができる。</li> <li>・平易な韻文について、その主題や作品に即したイメージをおおむね理解することができる。</li> <li>・基本的な漢字や言葉の意味をおおむね理解できる。</li> </ul> 以上を満足することで、A-1 に到達する初歩的段階の達成と認定する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	論理的文章の論理の展開をおおよそ理解し、要旨をほぼ把握することができる。	論理的文章の文意をおおよそ理解することができる。	論理的文章が理解できない。		
評価項目2	文学的文章について、書き手の意図をおおよそ理解することができる。	文学的文章の場面や情景を想像でき、登場人物の心情をおおよそ理解することができる。	文学的文章が理解できない。		
評価項目3	自らの語彙を知的好奇心をもって増やすことができる。	基本的な語彙がおおよそ理解できる。	基本的な語彙力がない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際社会への対応が希求され、進展する情報化社会の中にあつて、国語としての日本語について理解と表現力を育む。</li> <li>・現代の論理的文章を学習することを通して、理解力の基礎を養うとともに、語彙や表記法など国語に関する基本的な知識を身につける。</li> <li>・近現代の文学作品を読むことを通して、表現に即した鑑賞ができる基礎を養うとともに、語彙を豊かにし、表現力の涵養に努める。</li> </ul>				
授業の進め方と授業内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義とそれについての課題を課す。</li> <li>・課題は期限に遅れず提出すること。</li> </ul>				
注意点	<成績評価> 試験(80%)および課題など(20%)の合計100点満点で(A-1)を評価し、合計の6割以上を獲得した者を合格とする。 <オフィスアワー> 放課後 16:00 ~ 17:00、一般科棟3階。この時間にとらわれず必要に応じて来室可。 <先修科目・後修科目> 後修科目は国語 II。 <備考> 意見や感想の表明などは、授業や提出物などで行う。				
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス	授業を受けるにあたって必要な事柄を、理解する。	
		2週	評論 1	論理的文章の読解の基礎を理解することができる。	
		3週			
		4週	評論 2	論理的文章の基本的構成と展開を理解することができる。	
		5週			
		6週			
		7週			
		8週	これまでの理解度の確認。	これまでの学習内容について理解できている。	
	2ndQ	9週	小説 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品の表現から人物や情景を思い浮かべることができる。</li> <li>・作品の構成や展開から主題を考えることができる。</li> </ul>	
		10週			
		11週			
		12週			
		13週	詩	主題や作品に即したイメージを理解することができる。	
		14週			
		15週	俳句	主題や作品に即したイメージを理解することができる。	
		16週	前期末達成度試験		
後期	3rdQ	1週	評論 3	論理的文章の構成と展開を理解することができる。	
		2週			
		3週			
		4週	評論 4	これまで学習した、論理的文章の読解方法の応用ができる。	
		5週			

4thQ	6週		
	7週		
	8週	これまでの理解度の確認.	これまでの学習内容について理解できている.
	9週		
	10週	短歌	主題や作品に即したイメージを理解することができる.
	11週		
	12週	小説2	人物, 情景, 心情などを表現に即して理解することができる.
	13週		
	14週		
	15週		
16週	学年末達成度試験		

評価割合

	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	100
配点	80	0	0	0	20	100

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	物理 I
科目基礎情報					
科目番号	0002		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般科		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 「初歩から学ぶ基礎物理学 力学I」大日本図書、「ニューグローバル 物理基礎+物理」東京書籍、「フォトサイエンス物理図録」数研出版 参考書: 「グラフィック講義 力学の基礎」サイエンス社、「考える力学」学術図書出版社				
担当教員	奥村 紀浩				
目的・到達目標					
力と運動の関係を理解し、運動の様子が説明できること。運動方程式によって物体の運動を数学的に記述し、解析できること。運動量保存則を用いて衝突現象を説明できること。仕事とエネルギーの概念を使って力学的エネルギー保存則を説明できること。これらの内容を満足することで、学習・教育目標の(C-1)の達成とする。					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1		力と運動の関係を理解し、基礎的な運動の様子が説明できる。	基礎的な運動を解くことができる。	基礎的な運動を解くことができない。	
評価項目2		運動方程式によって物体の運動を数学的に記述し、その運動を解析し、説明できる。	運動方程式によって物体の運動を数学的に記述し、その運動を解くことができる。	物体の運動を解くことができない。	
評価項目3		仕事とエネルギーの概念を使って力学的エネルギー保存則を説明できる。	力学的エネルギー保存則の問題が解ける。	力学的エネルギー保存則の問題が解けない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	物体の運動を数学的に記述できること、ならびに運動方程式を用いて解析できることを学び、力と運動の関係を理解する。また、運動量とエネルギーの基本的な概念を学習する。				
授業の進め方と授業内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業方法は、基本的に講義が中心となる。</li> <li>・演習問題を授業中に課すので、時間内、あるいは次回までに解いておくこと。</li> <li>・適時、レポート課題を課すので、期限内に提出すること。</li> </ul>				
注意点	<p>&lt;成績評価&gt; 試験(70%)、授業中の確認テストおよびレポート課題(30%)の合計100点満点で(C-1)を評価し、評価結果60点以上を合格とする。</p> <p>&lt;オフィスアワー&gt; 水曜日 16:00~17:00、電気電子・機械工学科棟3F 315一般科物理 奥村教員室</p> <p>&lt;先修科目・後修科目&gt; 先修科目: なし、後修科目: 物理Ⅱ、科学演習・実験</p> <p>&lt;備考&gt; 自然現象を論理的に理解し、説明できる能力が求められる。このため数学的に記述する能力が必要となる。様々な現象に対して、自分の頭で考える訓練を積むことが大切である。</p>				
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	物理量と単位	物理における単位の役割を理解し、長さ、質量、時間などの単位に関して説明できる。	
		2週	変位と速度、加速度	変位、速度、加速度を説明できる。	
		3週	等速直線運動と等加速度運動	速度および変位と時間との関係を示すグラフを描き、運動を説明できる。	
		4週	等加速度直線運動の応用	等加速度直線運動の問題を解くことができる。	
		5週	いろいろな力とその表し方	力をベクトルで表現し、重力、垂直抗力、摩擦力、張力、弾性力について説明できる。	
		6週	力の合成と分解、成分	力の合成と分解を理解し、成分を求めることができる。	
		7週	力のつり合いと作用・反作用	力のつり合いの条件を理解し、作用・反作用の法則と区別して説明できる。	
		8週	1~7週の復習と理解度の確認	1~7週の学習内容に関する総合的な問題を解くことができる。	
	2ndQ	9週	ニュートンの運動の3法則	運動の三つの法則を説明できる。	
		10週	運動方程式	運動方程式を理解し、なめらかな水平面上の運動に適用できる。	
		11週	質量と重さ	質量と重さを区別して理解し、慣性や重力加速度に関して説明できる。	
		12週	落体の直線運動	自由落下、鉛直投射などの落下運動を、運動方程式を用いて説明できる。	
		13週	摩擦力がはたらく運動	摩擦力を理解し、あらい水平面上の運動を、運動方程式を用いて説明できる。	
		14週	接触した複数の物体の運動	接触した二つ以上の物体が関わる運動を、運動方程式を用いて説明できる。	
		15週	糸でつながれた2物体の運動	糸でつながれた2物体の運動を、運動方程式を用いて説明できる。	
		16週	前期末達成度試験	前期の授業内容の理解の達成度を確認する。	
後期	3rdQ	1週	速度の合成と分解、成分、相対速度	速度の合成と分解を理解し、成分を求め、相対速度を説明できる。	
		2週	落体の放物運動	水平投射、斜方投射などの落下運動を、運動方程式を用いて説明できる。	
		3週	斜面上の運動	斜面上にある物体の運動を、運動方程式を用いて説明できる。	

4thQ	4週	仕事と仕事率	仕事と仕事率を説明できる。
	5週	仕事の原理とエネルギー	仕事の原理を理解し、エネルギーを説明できる。
	6週	運動エネルギーと位置エネルギー	運動エネルギー、重力による位置エネルギー、弾性力による位置エネルギーを求めることができる。
	7週	力学的エネルギー保存則	力学的エネルギー保存則を説明できる。
	8週	1～7週の復習と理解度の確認	1～7週の学習内容に関する総合的な問題を解くことができる。
	9週	エネルギー保存則の応用(1)	力学的エネルギー保存の法則を用いて、重力や弾性力がはたらく様々な運動を説明できる。
	10週	エネルギー保存則の応用(2)	力学的エネルギー保存の法則を用いて、重力や弾性力がはたらく様々な運動を説明できる。
	11週	力積と運動量	力積と運動量の関係を説明できる。
	12週	運動量保存則	運動量保存則を導き、これを用いて直線上の衝突現象を説明できる。
	13週	平面上の衝突現象	運動量保存則を用いて、平面上の衝突現象を説明できる。
	14週	物体の合体と分裂	運動量保存則を用いて、物体の合体と分裂を説明できる。
	15週	反発係数	反発係数を理解し、壁や床との衝突、2物体の衝突に適用できる。
	16週	学年末達成度試験	1年間の授業内容の理解の達成度を確かめる。

#### 評価割合

	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	30	0	100
配点	70	0	0	30	0	100



長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	化学 I
科目基礎情報					
科目番号	0003		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般科		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 「化学基礎」, 「化学」, 「フォトサイエンス化学図録」 数研出版社				
担当教員	板屋 智之, 滝沢 善洋				
目的・到達目標					
化学の基本的な概念・原理 (原子構造・電子配置・イオン・化学結合・物質・化学反応式等) や化学の基本的な法則・反応 (気体の性質・溶液の性質・反応熱・酸塩基反応) について理解し, それらに関する問題を解くことができることで, 学習教育目標の (C-1) の達成とする。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
到達目標に記述した化学の基本的な概念・原理を説明でき, さらにそれらに関する問題を解くことができる。	化学の基本的な概念・原理を正しく記述し, さらにそれらに関する基本的・応用問題のほとんどを解くことができる。	化学の基本的な概念・原理を記述し, さらにそれらに関する基本的問題のほとんどを解くことができる。	化学の基本的な概念・原理を記述して説明することができず, さらにそれらに関する基本的問題のほとんどを解くことができない。		
到達目標に記述した化学の基本的な法則・反応を説明でき, さらにそれらに関する問題を解くことができる。	化学の基本的な法則・反応を正しく記述し, さらにそれらに関する基本的・応用問題のほとんどを解くことができる。	化学の基本的な法則・反応を記述し, さらにそれらに関する基本的問題のほとんどを解くことができる。	化学の基本的な法則・反応を記述して説明することができず, さらにそれらに関する基本的問題のほとんどを解くことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	化学の基本的な概念 (原子の構造, 電子配置, イオン, 化学結合, 物質, 化学反応式等) や気体の性質, 溶液の性質, 反応熱, 酸塩基 (反応) について学ぶ。				
授業の進め方と授業内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業方法は講義を中心とする。授業の中で質問を多く取り入れるので, 積極的に授業に参加してください。</li> <li>・ 適宜, レポート課題を課すので, 期限に遅れず提出すること。</li> </ul>				
注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;成績評価&gt; 試験(70%)およびレポート課題(30%)の合計100点満点で(C-1)を評価し, 6割以上を獲得した者を合格とする。</li> <li>&lt;オフィスアワー&gt; 毎週水曜日 14:30 ~ 15:20, 管理一般棟 化学教員室。この時間にとらわれず必要に応じて来室可</li> <li>&lt;先修科目・後修科目&gt; 後修科目は化学II, 科学演習・実験となる。</li> <li>&lt;備考&gt; 中学校で学んだ理科 (化学分野) の内容を理解できていること。</li> </ul>				
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	物質の成分	純物質と混合物の区別, 単体と化合物の区別, 同素体, 混合物の分離法について理解できる。	
		2週	原子の構造	原子の構造, 電子配置 価電子を理解できる。さらに, 同位体(放射性同位体の用途)を理解できる。	
		3週	イオンと元素の周期律	原子のイオン化を理解し, 代表的なイオンを化学式で表すことができる。さらに元素の性質を周期表と関連づけることができる。	
		4週	イオン結合とイオン結晶	イオン結合とイオン結合からできるイオン結晶 (塩) について理解できる。	
		5週	共有結合と分子	共有結合を理解し, 共有結合からできる分子を電子式や構造式で表すことができる。	
		6週	電気陰性度と分子の極性	電気陰性度と分子の極性を理解できる。	
		7週	金属結合と金属の性質	自由電子による金属結合と金属結合からできる金属の性質と金属原子の配列について理解できる。	
		8週	原子量・分子量・式量	原子の相対質量・原子量・分子量・式量を理解できる。	
	2ndQ	9週	物質 (1)	アボガド口定数を理解し, 物質 (mol) を用いて物質の量を表すことができる。	
		10週	物質 (2)	分子量・式量の意味を理解し, 物質の質量, 気体の体積と物質量の関係を理解できる。	
		11週	化学反応式 (1)	化学反応を化学反応式で表すことができる。	
		12週	化学反応式 (2)	化学反応式中の係数の意味を理解できる。	
		13週	化学反応式 (3)	化学反応を用いて化学量論的な計算ができる。	
		14週	物質の三態	物質を構成する粒子の熱運動を理解し, 物質の三態, 特に水の状態変化について説明できる。	
		15週	物質の融点・沸点	物質を構成する粒子間に働く力 (分子間力) を理解し, 物質の融点・沸点を比較できる。	
		16週	前期末達成度試験		
後期	3rdQ	1週	気体の性質 (1)	気体の圧力とボイルの法則を理解し, 必要な計算ができる。	
		2週	気体の性質 (2)	シャルルの法則, ボイル・シャルルの法則, 気体の状態方程式を理解し, 必要な計算ができる。	
		3週	気体の性質 (3)	ドルトンの分圧の法則と理想気体と実在気体の違いについて理解できる。	
		4週	溶液の性質 (1)	溶解のしくみを理解し, 質量パーセント濃度やモル濃度の計算ができる。また, 電解質と非電解質の区別ができる。	
		5週	溶液の性質 (2)	溶解度を理解し, 必要な計算ができる。	

4thQ	6週	溶液の性質（3）	蒸気圧低下，凝固点低下，浸透圧を理解できる。
	7週	溶液の性質（4）	コロイドおよびコロイド（溶液）の性質について理解できる。
	8週	反応熱と熱化学方程式	化学反応における熱の出入りを理解し，熱化学方程式をつくることができる。
	9週	ヘスの法則と結合エネルギー	結合エネルギーを理解できる。さらにヘスの法則を活用できる。
	10週	酸・塩基の定義	酸と塩基の定義を理解し，代表的な酸と塩基を強弱や価数によって分類できる。
	11週	弱酸の電離と水のイオン積	弱酸の電離を理解し，水素イオン濃度を計算できる。
	12週	pH	pHを説明でき，pHを計算することができる。
	13週	中和反応	中和反応を理解し，中和反応の化学反応式をつくることができる。
	14週	中和反応	中和反応（中和滴定）を理解し，必要な計算ができる。
	15週	中和反応	中和反応で生成する塩の性質を理解できる。
16週	学年末達成度試験		

評価割合

	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	30	0	100
配点	70	0	0	30	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	基礎数学演習
科目基礎情報					
科目番号	0004		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般科		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 高遠節夫 ほか「新基礎数学」大日本図書問題集: 高遠節夫 ほか「新基礎数学問題集」大日本図書				
担当教員	小林 茂樹, 平戸 良弘, 濱口 直樹, 西信 洋和, 小原 大樹				
目的・到達目標					
基礎数学A, Bにおける基本的事項と標準的な計算方法についての概要を理解できることを目標とする。授業内容を60%以上理解し計算できることで、学習・教育目標の(C-1)の達成とする。					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目		各単元において数学的な性質を理解し、応用問題を解くことができる。	各単元における基本的な計算方法を理解し、標準問題を解くことができる。	各単元における基本問題を解くことができない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	基礎数学A, Bの問題演習を通して、学習した内容についての理解を深め、学力の定着を図るとともに、数学的な見方や考え方を的確に活用する能力を養う。				
授業の進め方と授業内容・方法	基礎数学A, Bの進度に合わせて、問題演習を中心に進める。				
注意点	<成績評価> 授業中に行う小テスト、課題演習等により100点満点で(C-1)を評価し、6割以上を獲得したものをこの科目の合格者とする。 <オフィスアワー> 水曜日 14:30 ~ 15:00 <後修科目> 微分積分I, 線形代数I <関連科目> 基礎数学A, 基礎数学B				
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	中学校で学んだ数学の理解度の確認		
		2週	鋭角の三角比, 鈍角の三角比	三角関数の定義を理解し、三角比を求めることができる。	
		3週	三角比の相互関係, 正弦定理・余弦定理, 三角形の面積	三角比の相互関係や正弦定理, 余弦定理を理解し、これらを用いた計算ができる。	
		4週	整式の加法, 減法, 乗法	整式の四則演算が正確にできる。	
		5週	因数分解, 整式の除法, 剰余定理と因数定理	2次式の因数分解ができる。整式の最大公約数, 最小公倍数を理解し、実際に計算できる。剰余の定理と因数定理を活用できる。	
		6週	関数とグラフ, 2次関数のグラフと最大・最小	2次関数の性質を理解し、そのグラフを用いて最大値, 最小値を求めることができる。	
		7週	2次関数と2次方程式・2次不等式	2次関数と2次方程式, 2次不等式との関係を理解し活用できる。	
		8週	分数式の計算, 実数, 平方根	分数式の四則演算が正確にできる。実数の性質を理解し、計算ができる。平方根の性質を理解し計算ができる。	
	2ndQ	9週	べき関数, 分数関数	べき関数, 分数関数のグラフの性質が理解できる。	
		10週	無理関数, グラフの移動, 逆関数	無理関数のグラフの性質が理解できる。関数のグラフの移動について理解できる。基本的な関数の逆関数を求め、そのグラフをかくことができる。	
		11週	累乗根, 指数の拡張	指数法則や指数の拡張について理解し、これらを用いた計算ができる。	
		12週	指数関数	指数関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。指数関数の性質を用いて簡単な方程式や不等式が解ける。	
		13週	対数関数	対数の定義, 性質を理解し、対数の計算ができる。対数関数の性質を用いて簡単な方程式や不等式が解ける。	
		14週	複素数	複素数の性質を理解し、計算ができる。	
		15週	2次方程式いろいろな方程式	解の公式で2次方程式を解くことができる。解と係数の関係を理解できる。3元1次, 2元2次の連立方程式や分数方程式, 無理方程式を解くことができる。	
		16週			
後期	3rdQ	1週	一般角の三角関数	一般角による三角関数を理解し、具体的な問題の計算ができる。	
		2週	弧度法, 三角関数の性質とグラフ	弧度法による三角関数およびそのグラフの性質を理解し、具体的な問題の計算ができる。	
		3週	加法定理, 2倍角・半角の公式, 和積変形, 合成	三角関数の加法定理や2倍角, 半角, 和積変形の公式を用いた計算ができる。三角関数の合成を理解し、活用できる。	
		4週	恒等式, 等式の証明	恒等式の証明が理解できる。	
		5週	不等式の性質と1次不等式	不等式の性質を用いて、1次不等式を解くことができる。	

4thQ	6週	いろいろな不等式, 不等式の証明, 集合	連立不等式, 2次不等式, 3次不等式を解くことができる. 不等式の証明ができる. ド・モルガンの法則を活用できる.
	7週	2点間の距離と内分点	2点間の距離や内分点が計算できる.
	8週	直線の方程式, 2直線の関係	直線の性質やその方程式を理解し, 関連する問題が解ける.
	9週	円の方程式, 楕円, 双曲線, 放物線	円, 楕円, 双曲線, 放物線の性質を理解し, その方程式を求めることができる.
	10週	2次曲線の接線, 不等式と領域	2次曲線の接線について理解し, その方程式を求めることができる. 不等式で表された領域を図示できる.
	11週	等差数列, 等比数列	等差数列, 等比数列を理解し, 一般項やその和を求めることができる.
	12週	いろいろな数列の和	総和記号を用いた基本的な数列の和を計算することができる.
	13週	漸化式と数学的帰納法, 命題	帰納的定義や漸化式で表された数列の意味を理解し, 基本的な数列の一般項を求めることができる. 数学的帰納法を用いた証明ができる. 必要十分条件, 対偶などが理解できる.
	14週	場合の数, 順列・組合せ	積の法則と和の法則を活用できる. 順列, 組合せの意味を理解し, 具体的な問題が解ける.
15週	いろいろな順列, 二項定理	重複順列の意味を理解し, 具体的な問題が解ける. 二項定理の意味を理解し, 活用できる. パスカルの三角の意味が理解できる.	
16週			

評価割合

	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	0	50	50	0	0	100
配点	0	50	50	0	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	基礎数学B
科目基礎情報					
科目番号	0005		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 4	
開設学科	一般科		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	4	
教科書/教材	教科書: 高遠節夫 他「新基礎数学」大日本図書 / 問題集: 高遠節夫 他「新基礎数学問題集」大日本図書				
担当教員	濱口 直樹, 西信 洋和, 小原 大樹				
目的・到達目標					
基礎数学Bにおける基本的事項と標準的な計算についての概要を理解することを目標とする。授業内容を60%以上理解できることで、学習教育目標の(C-1)の達成とする。					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目		各単元において数学的な性質を理解し、応用問題を解くことができる。	各単元における基本的な計算方法を理解し、標準問題を解くことができる。	各単元における基本問題を解くことができない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	数学の基礎学力を養う。関数、方程式と不等式、図形と式、数列についての理解を通して、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図るとともに、数学的な見方や考え方を学び、それらを的確に活用する能力を伸ばす。				
授業の進め方と授業内容・方法	授業は講義と問題演習を中心に進める。				
注意点	<成績評価> 試験(70%)および平常点(30%)の合計100点満点で(C-1)を評価し、合計の6割以上を獲得した者を合格とする。 <オフィスアワー> 水曜日 14:30 ~ 15:00 <後修科目> 微分積分I, 線形代数I <関連科目> 基礎数学A, 基礎数学演習				
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	鋭角の三角比, 鈍角の三角比	三角関数の定義を理解し, 三角比を求めることができる。	
		2週	三角比の相互関係	三角比の相互関係を理解し, これらを用いた計算ができる。	
		3週	正弦定理, 余弦定理, 三角形の面積	正弦定理, 余弦定理を理解し, これらを用いた計算ができる。	
		4週	関数とグラフ	関数とそのグラフについて理解している。	
		5週	2次関数の最大・最小	2次関数の性質を理解し, そのグラフを用いて最大値, 最小値を求めることができる。	
		6週	2次関数と2次方程式・2次不等式	2次関数と2次方程式, 2次不等式との関係を理解し活用できる。	
		7週	べき関数, 分数関数	べき関数, 分数関数のグラフの性質を理解し, グラフをかくことができる。	
		8週	無理関数, グラフの移動	関数のグラフの移動について理解できる。無理関数のグラフの性質が理解できる。	
	2ndQ	9週	逆関数	基本的な関数の逆関数を求め, そのグラフをかくことができる。	
		10週	累乗根, 指数の拡張	累乗根の意味が理解できる。指数法則や指数の拡張について理解し, これらを用いた計算ができる。	
		11週	指数関数, 方程式と不等式	指数関数の性質を用いて, グラフをかくことができる。基本的な方程式や不等式を解くことができる。	
		12週	対数	対数の定義, 性質を理解し, 対数の計算ができる。	
		13週	対数関数	対数関数の性質を理解し, グラフをかくことができる。	
		14週	方程式と不等式, 常用対数	基本的な方程式や不等式を解くことができる。常用対数を利用できる。	
		15週	一般角, 一般角の三角関数	一般角による三角関数を理解し, 具体的な問題の計算ができる。	
		16週	前期末達成度試験		
後期	3rdQ	1週	弧度法, 三角関数の性質	角を弧度法で表現することができる。三角関数の性質を理解し, 具体的な問題の計算ができる。	
		2週	三角関数のグラフ	三角関数の性質を理解し, グラフをかくことができる。三角関数を含む基本的な方程式, 不等式を解くことができる。	
		3週	加法定理	加法定理を理解し, 具体的な問題の計算ができる。	
		4週	2倍角の公式, 半角の公式,	加法定理から導かれる2倍角, 半角の公式等を理解し, 活用できる。	
		5週	和積変形, 三角関数の合成	和積変形の公式, 三角関数の合成等を理解し, 活用できる。	
		6週	2点間の距離と内分点	2点間の距離や内分点が計算できる。	
		7週	直線の方程式, 2直線の関係	直線の方程式や直線の性質(傾き, 平行, 垂直等)を理解し, 様々な条件から直線の方程式を求めることができ, 関連する問題が解ける。	

4thQ	8週	円の方程式	円の性質を理解し、その方程式を求めることができる。
	9週	楕円, 双曲線	楕円, 双曲線の性質を理解し、その方程式を求めることができる。
	10週	放物線, 2次曲線の接線	放物線の性質を理解し、その方程式を求めることができる。2次曲線の接線について理解し、その方程式を求めることができる。
	11週	不等式と領域	不等式で表された領域を図示できる。
	12週	数列, 等差数列	等差数列を理解し、一般項やその和を求めることができる。
	13週	等比数列	等比数列を理解し、一般項やその和を求めることができる。
	14週	いろいろな数列の和	総和記号を用いた基本的な数列の和を計算することができる。
	15週	漸化式と数学的帰納法	帰納的定義や漸化式で表された数列の意味を理解し、基本的な数列の一般項を求めることができる。数学的帰納法を用いた証明ができる。
	16週	学年末達成度試験	

評価割合

	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	70	0	30	0	0	100
配点	70	0	30	0	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度(2019年度)	授業科目	基礎数学A
科目基礎情報					
科目番号	0006		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般科		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 高遠節夫 ほか「新基礎数学」大日本図書問題集: 高遠節夫 ほか「新基礎数学問題集」大日本図書				
担当教員	轟 龍一				
目的・到達目標					
基礎数学Aにおける基本的事項と標準的な計算方法についての概要を理解することを目標とする。授業内容を60%以上理解し計算できることで、学習・教育目標の(C-1)の達成とする。					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目		各単元において数学的な性質を理解し、応用問題を解くことができる。	各単元における基本的な計算方法を理解し、標準問題を解くことができる。	各単元における基本問題を解くことができない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	数学の基礎学力を養う。数と式、方程式と不等式、場合の数についての理解を通して、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図るとともに、数学的な見方や考え方を学び、それらを的確に活用する能力を伸ばす。				
授業の進め方と授業内容・方法	授業は講義と問題演習を中心に進める。				
注意点	<成績評価> 試験(70%)および平常点(30%)の合計100点満点で(C-1)を評価し、合計の6割以上を獲得した者を合格とする。 <オフィスアワー> 水曜日 14:30 ~ 15:00 数学科の各教員が対応します。 <後修科目> 微分積分I, 線形代数I <関連科目> 基礎数学B, 基礎数学演習				
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	整式の加法, 減法, 乗法(1)	整式の四則演算が正確にできる。	
		2週	整式の加法, 減法, 乗法(2)	整式の四則演算が正確にできる。	
		3週	因数分解	公式等を用いて因数分解ができる。	
		4週	整式の除法	整式の最大公約数, 最小公倍数を理解し, 計算ができる。	
		5週	剰余の定理と因数定理	剰余の定理と因数定理を活用できる。	
		6週	分数式の計算	分数式の四則演算が正確にできる。	
		7週	実数	実数の性質を理解し, 絶対値の計算ができる。	
		8週	平方根	平方根の性質を理解し, 基本的な計算ができる。	
	2ndQ	9週	複素数(1)	複素数の性質を理解し, 計算ができる。	
		10週	複素数(2)	複素数の性質を理解し, 計算ができる。	
		11週	2次方程式(1)	解の公式で2次方程式を解くことができる。	
		12週	2次方程式(2)	解の公式で2次方程式を解くことができる。	
		13週	解と係数の関係	解と係数の関係が理解できる。	
		14週	いろいろな方程式(1)	因数分解を利用して高次方程式を解くことができる。	
		15週	いろいろな方程式(2)	3元1次方程式や2元2次方程式, 分数方程式, 無理方程式を解くことができる。	
		16週	前期末達成度試験		
後期	3rdQ	1週	恒等式	恒等式と方程式の違いを理解できる。	
		2週	等式の証明	恒等式の証明ができる。	
		3週	不等式の性質と1次不等式	不等式の性質を用いて, 1次不等式を解くことができる。	
		4週	いろいろな不等式(1)	不等式の性質を用いて, 連立不等式を解くことができる。	
		5週	いろいろな不等式(2)	2次不等式, 3次不等式を解くことができる。	
		6週	不等式の証明(1)	不等式の証明ができる。	
		7週	不等式の証明(2)	不等式の証明ができる。	
		8週	集合	ド・モルガンの法則を活用できる。	
	4thQ	9週	命題(1)	必要十分条件, 対偶などが理解できる。	
		10週	命題(2)	必要十分条件, 対偶などが理解できる。	
		11週	場合の数	積の法則, 和の法則を理解し活用できる。	
		12週	順列・組合せ	順列, 組合せ意味を理解し, 具体的な問題が解ける。	
		13週	重ね合わせの理(2)	順列, 組合せ意味を理解し, 具体的な問題が解ける。	
		14週	いろいろな順列	重複順列の意味を理解し, 具体的な問題が解ける。	
		15週	二項定理	二項定理の意味を理解し, 活用できる。パスカルの三角形の意味が理解できる。	
		16週	学年末達成度試験		
評価割合					

	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	70	0	30	0	0	100
配点	70	0	30	0	0	100



長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	英語 I B
科目基礎情報					
科目番号	0007		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 4	
開設学科	一般科		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	4	
教科書/教材	教科書: CROWN English Communication I (三省堂) / 同Work Book, 参考書: 総合英語FACTBOOK (桐原書店), データベース4500 (桐原書店)				
担当教員	山崎 健一, 冨永 和元				
目的・到達目標					
一定の長さの文章を読み理解できること。また、聞いて概要がつかめること。発音とイントネーションに気をつけて音読できること。口頭で簡単な応答ができること。基本的な文法知識を用いて意味のある英文が書けること。以上、コミュニケーション能力の基礎を身につけることにより、(F-2)の達成とする。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	本文の構文や品詞、語法などを理解し説明できる。	本文の日本語訳をすることができる。	本文の日本語訳をすることができない。		
評価項目2	文法事項について応用的な問題を解くことができる。	文法事項について基本的な問題を解くことができる。	文法事項について基本的な問題を解くことができない。		
評価項目3	適切な単語や熟語を用いて英文を書くことができる。	単語や熟語を覚えて書くことができる。	単語や熟語を覚えて書くことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	英語によるコミュニケーション能力の基礎を養うことを目的とする。語彙・文法の習得をもとに4技能(読む・聞く・書く・話す)の総合的伸長を図る。 英語IAの授業内容とも関連させながら学習していくこと。 試験(70%)および小テストや課題等の平常点(30%)の合計100点満点で(F-2)を評価し、合計の6割以上を獲得した者を合格とする。 ＜オフィスアワー＞水曜日 16:00～17:00、この時間にとらわれず必要に応じて来室可。 ＜先修科目・後修科目＞後修科目は英語IIA、英語IIBとなる。				
授業の進め方と授業内容・方法	テキストの各Lessonにおける重要文法事項を確認し、本文を講読していく。また、Work Bookを使ってそのLessonの確認問題を行う。 単語帳の小テストを毎週行なう。				
注意点	必ず予習をして授業に臨むこと。 授業へは英和辞典を持参すること。 積極的に授業へ参加すること。				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション Lesson1 When Words Won't Work	授業の概要・方針を理解する。 言語・日本文化に関する英文を読む。 基本的な文のパターン/不定詞/動名詞を理解することができる。	
	2週	Lesson1 When Words Won't Work	言語・日本文化に関する英文を読む。 基本的な文のパターン/不定詞/動名詞を理解することができる。		
	3週	Lesson1 When Words Won't Work	言語・日本文化に関する英文を読む。 基本的な文のパターン/不定詞/動名詞を理解することができる。		
	4週	Lesson 2 Going into Space	自然科学・生き方に関する英文を読む。 現在完了/不定詞/S+V+O(疑問詞節/if節)を理解することができる。		
	5週	Lesson 2 Going into Space	自然科学・生き方に関する英文を読む。 現在完了/不定詞/S+V+O(疑問詞節/if節)を理解することができる。		
	6週	Lesson 3 A Canoe Is an Island	伝統文化・共生に関する英文を読む。 関係代名詞/分子の形容詞的用法/S+is+C(S=that節)を理解することができる。		
	7週	Lesson 3 A Canoe Is an Island	伝統文化・共生に関する英文を読む。 関係代名詞/分子の形容詞的用法/S+is+C(S=that節)を理解することができる。		
	8週	理解度の確認			
	2ndQ	9週	Lesson 4 Seeing with the Eyes of the Heart	音楽・生き方に関する英文を読む。 関係代名詞what/過去完了/S+V+O+C(C=原型不定詞)を理解することができる。	
	10週	Lesson 4 Seeing with the Eyes of the Heart	音楽・生き方に関する英文を読む。 関係代名詞what/過去完了/S+V+O+C(C=原型不定詞)を理解することができる。		
	11週	Lesson 4 Seeing with the Eyes of the Heart	音楽・生き方に関する英文を読む。 関係代名詞what/過去完了/S+V+O+C(C=原型不定詞)を理解することができる。		
	12週	Lesson 5 Food Bank	社会貢献・生き方に関する英文を読む。 関係副詞/S+V+O+C(C=分詞)/S+V+C(C=分詞)を理解することができる。		
	13週	Lesson 5 Food Bank	社会貢献・生き方に関する英文を読む。 関係副詞/S+V+O+C(C=分詞)/S+V+C(C=分詞)を理解することができる。		

		14週	Lesson 5 Food Bank	社会貢献・生き方に関する英文を読む。 関係副詞/S+V+O+C (C=分詞) /S+V+C (C=分詞)を理解することができる。
		15週	前期のまとめ	
		16週	前期末達成度試験	
後期	3rdQ	1週	Lesson 6 Roots & Shoots	環境・共生に関する英文を読む。 分詞構文/it~that… (形式主語) /同格を理解することができる。
		2週	Lesson 6 Roots & Shoots	環境・共生に関する英文を読む。 分詞構文/it~that… (形式主語) /同格を理解することができる。
		3週	Lesson 6 Roots & Shoots	環境・共生に関する英文を読む。 分詞構文/it~that… (形式主語) /同格を理解することができる。
		4週	Lesson 7 Paper Architect	建築・ボランティアに関する英文を読む。 seem to~ ; it seems that~ /受動態の完了形/形式目的語itを理解することができる。
		5週	Lesson 7 Paper Architect	建築・ボランティアに関する英文を読む。 seem to~ ; it seems that~ /受動態の完了形/形式目的語itを理解することができる。
		6週	Lesson 8 Not So Long Ago	平和・歴史に関する英文を読む。 仮定法過去/S+V+O1+O2 (O2=疑問詞節) /付帯状況のwithを理解することができる。
		7週	Lesson 8 Not So Long Ago	平和・歴史に関する英文を読む。 仮定法過去/S+V+O1+O2 (O2=疑問詞節) /付帯状況のwithを理解することができる。
		8週	理解度の確認	
	4thQ	9週	Lesson 9 Crossing the "Uncanny Valley"	科学技術・人間理解に関する英文を読む。 部分否定/used to~ ; would~など/助動詞+be+過去分詞を理解することができる。
		10週	Lesson 9 Crossing the "Uncanny Valley"	科学技術・人間理解に関する英文を読む。 部分否定/used to~ ; would~など/助動詞+be+過去分詞を理解することができる。
		11週	Lesson 9 Crossing the "Uncanny Valley"	科学技術・人間理解に関する英文を読む。 部分否定/used to~ ; would~など/助動詞+be+過去分詞を理解することができる。
		12週	Lesson 10 Good Ol' Charlie Brown	芸術・生き方に関する英文を読む。 仮定法過去完了/no matter+疑問詞/be to 不定詞を理解することができる。
		13週	Lesson 10 Good Ol' Charlie Brown	芸術・生き方に関する英文を読む。 仮定法過去完了/no matter+疑問詞/be to 不定詞を理解することができる。
		14週	Lesson 10 Good Ol' Charlie Brown	芸術・生き方に関する英文を読む。 仮定法過去完了/no matter+疑問詞/be to 不定詞を理解することができる。
		15週	後期のまとめ	
		16週	学年末達成度試験	

評価割合

	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	70	0	30	0	0	100
配点	70	0	30	0	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	英語 I A	
科目基礎情報						
科目番号	0008		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般科		対象学年	1		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	演習プリント(毎回配布) 挫折しない英文法(幻冬舎)					
担当教員	高桑 潤					
目的・到達目標						
授業項目に書かれているそれぞれの文構造が理解でき、さらにその文法項目を使用して基本的なコミュニケーションに必要となる簡単な文を作り出すことで(F2)の達成とする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1	文法を理解し、その文法が入った英文を、正しい単語を用いて書くことができる。	文法を理解し、その文法が入った英文を、単語がいくらか間違っても、書くことができる。	文法を理解しておらず、その文法が入った英文を書くことができない。			
評価項目2	文法を理解し、その文法が入った英文を、正しい単語を用いて読むことができる。	文法を理解し、その文法が入った英文を、単語がいくらかわからなくても、読むことができる。	文法を理解しておらず、その文法が入った英文を読むことができない。			
評価項目3	文法を理解し、その文法が入った英文を含む文章を読むことができる。	文法を理解し、その文法が入った英文を含む文章を、単語がいくらかわからなくても、読むことができる。	文法を理解しておらず、その文法が入った英文を含む文章を読むことができない。			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	1, 文法が理解できる。 2, 理解した文法知識を使って文を書ける。 3, 理解した文法知識を使って文を読める。					
授業の進め方と授業内容・方法	授業方法は、プリントを用いて英作文、英文読解の演習を行う。					
注意点	成績評価 2回の定期試験の成績で評価し、合計の6割以上を獲得した者を、F-2を達成したのものとして、この科目の合格者とする。  オフィスアワー 毎週月曜日 16:00-17:00 一般科棟 1F 東 この時間にとらわれず必要に応じて来室してください。  後修科目は、英語IIAである。					
授業計画						
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	be動詞と一般動詞	be動詞の要・不要を区別できる。		
		2週	5文型(1)	5文型を理解する。		
		3週	5文型(2)	5文型を使い分けて文を書くことができる。		
		4週	関係詞(1)	関係代名詞・関係副詞を理解する。		
		5週	関係詞(2)	関係代名詞を使って文を書くことができる。		
		6週	関係詞(3)	関係副詞を使って文を書くことができる。		
		7週	時制(1)	現在・過去・現在完了・未来の各時制を理解する。		
		8週	前期中間試験	既習の文法を使って文を書くことができる。		
	2ndQ	9週	節	that節・wh節を理解し、文を書くことができる。		
		10週	分詞構文	分詞構文を使って文を書くことができる。		
		11週	Endangered and Extinct Species	絶滅動物・絶滅危惧動物に関する文章を読むことができ、かつそれを書くことができる。		
		12週	Superconductivity	超伝導体に関する文章を読むことができ、かつそれを書くことができる。		
		13週	The Atmosphere	大気に関する文章を読むことができ、かつそれを書くことができる。		
		14週	Tsunamis	津波に関する文章を読むことができ、かつそれを書くことができる。		
		15週	Little Particle	微粒子に関する文章を読むことができ、かつそれを書くことができる。		
		16週	前期未達成度試験	既習の文法を使って英文を書くことができる。		
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	100	配点	100

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	芸術	
科目基礎情報						
科目番号	0009	科目区分	一般 / 必修			
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	一般科	対象学年	1			
開設期	前期	週時間数	2			
教科書/教材	教科書: 高校生の音楽 1 副教材: 新版愛唱歌集〈コーラスと信濃讃歌〉その他: リコーダー (ソプラノ・アルト) (注) 貸出用有り					
担当教員	服部 秀子, 上村 まり子					
目的・到達目標						
リズムや五線譜, 基本のコードを理解し, 実際にキーボード・ギター・リコーダーで演奏でき, また歌うことができる。これらの点を満たすことで, 学習・教育目標の (A-1) の達成とする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1 リズムや五線譜, 基本のコードを理解し表現できる (ソルフェージュ)	リズムを正確に, かつ音楽的に叩くことができ, 歌を正しい音名, 音程で歌うことができる。	リズムを叩くことができ, 歌を正しい音名で歌うことができる。	リズムを叩くことができず, また歌を音名で歌うことができない。			
評価項目2 実際にキーボード, ギター, リコーダー等を選び演奏することができる, または歌を歌うことができる。 (実技)	音楽的かつ芸術的に優れた演奏ができる。	選んだ楽器を演奏する, または大きな声で歌を歌うことができる。	楽器を演奏することができない, または声を出して歌うことができない。			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	音楽の基本である楽典, ソルフェージュ (読譜, 聴音等) を学び, 実際に演奏することにより, また偉大な作曲家の楽曲を聴いたり鑑賞することにより, 豊かに楽しく音楽を味わうことを目標とする。					
授業の進め方と授業内容・方法	毎時間使用するプリントを作成して授業を進める。のりを持参すること。					
注意点	<成績評価>ソルフェージュ (リズム, 音名唱) 50%, 任意の楽器 (ギター・キーボード・ピアノ・リコーダー・管弦楽, 吹奏楽に使用される楽器) または声楽の中から選択, 演奏を50%とし, 100点満点により評価する。合計で6割以上の達成者を合格とする。 <オフィスアワー>水曜日12:00~12:40 視聴覚室, 準備室あるいは非常勤講師室。不在の場合は一般科学科長に相談してください。					
授業計画						
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	〈楽曲〉プリント	音符, 記号等を理解する。		
		2週	〈読譜〉〈写譜, 聴音〉〈校歌〉 〈合唱の楽しみ〉(1)	簡単なリズムや五線譜を学び, 読譜をできるようにする。[ラバースコンチェルト, 威風堂々他]		
		3週	〈読譜〉〈写譜, 聴音〉〈校歌〉 〈合唱の楽しみ〉(2)	正確に楽譜を書く。ピアノで弾く簡単なリズム, 旋律を書き取る。		
		4週	〈読譜〉〈写譜, 聴音〉〈校歌〉 〈合唱の楽しみ〉(3)	校歌を暗譜で歌えるようにする。		
		5週	〈読譜〉〈写譜, 聴音〉〈校歌〉 〈合唱の楽しみ〉(4)	よく知られている曲を二部で歌い, ハーモニーを楽しむ。[翼をください, アメージンググレイス, ラブ・ミー・テンダー他]		
		6週	〈読譜〉〈写譜, 聴音〉〈校歌〉 〈合唱の楽しみ〉(5)	同上		
		7週	〈読譜〉〈写譜, 聴音〉〈校歌〉 〈合唱の楽しみ〉(6)	同上		
		8週	学習内容の確認 〈中間達成度試験〉	理解度の確認		
	2ndQ	9週	〈キーボード, ギターを弾こう〉(1)	楽器のしくみを学ぶ。五線譜と鍵盤と指の関係を学ぶ。ギター譜の見方, 弦の名称, コードネーム等を学び, ギターを弾く。[聖者の行進, Let it be他]		
		10週	〈キーボード, ギターを弾こう〉(2)	同上		
		11週	〈リコーダー〉	リコーダーの運指を確認。 【ソプラノリコーダー・アルトリコーダー】		
		12週	〈演奏を楽しむ〉(1)	各自, 任意の楽器に触れ, 自由曲を決めて練習。		
		13週	〈演奏を楽しむ〉(2)	同上		
		14週	〈演奏を楽しむ〉(3)	同上		
		15週	学習内容の確認 〈前期末達成度試験〉			
		16週				
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	100
配点	0	0	0	0	100	100

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	保健・体育 I
科目基礎情報					
科目番号	0010	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	実験・実習	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般科	対象学年	1		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	参考書: 最新スポーツルール 指定の運動着, Tシャツ, ポロシャツ, 専用シューズ(体育館, テニス).				
担当教員	児玉 英樹, 内山 了治, 小川 裕樹, 唐木田 礼奈				
目的・到達目標					
事前の準備やウォーミングアップ, 事後の片付けやクーリングダウンを積極的に行い, 運動に適した服装や態度の重要性を理解した上で, 各授業項目(各種目)について, 自主的かつ意欲的に活動に取り組める。これらの内容を満足することで, 学習・教育目標の(A-2)の達成とする。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	準備・活動の場面において, 自己および仲間のとるべき行動を判断し, 適切に働きかけながら, 主体的に活動できる。	準備・活動の場面において, 自己のとるべき行動を判断し, 仲間と協力しながら活動できる。	準備・活動の場面において, 自己のとるべき行動を判断できない。 ・仲間との協力や活動への自主的な参加ができない。		
評価項目2	自己の能力を理解し, 適切な運動技能, 運動強度を判断し, 応用的技能の習得や体力向上をはかることができる。	教員が指示した運動課題に従い, 運動の基本技術や体力を身につけることができる。	教員の指示に従わず, 運動の基本技術や体力を身につけることができない。		
評価項目3	自己や周囲の安全に留意しながら活動し, 必要に応じて危険を回避する行動や, 周囲への声かけができる。	自己の安全に留意しながら活動し, 必要に応じて危険を回避する行動を取ることができる。	安全に留意しながら活動することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	各種運動の合理的実践を通して, 運動種目に内在する固有の楽しさや喜びを体得し, 運動に親しむ能力や態度を養う。				
授業の進め方と授業内容・方法	授業方法は, 実技が中心となるが, 必要に応じてレポート等の課題を課す場合がある。				
注意点	<p>&lt;成績評価&gt; 上記(到達目標)に従い, 100点満点で(A-2)を評価し, 合計の6割以上を獲得した者をこの科目の合格者とする。</p> <p>&lt;オフィスアワー&gt; 毎週火曜日16:00~17:00, 内山: 第1体育館, グラウンド, 児玉: 第1体育館, 小川: 第2体育館・武道館・グラウンド。ただし, 出張などで不在の場合がある。(非常勤講師): 授業の前後に聞いてください。緊急の場合は体育教員が対応します。</p> <p>&lt;後修科目&gt; 保健・体育II</p> <p>&lt;備考&gt; やむを得ない理由により欠課時数が6時間を超えてしまった場合には, 申し出により補習を行うことがあるが, その場合でも欠課時数の合計が, 総授業時数の1/5以内を目安とする。 グラウンド改修工事が予定されており, 授業内容が変更になることがある。</p>				
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	体操①	・身体的緊張をほぐす各種体操を意欲的に行える。 ・ストレッチ, 補強運動等の具体的方法の理解と実践ができる。	
		2週	体操②	"	
		3週	スポーツテスト①	・文部科学省スポーツテストを行う。 ・運動能力, 体力の実態把握と課題設定。	
		4週	スポーツテスト②	"	
		5週	陸上競技(短距離, 投擲種目)①	・短距離: 100m, 50m, 疾走速度曲線の作成。 ・投擲種目: 円盤・槍投のどちらかを選択。	
		6週	陸上競技(短距離, 投擲種目)②	"	
		7週	陸上競技(短距離, 投擲種目)③	"	
		8週	陸上競技(短距離, 投擲種目)④	"	
	2ndQ	9週	バレーボール①	・チームワークの形成(仲間作り): サークルパス, ランニングパス。 ・基本技能: オーバー・アンダーハンドパス, サーブ, アタックなど。 ・応用技能: 3段攻撃, ゲーム。	
		10週	バレーボール②	"	
		11週	バレーボール③	"	
		12週	バレーボール④	"	
		13週	バレーボール⑤	"	
		14週	バレーボール⑥	"	
		15週	バレーボール⑦	"	
		16週			
後期	3rdQ	1週	卓球①	・基本の打ち方。フォア, バックの練習 ・サーブ練習 ・スマッシュ, 三球目攻撃等の応用技術練習 など	
		2週	卓球②	"	
		3週	卓球③	"	
		4週	卓球④	"	

		5週	持久走①	・学校外周（3.34km）・・・3回.
		6週	持久走②	〃
		7週	持久走③	〃
	8週	バドミントン①	・基本技能:ハイクリア, ドロップショット, スマッシュ, サービスなど. ・応用技能:ゲーム.	
	4thQ	9週	バドミントン②	〃
		10週	バドミントン③	〃
		11週	バドミントン④	〃
		12週	バスケットボール①	・基本技能:パス, ドリブル, 基本的なシュートなど. ・応用技能:2on2, 3on3, 5on5ゲーム.
		13週	バスケットボール②	〃
		14週	バスケットボール③	〃
15週		バスケットボール④	〃	
16週				

評価割合

	試験	技能	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	0	60	40	0	0	100
配点	0	60	40	0	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	世界史
科目基礎情報					
科目番号	0011		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般科		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 『世界史 A』 (帝国書院) 副教材: 『最新世界史図説タペストリー』 (帝国書院)				
担当教員	久保田 和男, 寺川 直樹				
目的・到達目標					
歴史上の国際情勢の大きな変化を理解できていること、世界の歴史地理的な基本的な知識を理解していること。これらを満足することで、学習・教育目標の A-1 の達成とする。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
今日の国際社会がいかなる過程を通じて形成されたのかを理解する。	良く理解できている	標準的に理解できている	あまり、よく分かっていない。		
西欧近代文明社会の形成と問題点を学習する。	良く理解できている	標準的に理解できている	説明できない。		
産業の発達と社会変動との関係を理解する。	良く理解出来ている	標準的に理解出来ている	説明ができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	1, 今日の国際社会がいかなる過程を通じて形成されたのかを理解する。 2, 西欧近代文明社会の形成と問題点を学習する。 3, 産業の発達と社会変動との関係を理解する。				
授業の進め方と授業内容・方法	講義方法は、講義を中心とする。適宜、課題を課すので期限内に遅れず提出すること。				
注意点	成績評価 4 回の定期試験の成績と授業に取り組む姿勢で総合的に評価し、合計の 6 割以上を獲得した者を、A-1 を達成したものととして、この科目の合格者とする。ただし、授業への取り組む姿勢については、ノート点検によって評価する。  オフィスアワー 毎週月曜日 16:00-17:00 一般科棟 1F 東 社会科教員室 2 この時間にとらわれず必要に応じて来室してください。  後修科目は、日本史である。				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	世界史の学び方/地球上に現れた人類と文明	歴史や世界史の学習の目的を理解する。	
		2週	四大文明	特にオリエント地域の文明の詳細について知る。	
		3週	ギリシャとローマ	ヨーロッパ世界の源流としての文明を理解する。	
		4週	西ヨーロッパの中世からルネサンス	中世からルネサンスへの歴史的な動きを理解する。	
		5週	宗教改革と大航海時代	世界の一体化のきっかけを理解する。	
		6週	新たな国際秩序の形成。	主権国家体制の確立という観点から理解する。	
		7週	アジアの市場に参入するヨーロッパ	アジア諸国と前近代における関係を理解する。	
		8週	理解度の確認	これまでの授業内容の確認をする。	
	2ndQ	9週	アメリカ独立革命とフランス革命	北米における植民地と独立の理念、フランス革命の広がりなどについて理解する。	
		10週	フランス革命の終わりとナポレオンのヨーロッパ支配	フランス革命の理想と現実を知る。	
		11週	産業革命という名の大変革	産業革命の背景と社会との関係を知る。	
		12週	資本主義の発展と社会主義運動の発生	19世紀の資本主義社会における光と影を知る。	
		13週	自由主義・ナショナリズムの発展	貴族制・君主制の民主化と国民国家の成立について知る。	
		14週	イギリスとフランス	ビクトリア時代と第二帝政について知る。	
		15週	ドイツの統一とロシアの改革	ドイツ帝国とロシア帝国の形成と発展を知る。	
		16週			
後期	3rdQ	1週	19世紀のアメリカと南北戦争	西部開拓・奴隷制問題・戦後の発展について理解する。	
		2週	第二次産業革命と大衆文化のはじまり	科学技術の急速な発展にともなう大衆社会の成立について知る。	
		3週	帝国主義の時代と東アジアの大変動	西洋の衝撃によって変化を強いられる東アジア諸国について知る。	
		4週	第一次世界大戦のはじまり	帝国主義戦争としての世界大戦を理解する	
		5週	第一次世界大戦とロシア革命	第一次世界大戦の特色と社会主義革命について	
		6週	ベルサイユ体制とワシントン会議	ウィルソンの理想と現実、アメリカ中心の世界のはじまり。	
		7週	アメリカ合衆国の黄金の 20 年代		
		8週	理解度の確認	これまでの授業内容の確認をする。	
	4thQ	9週	民族自決をもとめて	インド・中国における半植民地闘争を理解する	

	10週	世界恐慌とファシズムの台頭	大恐慌による失業者がファシズムの台頭を生んだ過程を知る。
	11週	満州事変と日中戦争	満州事変・日中戦争の背景となった日本社会の状況について知る。
	12週	第二次世界大戦の始まり	各国の大戦への関わりと戦争目的を知る。
	13週	第二次世界大戦の経過と終結	大戦の帰趨について大局的に知る。
	14週	冷戦のはじまり	核軍拡競争を背景とする冷戦構造を理解し、科学技術の発展の背景を知る。
	15週	冷戦の終わりとグローバル化	グローバル化の実態と未来を考える。
	16週		

評価割合

	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	70	0	30	0	0	100
配点	70	0	30	0	0	100



長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	国語 I B
科目基礎情報					
科目番号	0012		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般科		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	『高等学校国語総合』明治書院 『(新版三訂) カラー版新国語便覧』第一学習社 『基礎から学ぶ解析古典文法(三訂版)』桐原書店 古語辞典				
担当教員	曾田 友紀子				
目的・到達目標					
<p>「古典」の授業に臨む姿勢や学習活動に対する心構えを身につける。      歴史的仮名遣いに注意しながら古語を調べ、古典文法の基礎を身につけ、古語辞典をひくことができる。      作品を繰り返し音読したり、古語辞典、参考資料などを参照しながら内容を理解するよう努めることができる。      文学作品を読み、登場人物や時代背景について興味をもつことができる。      このような内容を身につけることでA-1の達成と認定する。</p>					
ループリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1		古典文学作品に興味をもって音読するとともに、作品の解釈を意欲的に進めることができる。	古典文学作品の音読ができるようになり、作品を理解するよう努めることができる。	古典文学作品の音読に難があり、作品に興味をもつことができない。	
評価項目2					
評価項目3					
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	国際社会への対応が希求され、日本文化への理解と造詣が求められる社会の中にあつて、古典作品の理解力と読解力を育くむ。				
授業の進め方と授業内容・方法	古典分野の文学作品を音読して解釈したり、時代背景を理解したりすることを通して、伝統的言語文化に対する基本的知識を身につける。				
注意点	定期考査、提出課題等、授業における学習活動を総合し100点満点で評価を行い、達成度が60点以上の履修者に単位を認定する。 オフィスアワー 月曜日 16時～17時 管理・一般科棟 1F 曾田教員室 この時間にとらわれずに必要に応じ来室すること。				
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	古文入門 〈1〉 児のそら寝 『宇治拾遺物語』 検非違使忠明 古語辞典の使い方	歴史的仮名遣いに注意しながら、作品を音読することができる。	
		2週	古文入門 〈2〉 歴史仮名遣い	歴史的仮名遣いに注意しながら、作品を音読することができる。(承前)	
		3週	古文入門 〈3〉 古文の特徴	古語と現代語との違いに留意しながら、内容理解に努めることができる。	
		4週	古文入門 〈4〉 古文の大意 品詞	古語と現代語との違いに留意しながら、大意の理解に努めることができる。	
		5週	古文入門 〈5〉 尼、地蔵を見奉ること その1	短文で比較的平易な古文の音読と内容が理解できる。	
		6週	古文入門 〈6〉 尼、地蔵を見奉ること その2	時代や、社会を超えて、継承された説話について理解を深めることができる。	
		7週	古文入門 〈7〉 品詞分解 動詞の活用	古文の意味を理解するために、品詞分解を行い、活用語の場合は終止形に直して辞書をひくことができる。	
		8週	作品理解向上学習	設定された課題を学習することを通して、作品の理解を深化させることができる。	
	2ndQ	9週	『徒然草』 〈1〉 つれづれなるままに	作者のものの見方や考え方に触れることができる。	
		10週	『徒然草』 〈2〉 奥山に猫またといふものありて	古文の大意をつかみ、内容を理解することができる。	
		11週	『徒然草』 〈3〉 花は盛りに	古語の動詞の活用の種類や活用形をおおむね理解できる。	
		12週	文法指導 〈動詞〉	本文から動詞を抜き出し、その活用形や活用の種類について、おおむね理解することができる。	
		13週	文法指導 〈動詞・形容詞〉	動詞、形容詞の活用について、理解することができる。	
		14週	文法指導 〈形容動詞〉	形容動詞の活用について、理解することができる。	
		15週	『伊勢物語』 〈1〉 芥川	古文を通して、平安時代の貴族の文化や教養を理解することができる。	
		16週	『伊勢物語』 〈2〉 芥川	作品中の和歌の役割について理解することができる。	
後期	3rdQ	1週	漢文入門 〈1〉	漢文への理解を深め、漢文の表現法に親しむことができる。	
		2週	漢文入門 〈2〉	返り点や書き下し文を理解し、漢文の表現法に親しむことができる。	

4thQ	3週	漢文入門〈3〉	送りがなや返り点のある程度つけることができる。
	4週	漢文入門〈4〉	漢文の内容をある程度理解し、再読文字を読むことができる。
	5週	漢文入門〈5〉 守株	故事成語の成立を知り、日本文化と漢文とのつながりを理解しながら音読することができる。
	6週	漢文入門〈6〉 螻蛄斧	作品に記されている歴史的事柄について、興味を持ちながら内容の理解に努めることができる。
	7週	漢文入門〈7〉 蛇足	作品に記されている歴史的事柄について、興味を持ちながら内容の理解に努めることができる。〈承前〉
	8週	作品理解向上学習	設定された課題を学習することを通して、作品の理解を深化させることができる。
	9週	『伊勢物語』〈3〉 東下り	歌物語の主人公に興味を持ち、平安時代の文化をある程度理解することができる。 形容詞、形容動詞の活用について理解することができる。
	10週	『伊勢物語』〈4〉 東下り	歌物語における歌の重要性に気づき、和歌の意義をある程度理解することができる。 形容詞、形容動詞の活用について理解することができる。〈承前〉
	11週	『伊勢物語』〈5〉 筒井筒	物語の登場人物にある程度興味をもち、現代に通じる心情に興味をもつことができる。 形容詞、形容動詞の活用について理解することができる。〈承前〉
	12週	『伊勢物語』〈6〉 筒井筒	物語の展開を理解し、平安時代の和歌の役割の重要性に気づくことができる。
	13週	漢詩文〈1〉	漢詩の型式、技法などについて理解することができる。
	14週	漢詩文〈2〉	漢詩文と日本文化とのつながりをある程度理解しながら、漢詩を音読できる。
	15週	漢詩文〈3〉	論語を音読し、作品にみられる思想について興味を持つことができる。
	16週	漢詩文〈4〉	論語の内容をある程度理解し、現代の思想との違いについて興味を持つことができる。〈承前〉

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	0	40	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	40	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	国語Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	0013		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般科		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	『現代文B 改訂版上巻』大修館書店 『精選古典B 改訂版』大修館書店 『常用漢字ダブルクリア三訂版』尚文出版 『キーワードの卵』尚文出版 『古典文法 用言徹底ワーク』尚文出版 『やさしくくわしい古典文法』尚文出版 『詳説 日本文学史ワーク』数研出版 稲賀敬二 監修 『新版三訂 カラー版新国語便覧』第一学習社 国語辞典 古語辞典				
担当教員	戸谷 精三				
目的・到達目標					
<p>「国語」の授業に臨む姿勢や学習活動に対する心構えを身につける。          国語辞典等を用いて、難解な語句を調べながら読解に努めることができる。作品の読解に努めながら、音読を進めることができる。          参考資料等を用いて作者の主要作品などについて学びながら、授業で学習する作品の興味深い場面を指摘することができる。          伝統的言語文化に興味を持ち、作品理解の深化に努めることができる。          知的好奇心のもとに文学作品を読み、感想文として文章化できる。          このような内容を身につけることでA-1の達成と認定する。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	文学作品の登場人物について、心理描写に触れながら、心情の推移を説明できる。	文学作品の音読ができるようになり、作品の概要が説明できる。	文学作品の音読に難があり、作品の登場人物を列挙することができない。		
評価項目2	評論文の主題について説明できるようにになるとともに、その主題に対する自身の考えを説明できるようになる。	評論文の音読ができ、段落ごとの内容を説明することができる。	評論文の音読に難があり、段落ごとに分けることができない。		
評価項目3	古典文学作品に興味を持って音読するとともに、作品の解釈を意欲的に進めることができる。知的好奇心のもとに、作品が生まれた歴史的背景について興味を持つようになる。	古典文学作品の音読ができるようになり、作品を理解するよう努めることができる。	古典文学作品の音読に難があり、作品に興味を持つことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	国際社会への対応が希求され、進展する情報化社会の中にあって、国語としての日本語について理解力と表現力を育む。				
授業の進め方と授業内容・方法	近代、現代作家の作品を学習することを通して作品の理解力や鑑賞力を高めるとともに、語彙、表記法など国語に関する基本的な知識の向上に努める。古典分野の文学作品を音読したり解釈することを通して、伝統的言語文化に対する理解の深化に努める。 知的好奇心のもとに文学作品を読むことを通して、語彙を豊かにし、表現力の涵養に努める。				
注意点	<p>〈成績評価〉定期考査4回、漢字の書き取り問題である反復学習問題、授業における課題演習など学習活動を総合して100点満点で評価して、達成度が60点以上の履修者に単位を認定する。          〈オフィスアワー〉12:00~12:50、管理・一般科棟3F国語教員室          この時間にとらわれずに必要に応じて来室してください。          〈先修科目〉国語ⅠA 国語ⅠB          〈後修科目〉国語Ⅲ</p>				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	分かち合う社会	狩猟採集民が作った社会についてまとめることができる。	
		2週	分かち合う社会〈2〉	狩猟採集民が作った社会についてまとめることができる。〈承前〉	
		3週	山月記	難解な漢字の音読ができるとともに、難解な語句を理解しようとするすることができる。	
		4週	山月記〈2〉	登場人物の心の推移を辿ることができる。	
		5週	山月記〈3〉	登場人物の心の推移を辿ることができる。	
		6週	大江山いくのの道 『十訓抄』	歴史的仮名遣いに留意して音読ができる。登場人物の心の動きを理解できる。	
		7週	世に語り伝ふること 『徒然草』	作者の伝承、世評に対する観点を摘記することができる。	
		8週	作品理解向上学習	設定された課題を学習することを通して作品理解を深化させることができる。	
	2ndQ	9週	永訣の朝 〈宮沢賢治〉	作者の妹を思う心情に触れることができる。	
		10週	人を指す言葉	家族や親族の中でお互いをどのように呼んでいるのかまとめることができる。	
		11週	人を指す言葉〈2〉	家族や親族の中でお互いをどのように呼んでいるのかまとめることができる。〈承前〉	
		12週	人を指す言葉〈3〉	家族や親族の中でお互いをどのように呼んでいるのかまとめることができる。〈承前〉	
		13週	故事成語 画電点晴 糟糠の妻 塞翁が馬	日常使われる、言葉の成り立ちについて興味を持つことができる。	
		14週	故事成語〈2〉 画電点晴 糟糠の妻 塞翁が馬	日常使われる、言葉の成り立ちについて興味を持つことができる。	

		15週	故事成語〈3〉 画竜点睛 糟糠の妻 塞翁が馬	日常使われる, 言葉の成り立ちについて興味を持つことができる。〈承前〉
		16週	作品理解向上学習	設定された課題を学習することを通して作品理解を深化させることができる。〈承前〉
後期	3rdQ	1週	からだで味わう動物と情報を味わう人間	「味わう」という点で, 動物と人間にどのような違いがあるか考えることができる。
		2週	からだで味わう動物と情報を味わう人間〈2〉	「味わう」という点で, 動物と人間にどのような違いがあるか考えることができる。〈承前〉
		3週	からだで味わう動物と情報を味わう人間〈3〉	「味わう」という点で, 動物と人間にどのような違いがあるか考えることができる。〈承前〉
		4週	漢詩 登高 (杜甫)	漢詩の型式に留意しながら作品理解に努めることができる。
		5週	行く河の流れ 『方丈記』	歴史的仮名遣いに留意しながら音読することができる。
		6週	行く河の流れ 『方丈記』〈2〉	本文中にある, 対になっている表現を指摘できる。
		7週	をばすて 『大和物語』	物語の展開を時間の経過とともに理解することができる。
		8週	作品理解向上学習	設定された課題を学習することを通して作品理解を深化させることができる。
	4thQ	9週	こころ	登場人物の人物像を, 自分自身の行動と比較しながら, 考えることができる。
		10週	こころ〈2〉	登場人物の人物像を, 自分自身の行動と比較しながら, 考えることができる。〈承前〉
		11週	こころ〈3〉	登場人物の人物像を, 自分自身の行動と比較しながら, 考えることができる。〈承前〉
		12週	こころ〈4〉	夏目漱石の文学活動について, 興味を持ちながら, 資料を読むことができる。
		13週	初冠 月やあらぬ 関守 『伊勢物語』	資料を参照しながら歌物語について理解を深めることができる。
		14週	初冠 月やあらぬ 関守 『伊勢物語』〈2〉	作品の音読を通して優れた和歌の理解につとめ, 物語の展開を把握することができる。
		15週	初冠 月やあらぬ 関守 『伊勢物語』〈3〉	作品の音読を通して優れた和歌の理解につとめ, 物語の展開を把握することができる。〈承前〉
		16週	作品理解向上学習	設定された課題を学習することを通して作品理解を深化させることができる。

評価割合

	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	60	0	40	0	0	100
配点	60	0	40	0	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	日本史	
科目基礎情報						
科目番号	0014		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般科		対象学年	2		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	教科書: 『詳説日本史B』 (山川出版社) 副教材: 『最新日本史図表』 (第一学習社)					
担当教員	二星 潤					
目的・到達目標						
授業の内容と教科書や副教材の情報を関連づけて理解できること。日本史の基本的な知識を理解していること。これらにより、学習・教育目標の(A-1)の達成とする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
1, 授業の内容と教科書や副教材の情報を関連づけて理解できる。	資料の意義を解説することができる。	資料を正しく読むことができ、内容も説明できる。	資料の内容を説明できない。			
2, 日本史の基本的な知識を理解している。	歴史的な諸問題について、因果関係を説明できる。	歴史的用語の内容を説明できる。	歴史的用語の内容を説明できない。			
評価項目3						
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	日本の歴史の展開を諸資料に基づき、総合的に考察することにより、歴史的思考力を培う。					
授業の進め方と授業内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業方法は講義を中心とする。</li> <li>・ 適宜、課題を課すので、期限に遅れず提出すること。</li> </ul>					
注意点	<p>&lt;成績評価&gt; 前期・後期とも、理解度チェック (40%)・期末試験 (40%)、平常点 (20%) で (A-1) を評価し、6割以上の得点で合格とする。平常点は、課題レポート等によって評価する。</p> <p>&lt;オフィスアワー&gt; 木曜日 16:00 ~ 17:00、管理・一般科棟3F西 二星潤教員室</p> <p>&lt;先修科目・後修科目&gt; 先修科目は世界史、後修科目は現代社会となる。</p>					
授業計画						
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	古代①縄文文化と弥生文化	縄文文化・弥生文化の社会を理解する。		
		2週	古代②古墳とヤマト政権	古墳の変容からヤマト政権の成立をとらえる。		
		3週	古代③飛鳥の朝廷	朝廷の政権運営や大陸との交流を知る。		
		4週	古代④平城京の時代	律令に基づく統治体制を理解する。		
		5週	古代⑤平安朝廷	律令による統治体制の変質を考察する。		
		6週	古代⑥摂関政治	摂関政治の成立過程とその影響を理解する。		
		7週	古代⑦武士の成長	武士の成長と進出過程についておさえる。		
		8週	理解度の確認	7週目までの内容の理解度の確認を行う。		
	2ndQ	9週	中世①院政と平氏	院政と平氏政権の特性を知る。		
		10週	中世②鎌倉幕府	鎌倉幕府の成長過程を理解する。		
		11週	中世③蒙古襲来	蒙古襲来が日本社会に与えた影響を理解する。		
		12週	中世④室町幕府	室町幕府の機構の確立について知る。		
		13週	中世⑤戦国大名	戦国期の日本の多様性を考察する。		
		14週	中世⑥中世の文化	中世の文化の特徴を理解する。		
		15週	近世①織豊政権	織豊政権の政策の特色を理解する。		
		16週	前期末達成度試験			
後期	3rdQ	1週	近世②幕藩体制の成立	幕藩体制の構造を多角的に考察する。		
		2週	近世③鎖国	鎖国までの過程とその影響を理解する。		
		3週	近世④経済の発展	諸産業の展開や社会的役割を理解する。		
		4週	近世⑤元禄文化	経済の発展と町人文化の形成の関連をとらえる。		
		5週	近世⑥幕藩体制の動揺	幕府や諸藩が行った改革の意義を考察する。		
		6週	近世⑦江戸後期の文化	文化における近代化の芽生えを考察する。		
		7週	近代①開国と幕末の動乱	国際環境の変化と開国までの過程を理解する。		
		8週	理解度の確認	7週目までの内容の理解度の確認を行う。		
	4thQ	9週	近代②明治維新	明治政府が中央集権体制を構築する過程を考察する。		
		10週	近代③立憲国家の成立	近代国家の基盤が形成されていく過程を理解する。		
		11週	近代④日清・日露戦争	戦争に至る経緯や経過、影響を知る。		
		12週	近代⑤近代産業の発展	産業革命や近代産業の発展を理解する。		
		13週	近代⑥近代の文化	近代文化の特色について理解する。		
		14週	近代⑦15年戦争	戦争が日本社会に及ぼした影響について考察する。		
		15週	近代⑧高度経済成長	経済の国際化と技術革新を理解する。		
		16週	学年末達成度試験			
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計

総合評価割合	80	0	20	0	0	100
配点	80	0	20	0	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	保健・体育II
科目基礎情報					
科目番号	0015		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	履修単位: 4	
開設学科	一般科		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	4	
教科書/教材	参考書: 最新スポーツルール, 伊藤道郎編 内山了治他著「運動と健康の科学」指定の運動着, Tシャツ, ポロシャツ, 専用シューズ(体育館, テニス).				
担当教員	児玉 英樹, 内山 了治, 小川 裕樹, 唐木田 礼奈				
目的・到達目標					
事前の準備やウォーミングアップ, 事後の片付けやクーリングダウンを積極的に行い, 運動に適した服装や態度の重要性を理解した上で, 各授業項目(各種目)について, 自主的かつ意欲的に活動に取り組める。これらの内容を満足することで, 学習・教育目標の(A-2)の達成とする。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	準備・活動の場面において, 自己および仲間のとるべき行動を判断し, 適切に働きかけながら, 主体的に活動できる。	準備・活動の場面において, 自己のとるべき行動を判断し, 仲間と協力しながら活動できる。	準備・活動の場面において, 自己のとるべき行動を判断できない。仲間との協力や活動への自主的な参加ができない。		
評価項目2	自己の能力を理解し, 適切な運動技能, 運動強度を判断し, 応用的技能の習得や体力向上をはかることができる。	教員が指示した運動課題に従い, 運動の基本技術や体力を身につけることができる。	教員の指示に従わず, 運動の基本技術や体力を身につけることができない。		
評価項目3	自己や周囲の安全に留意しながら活動し, 必要に応じて危険を回避する行動や, 周囲への声かけができる。	自己の安全に留意しながら活動し, 必要に応じて危険を回避する行動を取ることができる。	安全に留意しながら活動することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	各種運動の合理的実践を通して, 運動種目に内在する固有の楽しさや喜びを体得し, 運動に親しむ能力や態度を養う。また, 現代社会における健康に関する諸問題, 生活スタイルの変化に伴う無意識的な運動機会の減少(体力低下)やその防止策について理解を深める。				
授業の進め方と授業内容・方法	授業方法は, 実技が中心となるが, 必要に応じてレポート等の課題を課す場合がある。				
注意点	<p>&lt;成績評価&gt; 上記(到達目標)に従い, 100点満点(体育実技50%, 体育総合25%, 保健25%)で(A-2)を評価し, 合計の6割以上を獲得した者をこの科目の合格者とする。</p> <p>&lt;オフィスアワー&gt; 毎週火曜日16:00~17:00, 内山: 第1体育館, グラウンド, 児玉: 第1体育館, 小川: 第2体育館・武道館・グラウンド。ただし, 出張などで不在の場合がある。(非常勤講師): 授業の前後に聞いてください。緊急の場合は体育教員が対応します。</p> <p>&lt;先修科目・後修科目&gt; 先修科目: 保健・体育I 後修科目: 保健・体育III</p> <p>&lt;備考&gt; やむを得ない理由により欠課時数が6時間を超えてしまった場合には, 申し出により補習を行うことがあるが, その場合でも欠課時数の合計が, 総授業時数の1/5以内を目安とする。グラウンド改修工事が予定されており, 授業内容が変更になることがある。</p>				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	体育実技-前①/体育総合-前①/保健-前①	<体育実技> 身体的緊張をほぐす各種体操を意欲的に行える。ストレッチ, 補強運動等の具体的方法の理解と実践ができる。 <体育総合> 簡単なマット運動の実施。 <保健> 現代社会と健康及びその考え方について理解する。	
		2週	体育実技-前②/体育総合-前②/保健-前②	"	
		3週	体育実技-前③/体育総合-前③/保健-前③	<体育実技> 文部科学省スポーツテストを行う。運動能力, 体力の実態把握と課題設定。 <体育総合> 「体育総合-前②」に同じ。 <保健> 「保健-前②」に同じ。	
		4週	体育実技-前④/体育総合-前④/保健-前④	<体育実技> 「体育実技-前③」に同じ。 <体育総合> 縄跳びで, 八の字跳び, 全員跳びなど行い, タイミング能力やチームワークなど養う。 <保健> 安全な生活について理解する。	
		5週	体育実技-前⑤/体育総合-前⑤/保健-前⑤	<体育実技(陸上競技)> 短距離・ルー, 跳躍種目選択: 走高跳・走幅跳。 <体育総合> 「体育総合-前④」に同じ。 <保健> 人体のつくりについて理解する。	
		6週	体育実技-前⑥/体育総合-前⑥/保健-前⑥	<体育実技(陸上競技)> 「体育実技-前⑤」に同じ。 <体育総合> 「体育総合-前⑤」に同じ。 <保健> 「保健-前③」に同じ。	
		7週	体育実技-前⑦/体育総合-前⑦/保健-前⑦	<体育実技(陸上競技)> 「体育実技-前⑥」に同じ。 <体育総合> ラダー, ジャンプ, 変形ダッシュ, バランストレーニングなどを実施し, 調整能力の向上を図る。 <保健> 運動と筋肉について理解する。	
		8週	体育実技-前⑧/体育総合-前⑧/保健-前⑧	"	
	2ndQ	9週	体育実技-前⑨/体育総合-前⑨/保健-前⑨	<体育実技(ソフトボール)> 攻守の基本技術の習得, ルールの理解。 <体育総合> 「体育総合-前⑧」に同じ。 <保健> 心肺蘇生法等, 応急手当について理解する。	

		10週	体育実技-前⑩／体育総合-前⑩／保健-前⑩	〃
		11週	体育実技-前⑪／体育総合-前⑪／保健-前⑪	＜体育実技(ソフトボール)＞ 「体育実技-前⑩」に同じ。 ＜体育総合＞各自の課題によるトレーニングの計画と実践。 ＜保健＞「保健-前⑩」に同じ。
		12週	体育実技-前⑫／体育総合-前⑫／保健-前⑫	＜体育実技(バレーボール)＞基本技能の習得。応用技能(三段攻撃)の習得。ゲーム。 ＜体育総合＞「体育総合-前⑩」に同じ。 ＜保健＞体カトレーニングの内容や方法を理解する。
		13週	体育実技-前⑬／体育総合-前⑬／保健-前⑬	〃
		14週	体育実技-前⑭／体育総合-前⑭／保健-前⑭	〃 ＜保健＞前期のまとめ
		15週	体育実技-前⑮／体育総合-前⑮／保健-前⑮	〃 ＜保健＞「保健-前⑭」に同じ。
		16週		
後期	3rdQ	1週	体育実技-後①／体育総合-後①／保健-後①	＜体育実技(テニス)＞基本的ルールを理解、基礎技術の習得。 ＜体育総合＞簡単なマット運動の実施。 ＜保健＞適応機制や自己実現など、精神の健康について理解する。
		2週	体育実技-後②／体育総合-後②／保健-後②	＜体育実技(テニス)＞「体育実技-後①」に同じ。 ＜体育総合＞武道の姿勢、礼法、受け身、寝技などについて理解し実践できる。 ＜保健＞「保健-後①」に同じ。
		3週	体育実技-後③／体育総合-後③／保健-後③	＜体育実技(テニス)＞「体育実技-後②」に同じ。 ＜体育総合＞「体育総合-後②」に同じ。 ＜保健＞「保健-後②」に同じ。
		4週	体育実技-後④／体育総合-後④／保健-後④	＜体育実技(テニス)＞「体育実技-後③」に同じ。 ＜体育総合＞「体育総合-後③」に同じ。 ＜保健＞思春期と性・妊娠・出産と健康について理解する。
		5週	体育実技-後⑤／体育総合-後⑤／保健-後⑤	＜体育実技(持久走, サッカー)＞学校外周(3.34km)・・・3回。キック、ヘディング等の基本技術の習得。 ＜体育総合＞「体育総合-後④」に同じ。 ＜保健＞「保健-後④」に同じ。
		6週	体育実技-後⑥／体育総合-後⑥／保健-後⑥	＜体育実技(持久走, サッカー)＞「体育実技-後⑤」に同じ。 ＜体育総合＞「体育総合-後⑤」に同じ。 ＜保健＞「保健-後⑤」に同じ。
		7週	体育実技-後⑦／体育総合-後⑦／保健-後⑦	＜体育実技(持久走, サッカー)＞「体育実技-後⑥」に同じ。 ＜体育総合＞「体育総合-後⑥」に同じ。 ＜保健＞性感染症と健康について理解する。
		8週	体育実技-後⑧／体育総合-後⑧／保健-後⑧	＜体育実技(スケート)＞Mウェブにて実施。各自の技量に合わせた目標を立て実践する。 ＜体育総合＞「体育総合-後⑦」に同じ。 ＜保健＞「保健-後⑦」に同じ。
	4thQ	9週	体育実技-後⑨／体育総合-後⑨／保健-後⑨	＜体育実技(バドミントン)＞基本技能の向上と万全の種類の豊富なゲーム。 ＜体育総合＞「体育総合-後⑧」に同じ。 ＜保健＞「保健-後⑧」に同じ。
		10週	体育実技-後⑩／体育総合-後⑩／保健-後⑩	〃 ＜保健＞生活習慣病と健康について理解する。
		11週	体育実技-後⑪／体育総合-後⑪／保健-後⑪	〃 ＜保健＞「保健-後⑩」に同じ。
		12週	体育実技-後⑫／体育総合-後⑫／保健-後⑫	＜体育実技(バスケットボール)＞基礎練習とともに、2on2, 3on3, 5on5ゲームなどを行う。 ＜体育総合＞サーキットトレーニングの理解と実践。 ＜保健＞「保健-後⑪」に同じ。
		13週	体育実技-後⑬／体育総合-後⑬／保健-後⑬	〃 ＜保健＞食生活と健康について理解する。
		14週	体育実技-後⑭／体育総合-後⑭／保健-後⑭	〃 ＜保健＞後期のまとめ
		15週	体育実技-後⑮／体育総合-後⑮／保健-後⑮	〃 ＜保健＞「保健-後⑭」に同じ。
		16週		

評価割合

	試験	技能	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	0	50	40	0	10	100
配点	0	50	40	0	10	100



長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	英語ⅡA	
科目基礎情報						
科目番号	0016	科目区分	一般 / 必修			
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	一般科	対象学年	2			
開設期	後期	週時間数	2			
教科書/教材	英検2級過去6回問題集('19年度版)(成美堂), 挫折しない英文法(幻冬舎)					
担当教員	高桑 潤					
目的・到達目標						
英検2級レベルの文法を理解し、まとまった文章を読み、簡単な文が書ける。また、まとまった英文の大まかな内容を聞き取ることができ、簡単な会話ができる。これらの内容を満足することで、(F-2)の達成とする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1	文法を理解し、その文法が入った英文を、正しい単語を用いて書くことができる。	文法を理解し、その文法が入った英文を、単語がいくらか間違っても、書くことができる。	文法を理解しておらず、その文法が入った英文を、単語がいくらか間違っても、書くことができない。			
評価項目2	文法を理解し、その文法が入った英文を読むことができる。	文法を理解し、その文法が入った英文を、単語がいくらかわからなくても、読むことができる。	文法を理解しておらず、その文法が入った英文を読むことができない。			
評価項目3	文法を理解し、その文法が入った英文を含む文章を読むことができる。	文法を理解し、その文法が入った英文を含む文章を、単語がいくらかわからなくても読むことができる。	文法を理解しておらず、その文法が入った英文を含む文章を読むことができない。			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	1, 英検2級レベルの文法が理解できる。 2, 理解した文法知識を使って文を書ける。 3, 理解した文法知識を使って文を読める。					
授業の進め方と授業内容・方法	授業方法は、プリントを用いて英作文、英文読解の演習を行う。					
注意点	成績評価 2回の定期試験の成績で評価し、合計の6割以上を獲得した者を、F-2を達成したものとして、この科目の合格者とする。 オフィスアワー 毎週月曜日 16:00-17:00 一般科棟 1F 東 この時間にとらわれず必要に応じて来室してください。 後修科目は、英語IIIである。					
授業計画						
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	5文型・関係詞	5文型と関係詞を理解できる。		
		2週	wh節・分詞構文	wh節と分詞構文を理解できる。		
		3週	長文読解(1)	関係詞の含まれた文を正確に読むことができる。		
		4週	英作文(1)	関係詞の含まれた文を書くことができる。		
		5週	長文読解(2)	wh節の含まれた文を正確に読むことができる。		
		6週	英作文(2)	wh節の含まれた文を正確に読むことができる。		
		7週	長文読解(3)	仮定法の含まれた文を正確に読むことができる。		
		8週	後期中間試験	既習文法の含まれた文を正確に書くことができる。		
	4thQ	9週	長文読解(4)	分詞構文の含まれた文を正確に読むことができる。		
		10週	英作文(4)	分詞構文の含まれた文を書くことができる。		
		11週	長文読解(5)	倒置の含まれた文を正確に読むことができる。		
		12週	英作文(5)	倒置の含まれた文を書くことができる。		
		13週	総復習(1)	既習文法を使って文を書くことができる。		
		14週	リスニング(1)	既習文法の含まれた文を聞き取ることができる。		
		15週	リスニング(2)	既習文法の含まれた文章を聞き取ることができる。		
		16週	学年末達成度試験	既習文法の含まれた文を正確に書くことができる。		
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	100	配点	100

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	英語ⅡB
科目基礎情報					
科目番号	0017	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 4		
開設学科	一般科	対象学年	2		
開設期	通年	週時間数	4		
教科書/教材	CROWN English Communion II 霜崎貴ほか著三省堂 データベース4500 萩野治雄 著 桐原書店 CROWN English Communication II Workbook Advanced 三省堂				
担当教員	高桑 潤,小宮山 真美子,赤瀬 正樹				
目的・到達目標					
一定の長さの文章を読み, テーマや著者の主張を理解できること. また, 聞いて概要がつかめること. 内容を考えながら音読できること. 間違いを恐れず口頭で応答ができること. 文章構成に気をつけ英文が書けること. 以上, コミュニケーション能力の基本を身に付けることにより, (F-2) の達成とする.					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	本文の構文や品詞、語法などを説明できる。	本文の日本語訳をすることができる。	本文の日本語訳をすることができない。		
評価項目2	文法事項について応用的な問題を解くことができる。	文法事項について基本的な問題を解くことができる。	文法事項について基本的な問題を解くことができない。		
評価項目3	単語や熟語を用いて英文を書くことができる。	単語や熟語を覚えて書くことができる。	単語や熟語を覚えて書くことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	基礎的な英語コミュニケーション能力をさらに伸長することを目的とする。使える語彙・文法を念頭に4技能(読む・聞く・書く・話す)の統合的伸張を図る。				
授業の進め方と授業内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業には予習をして臨むこと。日本語訳や語彙説明を行う。</li> <li>・各単元の文法事項説明を行う。</li> <li>・CD等を用いて音声を確認する訓練も行う。</li> <li>・適宜指名して、予習ができていないかの確認を行う。</li> </ul>				
注意点	<p>&lt;成績評価&gt; 定期試験の得点と平常点(提出物など)を70:30の割合で評価し、最終成績が60点以上で合格とする。</p> <p>&lt;オフィスアワー&gt; 放課後 16:00 ~ 17:00, 教員室。この時間にとられず必要に応じて来室可。</p> <p>&lt;先修科目・後修科目&gt; 先修科目は英語IB, 後修科目は英語ⅢBとなる。</p>				
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	Lesson 1 Around the World on a Bike	関係代名詞の非制限用法/不定詞の意味上の主語/動名詞の意味上の主語などを理解できる。	
		2週	Lesson 1 Around the World on a Bike	関係代名詞の非制限用法/不定詞の意味上の主語/動名詞の意味上の主語などを理解できる。	
		3週	Lesson 2 Into Unknown Territory	関係副詞の非制限用法/受け身・否定の分詞構文/S+V+O(O=whether節)などを理解できる。	
		4週	Lesson 2 Into Unknown Territory	関係副詞の非制限用法/受け身・否定の分詞構文/S+V+O(O=whether節)などを理解できる。	
		5週	Lesson 2 Into Unknown Territory	関係副詞の非制限用法/受け身・否定の分詞構文/S+V+O(O=whether節)などを理解できる。	
		6週	Lesson 3 OOPARTS	前置詞+関係代名詞/助動詞+have+過去分詞/It is known that ~などを理解できる。	
		7週	Lesson 3 OOPARTS	前置詞+関係代名詞/助動詞+have+過去分詞/It is known that ~などを理解できる。	
		8週	理解度の確認		
	2ndQ	9週	Lesson 3 OOPARTS	前置詞+関係代名詞/助動詞+have+過去分詞/It is known that ~などを理解できる。	
		10週	Lesson 4 Crossing the Border	不定詞+前置詞/完了進行形/強調構文などを理解できる。	
		11週	Lesson 4 Crossing the Border	不定詞+前置詞/完了進行形/強調構文などを理解できる。	
		12週	Lesson 4 Crossing the Border	不定詞+前置詞/完了進行形/強調構文などを理解できる。	
		13週	Lesson 5 Saving Cherokee	複合関係詞/不定詞の完了形/比較級+than+S+Vなどを理解できる。	
		14週	Lesson 5 Saving Cherokee	複合関係詞/不定詞の完了形/比較級+than+S+Vなどを理解できる。	
		15週	Lesson 5 Saving Cherokee	複合関係詞/不定詞の完了形/比較級+than+S+Vなどを理解できる。	
		16週	前期末達成度試験		
後期	3rdQ	1週	Lesson 6 Ashura	結果を表す不定詞/倒置/無生物主語の他動詞構文などを理解できる。	
		2週	Lesson 6 Ashura	結果を表す不定詞/倒置/無生物主語の他動詞構文などを理解できる。	
		3週	Lesson 7 Why Biomimicry?	仮定法現在/if節のない仮定法/未来に関する仮定法などを理解できる。	
		4週	Lesson 7 Why Biomimicry?	仮定法現在/if節のない仮定法/未来に関する仮定法などを理解できる。	

		5週	Lesson 7 Why Biomimicry?	仮定法現在/if 節のない仮定法/未来に関する仮定法などを理解できる。
		6週	Lesson 8 Working against the Clock	完了の分詞構文/受け身の進行形/S is C (C=whether節)などを理解できる。
		7週	Lesson 8 Working against the Clock	完了の分詞構文/受け身の進行形/S is C (C=whether節)などを理解できる。
		8週	理解度の確認	
	4thQ	9週	Lesson 8 Working against the Clock	完了の分詞構文/受け身の進行形/S is C (C=whether節)などを理解できる。
		10週	Lesson 9 The Long Voyage	独立分詞構文/未来進行形/未来完了形などを理解できる。
		11週	Lesson 9 The Long Voyage	独立分詞構文/未来進行形/未来完了形などを理解できる。
		12週	Lesson 9 The Long Voyage	独立分詞構文/未来進行形/未来完了形などを理解できる。
		13週	Lesson 10 Grandfather's Letters	不定詞の受け身/動名詞の受け身などを理解できる。
		14週	Lesson 10 Grandfather's Letters	不定詞の受け身/動名詞の受け身などを理解できる。
		15週	Lesson 10 Grandfather's Letters	不定詞の受け身/動名詞の受け身などを理解できる。
		16週	学年末達成度試験	

評価割合

	試験	平常点	小テスト	レポート	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	100
配点	70	30	0	0	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	線形代数 I
科目基礎情報					
科目番号	0018		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般科		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書 高遠節夫 他「新線形代数」大日本図書 / 問題集 高遠節夫 他「新線形代数問題集」大日本図書				
担当教員	新開 和幸				
目的・到達目標					
線形代数Iにおける基本的事項と標準的な計算方法についての概念を理解できることを目標とする。授業内容を60%以上理解し計算できることで、学習・教育目標の(C-1)の達成とする。					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目		各単元において数学的な性質を理解し、応用問題を解くことができる。	各単元における基本的な計算方法を理解し、標準問題を解くことができる。	各単元における基本問題を解くことができない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	線形代数における基本的な概念の形成と原理・法則の系統的な理解を通して、知識の習得と技能の習熟を図るとともに、数学的な表現や論理的な思考力を高め、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばす。				
授業の進め方と授業内容・方法	授業方法は講義を中心とし、演習問題や課題を出す。適宜、レポートを課すので、期限内に遅れないように提出すること。				
注意点	<成績評価> 試験(70%)、平常点(30%)の合計100点満点で(C-1)を評価し、合計の6割以上を獲得した者を合格とする。ただし平常点は授業中に行う課題演習等で評価する。 <オフィスアワー> 毎週水曜日14:00~15:00 数学科の各教員が対応します。 <先修科目・後修科目> 先修科目は基礎数学A・B、後修科目は線形代数II、微分積分IIA・B <備考> 授業後には必ず復習を行うこと。問題を自分で解くことが大切である。				
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ベクトルについて	平面ベクトルの定義、性質が理解できる。	
		2週	ベクトルの演算	平面ベクトルの計算ができる。	
		3週	ベクトルの成分	ベクトルの成分の定義が理解できる。	
		4週	ベクトルの内積	ベクトルの内積の定義が理解でき、成分を用いた計算ができる。	
		5週	ベクトルの平行と垂直	ベクトルの平行条件や垂直条件が理解できる。	
		6週	ベクトルの図形への応用	平行条件や垂直条件を利用した図形の問題の解法が理解できる。	
		7週	直線のベクトル方程式	直線のベクトル方程式の概念が理解できる。	
		8週	平面のベクトルの線形独立・線形従属	平面のベクトルの線形独立、線形従属の概念が理解できる。	
	2ndQ	9週	空間座標	空間ベクトルの概念を把握する。	
		10週	ベクトルの成分	空間ベクトルの演算および成分を理解し、計算できる。	
		11週	ベクトルの内積	ベクトルの内積の概念が理解できる。	
		12週	直線の方程式	空間内の直線の方程式を理解し、それを求めることができる。	
		13週	平面の方程式	空間内の平面の方程式を理解し、それを求めることができる。	
		14週	球の方程式	球の方程式を求めることができる。	
		15週	空間のベクトルの線形独立・線形従属	線形独立、線形従属の概念が理解できる。	
		16週	前期末達成度試験		
後期	3rdQ	1週	行列の定義	行列の定義が理解できる。	
		2週	行列の演算	行列の加減、実数倍、積を理解し、計算ができる。	
		3週	転置行列	転置行列の定義が理解できる。	
		4週	逆行列	逆行列の定義、意味を理解し、求めることができる。	
		5週	消去法	消去法を用いて連立1次方程式を解き、逆行列を求めることができる。	
		6週	逆行列と連立1次方程式	逆行列を用いた連立1次方程式の解法が理解できる。	
		7週	行列の階数	行列の階数を理解し、求めることができる。	
		8週	行列式の定義(1)	行列式の定義を把握することができる。	
	4thQ	9週	行列式の定義(2)	サラスの方法を用いて3次の行列式が計算できる。	
		10週	行列式の性質	行列式の性質が理解できる。	
		11週	行列の積と行列式	行列の積と行列式の関係が理解できる。	
		12週	行列式の展開(1)	行列式の基本的な性質を用いた展開を理解し、計算ができる。	
		13週	行列式の展開(2)	行列式の、小行列式を用いた展開を理解し、計算ができる。	
		14週	行列式と逆行列	余因子行列を用いて逆行列を求めることができる。	

	15週	連立1次方程式と行列式	クラメルの公式が理解できる.
	16週	学年末達成度試験	

評価割合

	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	70	0	30	0	0	100
配点	70	0	30	0	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	微分積分 I
科目基礎情報					
科目番号	0019		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 4	
開設学科	一般科		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	4	
教科書/教材	教科書: 高遠節夫 他「新微分積分 I」大日本図書 / 問題集: 高遠節夫 他「新微分積分 I 問題集」大日本図書				
担当教員	小林 茂樹, 平戸 良弘, 林本 厚志				
目的・到達目標					
微分積分 I における基本的事項と標準的な計算方法についての概要を理解できることを目標とする。授業内容を 60%以上理解し計算できることで、学習・教育目標の (C-1) の達成とする。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目	各単元において数学的な性質を理解し、応用問題を解くことができる。	各単元における基本的な計算方法を理解し、標準問題を解くことができる。	各単元における基本問題を解くことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	微分積分Iにおける基本的な概念の形成と原理・法則の系統的理解を通して、知識の習得と技能の習熟を図るとともに、数学的な表現や論理的な思考力を高め、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばす。				
授業の進め方と授業内容・方法	授業方法は講義を中心とし、演習問題や課題を出す。適宜、レポートを課すので、期限に遅れないように提出すること				
注意点	<成績評価> 試験(70%)、平常点(30%)の合計100点満点で(C-1)を評価し、合計の6割以上を獲得した者を合格とする。ただし平常点は授業中に行う課題演習等で評価する。 <オフィスアワー> 毎週水曜日14:00~15:00 数学科の各教員が対応します。 <先修科目・後修科目> 先修科目は基礎数学A,B, 後修科目は微分積分IIA,B, 確率統計I。 <備考> 授業後には必ず復習を行うこと。問題を自分で解くことが大切である。				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	関数の極限	関数の概念を理解し計算ができる。	
		2週	微分係数, 導関数の概念	微分係数の意味を理解し, 求めることができる。導関数の定義を理解できる。	
		3週	導関数とその性質	関数の積・商の導関数の公式を使うことができる	
		4週	三角関数と指数関数の導関数	三角関数と指数関数の導関数が計算できる。	
		5週	自然対数の底の極限	自然対数の底の極限が理解でき, 計算できる	
		6週	合成関数の導関数	合成関数の導関数の意味を理解し, 計算ができる。	
		7週	対数関数の導関数	対数関数の導関数が計算できる。対数微分法の考え方を理解し, 計算できる。	
		8週	逆三角関数の導関数, 関数の連続	逆三角関数の導関数が計算できる。関数が連続であることについて理解できる。	
	2ndQ	9週	接線と法線, 関数の増減の定理	基本的な曲線の接線や法線を求めることができる。関数の増減の定理が理解できる。	
		10週	関数の増減, 関数の極大・極小	関数の増減を調べることができる。極値を求め, グラフの概形をかくことができる。	
		11週	関数の最大・最小, 不定形の極限	2関数の最大値, 最小値を求めることができる。極値を求め, グラフの概形をかくことができる。	
		12週	高次導関数	様々な関数の高次導関数を求めることができる。ライプニッツ公式より関数の積の高次導関数が計算できる。	
		13週	曲線の凹凸	凹凸や変曲点も含めたグラフの概形をかくことができる。	
		14週	曲線の媒介変数表示, 媒介変数表示の微分法	媒介変数表示について理解できる。媒介変数表示の導関数が計算できる。	
		15週	速度と加速度, 平均値の定理	微分を用いて速度と加速度について理解できる。平均値の定理の意味が理解できる。	
		16週	前期末達成度試験		
後期	3rdQ	1週	不定積分	不定積分の定義を理解できる基本的な計算ができる。	
		2週	定積分	定積分(区分求積)の定義や性質が理解できる。	
		3週	微分積分の基本定理	微分積分の基本定理を使って定積分の計算ができることを理解できる。	
		4週	定積分の計算, いろいろな不定積分	偶関数と奇関数の性質を使って定積分の計算ができる。いろいろな不定積分の計算ができる。	
		5週	置換積分とその応用	置換積分を用いて, 不定積分や定積分を求めることができる。	
		6週	部分積分とその応用	部分積分を用いて, 不定積分や定積分を求めることができる。	
		7週	いろいろな関数の積分(1)	分数関数, 無理関数の不定積分や定積分の計算ができる。	
		8週	いろいろな関数の積分(2)	指数関数, 対数関数, 三角関数の不定積分や定積分の計算ができる。	
	4thQ	9週	図形の面積	定積分を用いて, 基本的な曲線で囲まれた図形の面積を計算できる。	

	10週	曲線の長さ, 立体の体積	定積分を用いて, 曲線の長さや基本的な立体の体積を求めることができる.
	11週	回転体の体積, 媒介変数表示による図形	定積分を用いて, 回転体の体積を求めることができる. 媒介変数表示された図形の面積や曲線の長さを求めることができる.
	12週	極座標による図形(1)	極座標による図形の表示を理解できる.
	13週	極座標による図形(2)	極座標による図形の面積や曲線の長さを求めることができる.
	14週	広義積分	広義積分について理解できる.
	15週	変化率と積分	変化率と積分の関係をj用いて数理問題を解くことができる.
	16週	学年未達成度試験	

評価割合

	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	70	0	30	0	0	100
配点	70	0	30	0	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	化学Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	0020		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般科		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 「化学基礎」, 「化学」, 「フォトサイエンス化学図録」 数研出版社				
担当教員	板屋 智之, 滝沢 善洋				
目的・到達目標					
化学の基本的な反応・法則(酸化・還元や化学平衡)と無機化合物(主に金属)の性質や有機化合物の構造と性質を理解し、それらに関する問題を解くことができることで、学習教育目標の(C-1)の達成とする。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
酸化・還元, 化学平衡に関する基本的な反応・法則を説明でき、さらにそれらに関する問題を解くことができる。	酸化・還元, 化学平衡に関する基本的な反応・法則を正しく記述し、さらにそれらに関する基本的・応用問題のほとんどを解くことができる。	酸化・還元, 化学平衡に関する基本的な反応・法則を記述し、さらにそれらに関する基本的問題のほとんどを解くことができる。	酸化・還元, 化学平衡に関する基本的な反応・法則を記述し説明することができず、さらにそれらに関する基本的問題のほとんどを解くことができない。		
無機化合物(主に金属)の性質や有機化合物の構造と性質を説明でき、さらにそれらに関する問題を解くことができる。	無機化合物(主に金属)の性質や有機化合物の構造と性質を正しく記述し、さらにそれらに関する基本的・応用問題のほとんどを解くことができる。	無機化合物(主に金属)の性質や有機化合物の構造と性質を記述し、さらにそれらに関する基本的問題のほとんどを解くことができる。	無機化合物(主に金属)の性質や有機化合物の構造と性質を記述し説明することができず、さらにそれらに関する基本的問題のほとんどを解くことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	酸化・還元, 化学平衡, 無機化合物(主に金属)と有機化合物の構造と性質について学ぶ。				
授業の進め方と授業内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業方法は講義を中心とする。</li> <li>・ 適宜, レポート課題を課すので, 期限に遅れず提出すること。</li> </ul>				
注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;成績評価&gt; 試験(70%)およびレポート課題(30%)の合計100点満点で(C-1)を評価し, 6割以上を獲得した者を合格とする。</li> <li>&lt;オフィスアワー&gt; 毎週水曜日 14:30 ~ 15:20, 管理一般棟1F 化学教員室。この時間にとらわれず必要に応じて来室可。</li> <li>&lt;先修科目・後修科目&gt; 先修科目は化学I, 科学演習・実験となる。</li> <li>&lt;備考&gt; 化学Iの内容を理解できていること。</li> </ul>				
授業計画					
前期	1stQ	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
		1週	酸化・還元の定義	電子のやりとりにより酸化・還元を理解できる。	
		2週	酸化数	酸化数を求め、酸化数により酸化・還元を理解できる。	
		3週	酸化還元反応の化学反応式	酸化還元反応の化学反応式を理解できる。	
		4週	金属のイオン化傾向	金属のイオン化傾向とそれの違いによって起こる酸化還元反応(金属の反応性)を理解できる。	
		5週	電池(ダニエル電池と鉛蓄電池)	ダニエル電池と鉛蓄電池(二次電池)の原理を理解し、代表的な一次電池と二次電池の種類を説明できる。	
		6週	電気分解(1)	電気分解で起きる反応を理解できる。	
		7週	電気分解(2)	ファラデーの法則を用いた計算ができ、電気分解の実社会や化学工業における利用例を理解できる。	
	8週	化学反応の進み方	化学反応の進み方と化学反応に影響する条件を理解できる。		
	2ndQ	9週	化学平衡と平衡定数	化学平衡(平衡反応)を理解し、平衡定数を用いた計算ができる。	
		10週	化学平衡の移動(ルシャトリエの原理)	ルシャトリエの原理を理解できる。	
		11週	アルカリ金属・アルカリ土類金属	アルカリ金属とアルカリ土類金属の性質と生活とのかわりを理解できる。	
		12週	両性金属(アルミニウム)	両性金属の性質と生活とのかわりを理解できる。	
		13週	遷移金属(鉄)	遷移金属の一般的性質、特に鉄の性質と生活とのかわりを理解できる。	
		14週	金属イオンの反応と分析	金属イオンの反応を理解できる。	
		15週	ハロゲン	ハロゲンの性質と生活とのかわりを理解できる。	
16週		前期末達成度試験			
後期	3rdQ	1週	有機化合物と構造式	有機化合物を構造式で表すことができる。	
		2週	アルカン	アルカンの命名と構造について理解できる。	
		3週	アルケン	アルケンの命名と構造について理解できる。	
		4週	有機化学反応(置換反応と付加反応)	アルカンとアルケンの反応を理解できる。	
		5週	アルキン・酸素を含む化合物(1)	アルキンの命名と構造や酸素を含む化合物の命名を理解できる。	
		6週	酸素を含む化合物(2)	アルコールの構造と性質(反応)を理解できる。	
		7週	酸素を含む化合物(3)	アルデヒドの性質(反応)とカルボン酸の性質を理解できる。	
		8週	エステル(油脂)	油脂の構造と性質が理解できる。	



4thQ	9週	エステル（油脂）のけん化とセッケン	セッケンの性質と生活とのかかわり，さらに環境へのリスクを理解できる。
	10週	芳香族化合物（1）	ベンゼン等の構造と性質，さらにベンゼンの反応を理解できる。
	11週	芳香族化合物（2）	フェノール・ベンゼンカルボン酸等の構造と性質を理解できる。
	12週	窒素を含んだ化合物	アミン・ポリアミド・アミノ酸の構造と性質を理解できる。
	13週	天然高分子	天然高分子（タンパク質等）の構造と性質を理解できる。
	14週	合成高分子	汎用プラスチックの構造と性質，さらにそれらの生活とのかかわりを理解できる。
	15週	有機化合物の分析	元素分析データから組成式や分子式を求めることができる。
	16週	学年末達成度試験	

評価割合

	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	30	0	100
配点	70	0	0	30	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	物理Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	0021		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般科		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	【教科書】A:「初歩から学ぶ基礎物理学 力学I」大日本図書, 「力学I 問題集」大日本図書, B:「初歩から学ぶ基礎物理学 電磁気・原子」大日本図書, C:「初歩から学ぶ基礎物理学 熱・波動」大日本図書, D:「ニューグローバル物理基礎+物理」東京書籍, E:「フォトサイエンス物理図録」数研出版 / 【参考書】「基礎物理学」学術図書出版社				
担当教員	柳沼 晋				
目的・到達目標					
円運動や単振動を表現し、これらの運動を引き起こす力の性質を説明できること。電気現象を理解し、電場や電位の概念を用いて説明できること。波動現象を理解し、波に特有の回折・干渉を適用して音波や光波の諸性質を説明できること。これらの内容を満足することで、学習・教育目標の(C-1)の達成とする。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
円運動・単振動に関する評価項目	円運動や単振動の表現、これらの運動を引き起こす力の性質の説明が十分にできる	円運動や単振動の表現、これらの運動を引き起こす力の性質の説明が6割程度できる	円運動や単振動の表現、これらの運動を引き起こす力の性質の説明ができない		
電気現象に関する評価項目	電気現象の理解、電場や電位の概念を用いた説明が十分にできる	電気現象の理解、電場や電位の概念を用いた説明が6割程度できる	電気現象の理解、電場や電位の概念を用いた説明ができない		
波動現象に関する評価項目	波動現象の理解、波に特有の回折・干渉を適用した音波や光波の諸性質の説明が十分にできる	波動現象の理解、波に特有の回折・干渉を適用した音波や光波の諸性質の説明が6割程度できる	波動現象の理解、波に特有の回折・干渉を適用した音波や光波の諸性質の説明ができない		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	(1) 1学年で学んだ力学を拡張する。平面的な運動の記述を行い、周期的な運動を導く。(2) 電磁気学の基礎を学び始める。具体的には電場、電位、コンデンサーについて学ぶ。(3) 振動の続きとして、波動を学習する。波に関する基本的知識を身に付け、その考え方を音波および光波の性質に応用する。				
授業の進め方と授業内容・方法	・ 授業方法は、概要説明と例題演習（グループワークを含む）とを繰り返しながら、最後に確認テストなどで振り返る。 ・ 適時、レポート課題を課すので、期限内に提出すること。				
注意点	<成績評価> 試験（70%）、授業中の問題演習・小テストおよびレポート課題（30%）の合計100点満点で(C-1)を評価し、評価結果60点以上を合格とする。 <オフィスアワー> 水曜日 16:00~17:00、電気電子・機械工学科棟3F 313柳沼教員室（必要に応じて入室可）。 <先修科目・後修科目> 先修科目: 物理Ⅰ、科学演習・実験、後修科目: 応用物理Ⅰ <備考> 物理Ⅰの学習内容が習得できていることを前提とする。教科書DやEを有効に活用し、復習を習慣付けること。その際、途中の計算式や考え方を重視した問題演習を積み重ねることが大切である。				
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	等速円運動とその速度・加速度 (教科書A: pp. 118-122)	等速円運動の特徴を理解し、弧度法で表現して、その速度・加速度を説明できる。	
		2週	等速円運動の向心力 (教科書A: pp. 123-124)	等速円運動の向心力を理解し、実際の力を適用して説明できる。	
		3週	万有引力と惑星の運動 (教科書A: pp. 140-146)	等速円運動の応用として万有引力の法則を導出し、それを用いて、惑星や人工衛星の運動を説明できる。	
		4週	万有引力による位置エネルギーと人工衛星 (教科書A: pp. 148-156)	万有引力による位置エネルギーを理解し、それを用いて、人工衛星の運動を説明できる。	
		5週	単振動 (教科書A: pp. 127-132)	単振動の変位、速度、加速度、復元力について説明できる。	
		6週	水平ばね振り子と単振動のエネルギー (教科書A: p. 132, p. 138)	水平ばね振り子の運動を理解し、単振動のエネルギーについて説明できる。	
		7週	鉛直ばね振り子と単振り子 (教科書A: pp. 133-137)	鉛直ばね振り子の運動を理解し、単振動によって、単振り子をはじめとした様々な振動現象を説明できる。	
		8週	慣性力と遠心力 (教科書A: pp. 72-74, pp. 124-126, p. 147)	慣性力が現れる理由を理解し、遠心力について説明できる。それらの応用問題を解くことができる。	
	2ndQ	9週	静電気力 (教科書B: pp. 10-16)	帯電、電荷、電気量保存の法則など、静電気の基本的な性質を理解し、クーロンの法則について説明できる。	
		10週	電場 (教科書B: pp. 17-19)	電場の考え方を理解し、一様な電場から受ける静電気力について説明できる。	
		11週	電位 (教科書B: pp. 30-36)	電位の概念を理解し、一様な電場との関係や静電気力による位置エネルギーについて説明できる。	
		12週	点電荷がつくる電場 (教科書B: pp. 19-23)	クーロンの法則から点電荷がつくる電場を理解し、電場の重ね合わせを用いて、合成電場を計算できる。	
		13週	電気力線と等電位面 (教科書B: pp. 23-24, pp. 36-37)	電気力線の性質を理解し、等電位面との関係について説明できる。	
		14週	点電荷がつくる電位 (教科書B: pp. 37-40)	点電荷がつくる電位を理解し、合成電位を計算できる。	
		15週	ガウスの法則 (教科書B: pp. 24-27)	ガウスの法則を用いて、様々な電荷の電場を求めることができる。	
		16週	前期未達成度試験		
後期	3rdQ	1週	波動 (教科書C: pp. 106-109)	波動現象を理解し、波を表す物理量で表現して、波の基本式を求めることができる。	

4thQ	2週	波の表し方 (教科書C: pp. 109-110, pp. 176-179)	波(特に正弦波)を表す数式やグラフを求めることができる。
	3週	横波と縦波, 合成波 (教科書C: pp. 111-114)	横波と縦波の違いを理解し, 縦波を横波で表示できる。波の独立性および重ね合わせの原理について説明できる。
	4週	反射波と定常波 (教科書C: pp. 114-118)	自由端と固定端による反射の違いを理解し, 定常波について説明できる。
	5週	音波の性質, 固有振動と共振 (教科書C: pp. 130-133, p. 137)	音の三要素を理解し, 固有振動と共振/共鳴について説明できる。
	6週	弦の固有振動 (教科書C: pp. 138-140)	弦の固有振動を理解し, 定常波の考え方で説明できる。
	7週	気柱の固有振動 (教科書C: pp. 140-143, )	気柱の固有振動を理解し, 定常波の考え方で説明できる。
	8週	うなり (教科書C: p. 136)	うなりを理解し, うなりの振動数を計算できる。
	9週	ドップラー効果 (教科書C: pp. 126-128, pp. 144-146)	ドップラー効果(特に音の場合)について説明できる。
	10週	平面波と球面波, 波の干渉 (教科書C: p. 110, pp. 118-120)	平面波と球面波を理解し, 波の干渉について説明できる。
	11週	ホイヘンスの原理, 波の反射, 屈折, 回折 (教科書C: pp. 121-125)	ホイヘンスの原理を理解し, それを用いて, 波の反射, 屈折, 回折の法則を説明できる。
	12週	光波の性質, 反射と屈折 (教科書C: pp. 158-159, pp. 148-153)	光の速度や色, 分散, 偏光を理解し, 光の反射と屈折, 全反射について説明できる。
	13週	光の回折と干渉(1) (教科書C: pp. 153-155)	ヤングの干渉実験について説明できる。
	14週	光の回折と干渉(2) (教科書C: pp. 155-157)	回折格子の原理やニュートンリングについて説明できる。
	15週	幾何光学 (教科書C: pp. 168-172)	レンズと実像・虚像の関係について説明できる。
	16週	学年末達成度試験	

評価割合

	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	70	10	10	10	0	100
配点	70	10	10	10	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	科学演習・実験
科目基礎情報					
科目番号	0022		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般科		対象学年	2	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	教科書:「基礎科学(物理・化学)実験」/参考書:「初歩から学ぶ基礎物理学 力学Ⅰ, 電磁気・原子」大日本図書, 「フォトサイエンス物理図録」, 「フォトサイエンス化学図録」数研出版				
担当教員	板屋 智之, 奥村 紀浩, 滝沢 善洋				
目的・到達目標					
演習についてはすでに学習した知識を使い, 問題を解くことができること. 実験は使用する器具を正確で安全に取り扱えること. 有効数字を考慮してグラフを用いながらデータの整理ができること. 授業で学習した概念を使って実験結果の説明ができること. これらを満足することで, 学習・教育目標である(C-1)の達成とする.					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
本講義における化学演習・実験において	実験器具の正しい使用により, 実験データを導くことができ, それを元に報告書を作成することができる.		実験器具の正しい使用により, 実験データを導くことができ, それを元に報告書を作成することができる程度はできる.		実験器具の正しい使用により, 実験データを導くことができ, それを元に報告書を作成できない.
本講義における物理演習において	物理Ⅰ, Ⅱで学習した内容をもとに演習問題を解くことができる.		物理Ⅰ, Ⅱで学習した内容をもとに演習問題を解くことができる程度はできる.		物理Ⅰ, Ⅱで学習した内容をもとに演習問題を解くことができない.
本講義における物理学実験において	実験器具の正しい使用により, 実験データを導くことができ, それを元に報告書を作成することができる.		実験器具の正しい使用により, 実験データを導くことができ, それを元に報告書を作成することができる程度はできる.		実験器具の正しい使用により, 実験データを導くことができ, それを元に報告書を作成できない.
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	本授業では物理や化学の授業を通して得た数々の知識を, さまざまな演習問題を解くこと, 実験実習を行なうことで定着させる.				
授業の進め方と授業内容・方法	演習の日と実験の日がある. クラス毎の予定は最初の授業日に配布する. 演習の日は指定された演習問題を解き, レポートとして提出する. 実験の日は実験室に移動し, 指定の実験を行なう. レポートも提出する.				
注意点	<成績評価> 化学のレポート全体を40点満点, 物理のレポート全体を60点満点の合計100点満点で(C-1)を評価し, 合計の6割以上を獲得した者を合格とする. なお化学, 物理のレポートはそれぞれ演習と実験のレポートを含む. <オフィスアワー> 毎週水曜日14:30 ~ 15:30, 機械工学科棟2F 化学実験準備室(板屋), 管理一般棟1F化学教員室(滝沢)もしくは3F 物理教員室(奥村). この時間にとらわれず必要に応じて入室可. <先修科目・後修科目> 先修科目は化学Ⅰ, 物理Ⅰ, 後修科目は化学Ⅱ, 物理Ⅱ. <備考> 化学Ⅱ, 物理Ⅱの授業と連携を取って演習, 実験を行なう.				
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	化学演習 1	化学実験の基礎知識と事故への対処の方法を理解する. また, 今後の化学実験において, 測定器具の精度を理解し, 測定値の取り扱いとレポートを作成できる.	
		2週	物理演習 1	測定値の取り扱いを学ぶ.	
		3週	物理演習 2	物理学Ⅰの復習を行なう.	
		4週	物理演習 3	物理学Ⅰの復習を行なう.	
		5週	物理演習 4	物理学Ⅱの内容について演習を行なう.	
		6週	物理演習 5	物理学Ⅱの内容について演習を行なう.	
		7週	物理演習 6	物理学Ⅱの内容について演習を行なう.	
		8週	再結晶とガラス細工	硝酸カリウムの再結晶の実験とガラス細工を行なう. この実験ではガラス器具の取り扱いと吸引の仕方を学ぶ.	
	2ndQ	9週	酸・塩基滴定	中和滴定により食酢の濃度決定を行なう. この実験では食酢水溶液を調製し, 目的に応じて実験器具を選択し, 正しく使うことを学ぶ.	
		10週	ニッケルメッキ	電気分解を利用したニッケルメッキを行なう. この実験では電極における反応(金属の析出, 気体の発生)を確認し, ファラデーの法則を学ぶ.	
		11週	カルシウムの化合物	カルシウム化合物の性質に関する実験を行なう. 反応による気体(二酸化炭素)発生を確認し, その捕集方法を学ぶ. さらに, 他の気体発生方法についても調べる.	
		12週	金属塩の推定	金属イオンの沈殿反応(代表的な無機化学反応)を行ない, 溶液の中に含まれる金属塩を推定する.	
		13週	密度の測定	金属材料の密度を測定し, その材質を判定する. その際, 測定器の使用法や有効数字の取り扱いを学ぶ.	
		14週	速度・加速度の測定	コンピュータとセンサー技術を活用した実験を行ない, 速度や加速度の概念を実感する.	
		15週	単振り子の周期	単振り子の周期を測定し, それが何に依存しているのかを調べる. このときグラフの描き方, 活用の仕方を学ぶ.	
		16週			
評価割合					

	化学レポート	物理レポート (演習も含む)	平常点	その他	合計
総合評価割合	40	60	0	0	100
配点	40	60	0	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	国語Ⅲ (機械)	
科目基礎情報							
科目番号	0063		科目区分	一般 / 必修			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	一般科		対象学年	3			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	・教科書『精選現代文B 新訂版』(大修館書店)(2学年次に使用した教科書と同じ), 漢字テスト関係資料(開講時にプリントで配布)						
担当教員	西 一夫						
目的・到達目標							
・高等学校卒業程度の現代文の国語力を身につけることで, 学習・教育目標(A-1)の達成とする。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	論理的文章の論理の展開を理解し, 要旨を把握することができる。		論理的文章の文意を理解できる。		論理的文章が理解できない。		
評価項目2	文学的文章について, 書き手の意図を理解することができる。		文学的文章の場面や情景を想像でき, 登場人物の心情を理解することができる。		文学的文章が理解できない。		
評価項目3	自らの語彙を知的好奇心をもって, 積極的に増やすことができる。		基本的な語彙が理解できる。		基本的な語彙力がない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	論理的文章を客観的に理解する能力と, 文学的文章を読解し鑑賞する能力を育成する。						
授業の進め方と授業内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義と, それについての課題を課す。</li> <li>・適宜, 宿題やノート提出を課すので, 期限内に遅れず提出すること。</li> <li>・授業開始時に小テスト(漢字テスト)を実施する。</li> </ul>						
注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;成績評価&gt; 試験(80%)および小テストなど(20%)の合計100点満点で(A-1)を評価し, 合計の6割以上を獲得した者を合格とする。</li> <li>&lt;オフィスアワー&gt; 授業時間時に対応する。</li> <li>&lt;先修科目・後修科目&gt; 先修科目は国語Ⅱ, 後修科目は国語Ⅳ, 文学。</li> <li>&lt;備考&gt; 意見や感想の表明などは, 授業または提出物などで適宜行う。</li> </ul>						
授業計画							
		週	授業内容・方法		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス 世界は、いま―「多文化世界」の構築(評論)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目の目的や概要などについて理解できる。</li> <li>・文章の構成が理解できる。</li> </ul>		
		2週	世界は、いま―「多文化世界」の構築(評論)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・論理構成が理解できる。</li> <li>・抽象的な論理と具体例とが区別できる。</li> </ul>		
		3週	こころは見える?(評論)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・論理展開が理解できる。</li> <li>・筆者の主張が理解できる。</li> </ul>		
		4週	こころは見える?(評論)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の主張を適切に要約できる。</li> <li>・批判的に読むことができる。</li> </ul>		
		5週	実体の美と状況の美(評論)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化背景を理解して読むことができる。</li> <li>・比較文化論について理解できる。</li> </ul>		
		6週	実体の美と状況の美(評論)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・キーワードが理解できる。</li> <li>・日本の独自美を把握することができる。</li> </ul>		
		7週	猫は後悔するか(評論)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の考えを適切に理解できる。</li> <li>・筆者の考えに対して批判的に考えを記述することができる。</li> </ul>		
		8週	猫は後悔するか(評論)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・評論としての論理構成を整理できる。</li> <li>・筆者の主張の正当性を理解できる。</li> </ul>		
	2ndQ	9週	短歌(韻文)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・短歌の表現を適切に理解できる。</li> <li>・表現の特徴を理解して批評できる。</li> </ul>		
		10週	こころ(小説)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・描写された場面をとおして, 人物や情景を理解できる。</li> </ul>		
		11週	こころ(小説)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品の主題が理解できる。</li> </ul>		
		12週	こころ(小説)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品に対して感想を述べることができる。</li> </ul>		
		13週	日本文化の三つの時間(評論)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本文化論を適切に理解できる。</li> <li>・筆者の考えに対して意見を記述することができる。</li> </ul>		
		14週	日本文化の三つの時間(評論)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習成果を受けて評論の読み方を深めることができる。</li> </ul>		
		15週	昔の光(随筆)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで学習成果を活かして教材を読み, 批評することができる。</li> </ul>		
		16週					
評価割合							
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計	
総合評価割合	80	0	0	0	0	80	
配点	80	20	0	0	0	80	

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	国語Ⅲ (電気)	
科目基礎情報						
科目番号	0064	科目区分	一般 / 必修			
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	一般科	対象学年	3			
開設期	前期	週時間数	2			
教科書/教材	・教科書『精選現代文B 新訂版』(大修館書店)(2学年次に使用した教科書と同じ), 漢字テスト関係資料(開講時にプリントで配布)					
担当教員	西 一夫					
目的・到達目標						
・高等学校卒業程度の現代文の国語力を身につけることで, 学習・教育目標(A-1)の達成とする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1	論理的文章の論理の展開を理解し, 要旨を把握することができる。	論理的文章の文意を理解できる。	論理的文章が理解できない。			
評価項目2	文学的文章について, 書き手の意図を理解することができる。	文学的文章の場面や情景を想像でき, 登場人物の心情を理解することができる。	文学的文章が理解できない。			
評価項目3	自らの語彙を知的好奇心をもって, 積極的に増やすことができる。	基本的な語彙が理解できる。	基本的な語彙力がない。			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	論理的文章を客観的に理解する能力と, 文学的文章を読解し鑑賞する能力を育成する。					
授業の進め方と授業内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義と, それについての課題を課す。</li> <li>・適宜, 宿題やノート提出を課すので, 期限内に遅れず提出すること。</li> <li>・授業開始時に小テスト(漢字テスト)を実施する。</li> </ul>					
注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;成績評価&gt; 試験(80%)および小テストなど(20%)の合計100点満点で(A-1)を評価し, 合計の6割以上を獲得した者を合格とする。</li> <li>&lt;オフィスアワー&gt; 授業時間時に対応する。</li> <li>&lt;先修科目・後修科目&gt; 先修科目は国語Ⅱ, 後修科目は国語Ⅳ, 文学。</li> <li>&lt;備考&gt; 意見や感想の表明などは, 授業または提出物などで適宜行う。</li> </ul>					
授業計画						
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス 世界は、いま―「多文化世界」の構築(評論)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目の目的や概要などについて理解できる。</li> <li>・文章の構成が理解できる。</li> </ul>		
		2週	世界は、いま―「多文化世界」の構築(評論)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・論理構成が理解できる。</li> <li>・抽象的な論理と具体例とが区別できる。</li> </ul>		
		3週	こころは見える?(評論)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・論理展開が理解できる。</li> <li>・筆者の主張が理解できる。</li> </ul>		
		4週	こころは見える?(評論)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の主張を適切に要約できる。</li> <li>・批判的に読むことができる。</li> </ul>		
		5週	実体の美と状況の美(評論)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化背景を理解して読むことができる。</li> <li>・比較文化論について理解できる。</li> </ul>		
		6週	実体の美と状況の美(評論)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キーワードが理解できる。</li> <li>・日本の独自美を把握することができる。</li> </ul>		
		7週	猫は後悔するか(評論)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の考えを適切に理解できる。</li> <li>・筆者の考えに対して批判的に考えを記述することができる。</li> </ul>		
		8週	猫は後悔するか(評論)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評論としての論理構成を整理できる。</li> <li>・筆者の主張の正当性を理解できる。</li> </ul>		
	2ndQ	9週	短歌(韻文)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短歌の表現を適切に理解できる。</li> <li>・表現の特徴を理解して批評できる。</li> </ul>		
		10週	こころ(小説)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・描写された場面をとおして, 人物や情景を理解できる。</li> </ul>		
		11週	こころ(小説)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品の主題が理解できる。</li> </ul>		
		12週	こころ(小説)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品に対して感想を述べることができる。</li> </ul>		
		13週	日本文化の三つの時間(評論)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本文化論を適切に理解できる。</li> <li>・筆者の考えに対して意見を記述することができる。</li> </ul>		
		14週	日本文化の三つの時間(評論)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習成果を受けて評論の読み方を深めることができる。</li> </ul>		
		15週	昔の光(随筆)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで学習成果を活かして教材を読み, 批評することができる。</li> </ul>		
		16週				
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	80
配点	80	20	0	0	0	80

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	国語Ⅲ (制御)	
科目基礎情報						
科目番号	0065		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般科		対象学年	3		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	・教科書『精選現代文B 新訂版』(大修館書店)(2学年次に使用した教科書と同じ), 漢字テスト関係資料(開講時にプリントで配布)					
担当教員	西 一夫					
目的・到達目標						
・高等学校卒業程度の現代文の国語力を身につけることで, 学習・教育目標(A-1)の達成とする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1	論理的文章の論理の展開を理解し, 要旨を把握することができる。	論理的文章の文意を理解できる。	論理的文章が理解できない。			
評価項目2	文学的文章について, 書き手の意図を理解することができる。	文学的文章の場面や情景を想像でき, 登場人物の心情を理解することができる。	文学的文章が理解できない。			
評価項目3	自らの語彙を知的好奇心をもって, 積極的に増やすことができる。	基本的な語彙が理解できる。	基本的な語彙力がない。			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	論理的文章を客観的に理解する能力と, 文学的文章を読解し鑑賞する能力を育成する。					
授業の進め方と授業内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義と, それについての課題を課す。</li> <li>・適宜, 宿題やノート提出を課すので, 期限内に遅れず提出すること。</li> <li>・授業開始時に小テスト(漢字テスト)を実施する。</li> </ul>					
注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;成績評価&gt; 試験(80%)および小テストなど(20%)の合計100点満点で(A-1)を評価し, 合計の6割以上を獲得した者を合格とする。</li> <li>&lt;オフィスアワー&gt; 授業時間時に対応する。</li> <li>&lt;先修科目・後修科目&gt; 先修科目は国語Ⅱ, 後修科目は国語Ⅳ, 文学。</li> <li>&lt;備考&gt; 意見や感想の表明などは, 授業または提出物などで適宜行う。</li> </ul>					
授業計画						
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス 世界は、いま―「多文化世界」の構築(評論)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目の目的や概要などについて理解できる。</li> <li>・文章の構成が理解できる。</li> </ul>		
		2週	世界は、いま―「多文化世界」の構築(評論)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・論理構成が理解できる。</li> <li>・抽象的な論理と具体例とが区別できる。</li> </ul>		
		3週	こころは見える?(評論)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・論理展開が理解できる。</li> <li>・筆者の主張が理解できる。</li> </ul>		
		4週	こころは見える?(評論)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の主張を適切に要約できる。</li> <li>・批判的に読むことができる。</li> </ul>		
		5週	実体の美と状況の美(評論)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化背景を理解して読むことができる。</li> <li>・比較文化論について理解できる。</li> </ul>		
		6週	実体の美と状況の美(評論)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キーワードが理解できる。</li> <li>・日本の独自美を把握することができる。</li> </ul>		
		7週	猫は後悔するか(評論)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の考えを適切に理解できる。</li> <li>・筆者の考えに対して批判的に考えを記述することができる。</li> </ul>		
		8週	猫は後悔するか(評論)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評論としての論理構成を整理できる。</li> <li>・筆者の主張の正当性を理解できる。</li> </ul>		
	2ndQ	9週	短歌(韻文)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短歌の表現を適切に理解できる。</li> <li>・表現の特徴を理解して批評できる。</li> </ul>		
		10週	こころ(小説)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・描写された場面をとおして, 人物や情景を理解できる。</li> </ul>		
		11週	こころ(小説)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品の主題が理解できる。</li> </ul>		
		12週	こころ(小説)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品に対して感想を述べることができる。</li> </ul>		
		13週	日本文化の三つの時間(評論)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本文化論を適切に理解できる。</li> <li>・筆者の考えに対して意見を記述することができる。</li> </ul>		
		14週	日本文化の三つの時間(評論)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習成果を受けて評論の読み方を深めることができる。</li> </ul>		
		15週	昔の光(随筆)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで学習成果を活かして教材を読み, 批評することができる。</li> </ul>		
		16週				
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	80
配点	80	20	0	0	0	80



長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	国語Ⅲ (情報)	
科目基礎情報						
科目番号	0066		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般科		対象学年	3		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	・教科書『精選現代文B 新訂版』(大修館書店)(2学年次に使用した教科書と同じ), 漢字テスト関係資料(随時プリントで配布)					
担当教員	友田 義行					
目的・到達目標						
・高等学校卒業程度の現代文の国語力を身につけることで, 学習・教育目標(A-1)の達成とする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1	論理的文章の論理の展開を理解し, 要旨を把握することができる。	論理的文章の文意を理解できる。	論理的文章が理解できない。			
評価項目2	文学的文章について, 書き手の意図を理解することができる。	文学的文章の場面や情景を想像でき, 登場人物の心情を理解することができる。	文学的文章が理解できない。			
評価項目3	自らの語彙を知的好奇心をもって, 積極的に増やすことができる。	基本的な語彙が理解できる。	基本的な語彙力がない。			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	論理的文章を客観的に理解する能力と, 文学的文章を読解し鑑賞する能力を育成する。					
授業の進め方と授業内容・方法	・講義と, それについての課題を課す。 ・適宜, 宿題やノート提出を課すので, 期限に遅れず提出すること。					
注意点	<成績評価> 試験(80%)およびプレゼンテーションや課題など(20%)の合計100点満点で(A-1)を評価し, 合計の6割以上を獲得した者を合格とする。 <オフィスアワー> 授業の前後 <先修科目・後修科目> 先修科目は国語Ⅱ, 後修科目は国語Ⅳ, 文学。 <備考> 意見や感想の表明などは, 授業または提出物などで適宜行う。					
授業計画						
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	ガイダンス 評論 1-1	・本科目の目的や概要などについて理解できる。 ・正しい音読ができる。 ・筆者の考えと一般論が区別できる。		
		2週	評論 1-2	・抽象的な論理と具体例とが区別できる。		
		3週	評論 1-3	・論理がどのように展開しているかが理解できる。		
		4週	評論 1-4	・文章を要約できる。 ・筆者の考えに対して, 自分の意見を述べることができる。		
		5週	小説 1-1	・正しい音読ができる。 ・作品の展開にそった段落分けができる。		
		6週	小説 1-2	・描写された場面をとおして, 人物や情景を理解できる。 ・作品に対する感想を述べることができる。		
		7週	小説 1-3	・作品の主題が理解できる。		
		8週	これまでの理解度の確認	・これまでの学習内容について, 理解できている。		
	2ndQ	9週	評論 2-1	・正しい音読ができる。 ・筆者の考えと一般論が区別できる。		
		10週	評論 2-2	・キーワードが理解できる。 ・接続詞などから論理の展開を理解することができる。		
		11週	評論 2-3	・筆者の考えに対して, 自分の意見や感想を述べることができる。		
		12週	小説 2-1	・正しい音読ができる。 ・物語のあらすじをつかむことができる。		
		13週	小説 2-2	・描写された場面をとおして, 人物や情景を理解できる。 ・作品に対する感想を述べることができる。		
		14週	小説 2-3	・作品の主題が理解できる。		
		15週	小説 2-4	・これまで学習した小説の読み方を深め, より確実なものとする。		
		16週				
評価割合						
	試験	小テスト	課題点	プレゼンテーション	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	100
配点	80	0	0	0	20	100

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	国語Ⅲ (環境)	
科目基礎情報						
科目番号	0067		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般科		対象学年	3		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	・教科書『精選現代文B 新訂版』(大修館書店)(2学年次に使用した教科書と同じ), 漢字テスト関係資料(随時プリントで配布)					
担当教員	友田 義行					
目的・到達目標						
・高等学校卒業程度の現代文の国語力を身につけることで, 学習・教育目標(A-1)の達成とする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1	論理的文章の論理の展開を理解し, 要旨を把握することができる。	論理的文章の文意を理解できる。	論理的文章が理解できない。			
評価項目2	文学的文章について, 書き手の意図を理解することができる。	文学的文章の場面や情景を想像でき, 登場人物の心情を理解することができる。	文学的文章が理解できない。			
評価項目3	自らの語彙を知的好奇心をもって, 積極的に増やすことができる。	基本的な語彙が理解できる。	基本的な語彙力がない。			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	論理的文章を客観的に理解する能力と, 文学的文章を読解し鑑賞する能力を育成する。					
授業の進め方と授業内容・方法	・講義と, それについての課題を課す。 ・適宜, 宿題やノート提出を課すので, 期限に遅れず提出すること。					
注意点	<成績評価> 試験(80%)およびプレゼンテーションや課題など(20%)の合計100点満点で(A-1)を評価し, 合計の6割以上を獲得した者を合格とする。 <オフィスアワー> 授業の前後 <先修科目・後修科目> 先修科目は国語Ⅱ, 後修科目は国語Ⅳ, 文学。 <備考> 意見や感想の表明などは, 授業または提出物などで適宜行う。					
授業計画						
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス 評論 1-1	・本科目の目的や概要などについて理解できる。 ・正しい音読ができる。 ・筆者の考えと一般論が区別できる。		
		2週	評論 1-2	・抽象的な論理と具体例とが区別できる。		
		3週	評論 1-3	・論理がどのように展開しているかが理解できる。		
		4週	評論 1-4	・文章を要約できる。 ・筆者の考えに対して, 自分の意見を述べることができる。		
		5週	小説 1-1	・正しい音読ができる。 ・作品の展開にそった段落分けができる。		
		6週	小説 1-2	・描写された場面をとおして, 人物や情景を理解できる。 ・作品に対する感想を述べることができる。		
		7週	小説 1-3	・作品の主題が理解できる。		
		8週	これまでの理解度の確認	・これまでの学習内容について, 理解できている。		
	2ndQ	9週	評論 2-1	・正しい音読ができる。 ・筆者の考えと一般論が区別できる。		
		10週	評論 2-2	・キーワードが理解できる。 ・接続詞などから論理の展開を理解することができる。		
		11週	評論 2-3	・筆者の考えに対して, 自分の意見や感想を述べるすることができる。		
		12週	小説 2-1	・正しい音読ができる。 ・物語のあらすじをつかむことができる。		
		13週	小説 2-2	・描写された場面をとおして, 人物や情景を理解できる。 ・作品に対する感想を述べることができる。		
		14週	小説 2-3	・作品の主題が理解できる。		
		15週	小説 2-4	・これまで学習した小説の読み方を深め, より確実なものとする。		
		16週				
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	100
配点	80	0	0	0	20	100

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	現代社会	
科目基礎情報						
科目番号	0068	科目区分	一般 / 必修			
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	一般科	対象学年	3			
開設期	前期	週時間数	2			
教科書/教材	『現代社会』 (東京書籍) / 『新編 テーマ別資料 現代社会』 (とうほう) / 授業で配布するプリント					
担当教員	鬼頭 葉子					
目的・到達目標						
本授業では、現代社会における問題や身近な出来事を取り上げ、その出来事の思想的背景も踏まえつつ、政治・法・経済・社会問題などについて学びます。それらの知識をもとに、どのような社会をつくっていったらよいか、自分で具体的な根拠をもとに考えられることによって、学習教育目標の (A-1) の達成とします。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1	憲法と法の基本的な概念をよく理解し、明確に説明することができる。	憲法と法の基本的な概念を理解し、説明することができる。	憲法と法の基本的な概念について、理解・説明ができない。			
評価項目2	政治・社会問題をよく把握し、今後の社会の課題を自ら見つけ、解決策を提案することができる。	政治・社会問題を把握し、社会にどのような課題があるか説明できる。	政治・社会問題の把握・説明ができない。			
評価項目3	経済や財政の構造をよく理解し、説明することができる。	経済や財政の構造を概ね理解し、説明することができる。	経済や財政の構造について、理解・説明ができない。			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	現代社会が抱える政治・法・経済・社会に関する諸問題を取り上げ、それらの問題の思想的背景や歴史的背景にも注目しつつ学ぶ。					
授業の進め方と授業内容・方法	授業方法は講義を中心とし、ノートに講義内容へのコメントや指定された内容の課題を記入して提出する。					
注意点	<成績評価> 中間試験と平常点(50%)、学期末試験と平常点(50%)の合計100点満点で (A-1) を評価し、評価結果60点以上を合格とする。 <オフィスアワー> 講義後に対応する。 <先修科目・後修科目> 先修科目: 世界史、日本史、後修科目: 倫理学					
授業計画						
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	現代社会の特質	少子高齢化、男女共同参画など日本の現代社会の問題について理解できる。		
		2週	基本的人権と立憲主義	民主政治の歴史的展開と立憲主義について理解できる。		
		3週	日本国憲法の基本原理	日本国憲法の基本原理を理解できる。		
		4週	基本的人権の保障	日本国憲法における人権保障と国民の権利について理解できる。		
		5週	平和主義と安全保障	日本国憲法の平和主義と安全保障の関係について理解できる。		
		6週	日本の政治機構 (1) 立法・行政	立法府 (国会) と行政府 (内閣) との関係について理解できる。		
		7週	日本の政治機構 (2) 司法・地方自治	司法府 (裁判所) および地方自治について理解できる。		
		8週	理解度の確認	第7週までの内容を適切に理解し表現できる。		
	2ndQ	9週	選挙制度と政党	日本の選挙方法と政党政治の流れを理解できる。		
		10週	世論と政治	社会の中における主権者としてのあり方を理解できる。		
		11週	経済のしくみ	資本主義経済のあり方と企業のあり方について理解できる。		
		12週	政府の役割と財政	税金のしくみと日本財政の課題について理解できる。		
		13週	労働者の権利	労働者の権利はどのように守られているのかについて理解できる。		
		14週	社会保障の役割	日本の社会保障 (医療・年金など公的扶助) を理解し、その課題について考察できる。		
		15週	戦後国際政治の動向と日本の役割	戦後の国際政治の流れをつかみ、日本の国際社会における役割を理解できる。		
		16週				
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	80	0	20	100	配点	80

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	保健・体育Ⅲ
科目基礎情報					
科目番号	0069		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般科		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	参考書: 最新スポーツルール指定の運動着, Tシャツ, ポロシャツ, 専用シューズ(体育館, テニス).				
担当教員	児玉 英樹, 内山 了治, 篠原 克修				
目的・到達目標					
事前の準備やウォーミングアップ, 事後の片付けやクーリングダウンを積極的に行い, 運動に適した服装や態度の重要性を理解した上で, 各授業項目(各種目)について, 自主的かつ意欲的に活動に取り組める。これらの内容を満足することで, 学習・教育目標の(A-2)の達成とする。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	準備・活動の場面において、自己および仲間のとるべき行動を判断し、適切に働きかけながら、主体的に活動できる。	準備・活動の場面において、自己のとるべき行動を判断し、仲間と協力しながら活動できる。	準備・活動の場面において、自己のとるべき行動を判断できない。 ・仲間との協力や活動への自主的な参加ができない。		
評価項目2	自己の能力を理解し、適切な運動技能、運動強度を判断し、応用的技能の習得や体力向上をはかることができる。	教員が指示した運動課題に従い、運動の基本技術や体力を身につけることができる。	教員の指示に従わず、運動の基本技術や体力を身につけることができない。		
評価項目3	自己や周囲の安全に留意しながら活動し、必要に応じて危険を回避する行動や、周囲への声かけができる。	自己の安全に留意しながら活動し、必要に応じて危険を回避する行動を取ることができる。	安全に留意しながら活動することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	各種運動の合理的実践を通して、運動種目に内在する固有の楽しさや喜びを体得し、運動に親しむ能力や態度を養う。また、現代社会における健康に関わる諸問題、生活スタイルの変化に伴う無意識的な運動機会の減少(体力低下)やその防止策について理解を深める。				
授業の進め方と授業内容・方法	授業方法は、実技が中心となるが、必要に応じてレポート等の課題を課す場合がある。				
注意点	<p>&lt;成績評価&gt; 上記(到達目標)に従い、100点満点で(A-2)を評価し、合計の6割以上獲得した者をこの科目の合格者とする。</p> <p>&lt;オフィスアワー&gt; 毎週火曜日16:00~17:00, 内山: 第1体育館, グラウンド, 児玉: 第1体育館, 小川: 第2体育館・武道館・グラウンド, 篠原(非常勤講師): 授業の前後に聞いて下さい。緊急の場合は体育教員が対応します。</p> <p>&lt;先修科目・後修科目&gt; 先修科目: 保健・体育II 後修科目: スポーツI</p> <p>&lt;備考&gt; やむを得ない理由により欠課時数が6時間を超えてしまった場合には、申し出により補習を行うことがあるがその場合でも欠課時数の合計が、総授業時数の1/5以内を目安とする。 グラウンド改修工事が予定されており、授業内容が変更になることがある。</p>				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	体操①	・身体的緊張をほぐす各種体操を意欲的に行える。 ・ストレッチ, 補強運動等の具体的方法の理解と実践ができる。	
		2週	スポーツテスト①	・文部科学省スポーツテストを行う。 ・運動能力, 体力の実態把握と課題設定。	
		3週	スポーツテスト②	"	
		4週	種目選択I(テニス・ソフトボール・サッカー)①	<p>&lt;テニス&gt; ストローク, ボレー, スマッシュ, サービスなど, W-ゲームの把握。 &lt;ソフトボール&gt; バッティング, 守備, ルールの理解など。 &lt;サッカー&gt; 各種キック, トラッピング, ヘディング, ポジション毎の戦術理解など。</p>	
		5週	種目選択I(テニス・ソフトボール・サッカー)②	"	
		6週	種目選択I(テニス・ソフトボール・サッカー)③	"	
		7週	種目選択I(テニス・ソフトボール・サッカー)④	"	
		8週	種目選択I(テニス・ソフトボール・サッカー)⑤	"	
	2ndQ	9週	種目選択I(テニス・ソフトボール・サッカー)⑥	"	
		10週	種目選択I(テニス・ソフトボール・サッカー)⑦	"	
		11週	種目選択I(テニス・ソフトボール・サッカー)⑧	"	
		12週	種目選択II(バレーボール・卓球・バドミントン・バスケットボール・トレーニングなど)①	<p>&lt;球技系種目&gt; 基本的技術・戦術の習得。 &lt;トレーニング&gt; 各種トレーニングの理解と実践, ウェイトトレーニング, 自転車を利用したトレーニングなど。</p>	
		13週	種目選択II(バレーボール・卓球・バドミントン・バスケットボール・トレーニングなど)②	"	
		14週	種目選択II(バレーボール・卓球・バドミントン・バスケットボール・トレーニングなど)③	"	
		15週	種目選択II(バレーボール・卓球・バドミントン・バスケットボール・トレーニングなど)④	"	
		16週			

後期	3rdQ	1週	種目選択Ⅲ(テニス・卓球・サッカーなど)①	基本的技術・戦術の習得.
		2週	種目選択Ⅲ(テニス・卓球・サッカーなど)②	"
		3週	種目選択Ⅲ(テニス・卓球・サッカーなど)③	"
		4週	種目選択Ⅲ(テニス・卓球・サッカーなど)④	"
		5週	持久走① 種目選択Ⅲ(テニス・卓球・サッカーなど)⑤	・持久走：学校外周（3.34km）・・・3回. ・球技：基本的技術・戦術の習得.
		6週	持久走② 種目選択Ⅲ(テニス・卓球・サッカーなど)⑥	"
		7週	持久走③ 種目選択Ⅲ(テニス・卓球・サッカーなど)⑦	"
		8週	スケート①	Mウェーブにて実施. 各自の技量に合わせた目標を立て実践する.
	4thQ	9週	種目選択Ⅳ(バレーボール・バスケットボール・トレーニングなど)①	<球技系種目> 基本的技術・戦術の習得. <トレーニング> 各種トレーニングの理解と実践, ウェイトトレーニング, 自転車を利用したトレーニングなど.
		10週	種目選択Ⅳ(バレーボール・バスケットボール・トレーニングなど)②	"
		11週	種目選択Ⅳ(バレーボール・バスケットボール・トレーニングなど)③	"
		12週	種目選択Ⅳ(バレーボール・バスケットボール・トレーニングなど)④	"
		13週	種目選択Ⅳ(バレーボール・バスケットボール・トレーニングなど)⑤	"
		14週	種目選択Ⅳ(バレーボール・バスケットボール・トレーニングなど)⑥	"
		15週	種目選択Ⅳ(バレーボール・バスケットボール・トレーニングなど)⑦	"
		16週		

評価割合						
	試験	技能	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	0	60	40	0	0	100
配点	0	60	40	0	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	日本語 (留学生対象)
科目基礎情報					
科目番号	0071		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般科		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	アスク『日本語能力試験対策日本語総まとめ N2漢字』くろしお出版『読む力 中級』(予定)				
担当教員	岡宮 美樹				
目的・到達目標					
日本での学生生活を送る上で、必要不可欠な漢字の読み書きが十分にできること。基礎的で、ある程度の長さの日本語の文章の読解ができる。また、新聞等の一般的な日本語の文章を要約することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 必要不可欠な漢字の読み書きが十分にできること。	90%以上習得できている。	70%以上習得できている。	習得が59%以下である。		
評価項目2 基礎的で、ある程度の長さの日本語の文章の読解ができる。	書かれている内容について、十分に理解し、正確に情報を読み取ることができる。	書かれている内容について、概ね理解できるが、複雑な内容になると十分に理解できない。	書かれている内容について、読み取ることができない。		
評価項目3 新聞等の一般的な日本語の文章を要約することができる。	記事の内容を十分に理解し、必要な情報を正確にまとめることができる。	記事の内容を理解し、必要な情報をまとめることができる。	記事の内容を理解し、情報をまとめることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	学生生活を送る上で基本的な漢字の習得を進めると同時に、日本語での論文の構成、執筆方法を理解し、さらに自力での論文読解を目指す。				
授業の進め方と授業内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義は講義形式をとるが、語学習得を目的としているため、各自の積極的な参加を期待する。</li> <li>・毎時間、漢字の小テストを行う。</li> </ul>				
注意点	<p>&lt;成績評価&gt; 定期試験、課題提出で総合的に判断する。100点満点により評価し、6割以上を獲得した者を合格とする。</p> <p>&lt;教材&gt; 旺文社『JLPT日本語能力試験ターゲット1000 N1漢字』 くろしお出版『読む力 中級』 ※プレースメントテストの結果により教材の変更がある可能性あり。</p>				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	プレースメントテスト、オリエンテーション	・各自の日本語力を測る。1年間の授業の予定を理解する。	
		2週	JLPT「カタカナ語」	日常、よく使われるカタカナ語を中心にJLPTの試験問題で習得を図る。	
		3週	1課「心のバリアフリー」	・コラムやエッセイを読んで、筆者の主張や意図が把握できる。	
		4週	1課「心のバリアフリー」	・コラムやエッセイを読んで、筆者の主張や意図が把握できる。	
		5週	2課「30代ビジネスマンの『心の病』を考える」	・コラムやエッセイを読んで、筆者の主張や意図が把握できる。	
		6週	2課「31代ビジネスマンの『心の病』を考える」	・コラムやエッセイを読んで、筆者の主張や意図が把握できる。	
		7週	3課「少女マンガ家ぐらし」へ	・プロフィールや伝記を読んで、描かれた人物がたどった経緯が把握できる。	
		8週	3課「少女マンガ家ぐらし」へ	・プロフィールや伝記を読んで、描かれた人物がたどった経緯が把握できる。	
	2ndQ	9週	4課「プロフィール」	・プロフィールや伝記を読んで、描かれた人物がたどった経緯が把握できる。	
		10週	4課「プロフィール」	・プロフィールや伝記を読んで、描かれた人物がたどった経緯が把握できる。	
		11週	5課「インタビュー」	対話形式のテキストを読んで、テーマにそって発言の要点が把握できる。	
		12週	5課「インタビュー」	対話形式のテキストを読んで、テーマにそって発言の要点が把握できる。	
		13週	6課「いつも学びがある」	伝記やドキュメンタリーを読んで、描かれた人物の特徴が把握できる。	
		14週	6課「いつも学びがある」	伝記やドキュメンタリーを読んで、描かれた人物の特徴が把握できる。	
		15週	JLPT漢字模擬試験	日本語能力試験N1レベルの漢字語彙問題に挑戦する。	
		16週			
後期	3rdQ	1週	7課「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	・自己啓発書の一節を読んで、筆者の提案とその根拠が把握できる。	
		2週	7課「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	・自己啓発書の一節を読んで、筆者の提案とその根拠が把握できる。	

4thQ	3週	8課 緑のカーテン	・新聞のコラムや特集記事を読んで、とりあげられた事象の現状、展望、原因、問題点などが把握できる。
	4週	8課 緑のカーテン	
	5週	9課 環境独立国ニッポンの挑戦	・新聞のコラムや特集記事を読んで、とりあげられた事象の現状、展望、原因、問題点などが把握できる。
	6週	9課 環境独立国ニッポンの挑戦	
	7週	10課 渡り鳥はなぜ迷わない？	・一般向けの解説文を読んで、事実関係、背景、方法、原因、理由などが把握できる。
	8週	10課 渡り鳥はなぜ迷わない？	・一般向けの解説文を読んで、事実関係、背景、方法、原因、理由などが把握できる。
	9週	11課 フリーズする脳	・一般向けの解説文を読んで、事実関係、背景、方法、原因、理由などが把握できる。
	10週	11課 フリーズする脳	・一般向けの解説文を読んで、事実関係、背景、方法、原因、理由などが把握できる。
	11週	「クリティカルリーディング」	・クリティカルリーディングについて理解し、実践する。
	12週	12課 私のニュースの読み方	・教養書の一節を読み、筆者の問題提起、論点、主張、意図などが把握できる。
	13週	13課 住まい方の思想	・エッセイやコラムを読み、比較、対照、構造化、アナロジーを押しさえながら、筆者の主張、意図が把握できる。
	14週	14課 決まった道はない。ただ行き先があるのみだ。	・エッセイやコラムを読み、比較、対照、構造化、アナロジーを押しさえながら、筆者の主張、意図が把握できる。
	15週	全体のまとめ	・1年間を振り返り、各自でこの授業で学んだことをまとめる。
	16週		

評価割合

	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	100
配点	70	30	0	0	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	日本事情 (留学生対象)
科目基礎情報					
科目番号	0072		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般科		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: プリントを配布する。高等学校地図。参考書: 授業で随時紹介する。				
担当教員	久保田 和男, 鬼頭 葉子, 二星 潤				
目的・到達目標					
<p>&lt;地理歴史分野&gt; 授業の内容をふまえて、関連する問題について記述できること。それにより、学習・教育目標の (A-1) の達成とする。</p> <p>&lt;公民分野&gt; 授業の内容をふまえて、日本社会のしくみを把握し、関連する問題について記述できること。それにより学習・教育目標の (A-1) の達成とする。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
地理的分野	日本の気候や産業などを説明できる		日本の地理を基本的に理解している		日本の県や都市などについて説明できない
歴史的分野	日本の国の歴史と自分の国の歴史の違いを説明できる。		各時代の特徴を説明できる。		各時代の特徴を説明できない。
政治・経済分野	日本の政治・経済状況を理解し、その問題点について説明できる。		日本の政治・経済のしくみを理解し、説明できる。		日本の政治・経済のしくみを理解・説明できない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	<p>&lt;地理歴史分野&gt; 現代の日本社会はどのようにつくられたのか。それを説明する日本語の文章を点検しながら、日本社会の成り立ちと現代日本について学ぶ。</p> <p>&lt;公民分野&gt; 現在の日本社会における政治制度や経済のしくみ、文化や慣習について、それが形成された背景に触れつつ、学ぶ。</p>				
授業の進め方と授業内容・方法	授業方法は講義を中心とし、ノート点検を行う。				
注意点	<p>&lt;成績評価&gt; 小テスト (70%) と平常点 (30%) で (A-1) を評価し、6割以上の得点で合格とする。</p> <p>&lt;オフィスアワー&gt;  久保田和男: 月曜日 16:00~17:00 一般科棟1F東 久保田和男教員室  二星潤: 木曜日 16:00~17:00, 管理・一般科棟3F西 二星潤教員室  鬼頭葉子: 火曜日 16:00~17:00, 管理・一般科棟3F西 鬼頭葉子教員室</p>				
授業計画					
	週	授業内容・方法		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション		自己紹介。自分の国を紹介。
		2週	日本のひろがり		日本の領土の範囲や地方区分
		3週	日本の祝日		日本の祝日について
		4週	日本の首都		東京について調べる。
		5週	日本の地形		日本の地形について調べる。
		6週	日本の自然		日本の気候や災害について調べる。
		7週	日本の人口		日本の人口とその変化について調べる。
		8週	日本の鉱業		日本の鉱産資源・エネルギー問題
	2ndQ	9週	日本の農林水産業		農業・漁業・林業について学ぶ。
		10週	日本の工業		日本の工業 公害問題について。
		11週	古代の日本と東アジア		古代の日本と東アジアの関係について学ぶ。
		12週	律令国家の形成		奈良時代の政治と外交について学ぶ。
		13週	平安時代		平安時代の政治と外交について学ぶ。
		14週	鎌倉幕府		鎌倉幕府とモンゴル襲来について学ぶ。
		15週	室町幕府		室町幕府の政治と外交について学ぶ。
		16週			
後期	3rdQ	1週	戦国時代から天下統一		戦国時代から天下統一までの流れをおさえる。
		2週	江戸幕府の成立		江戸幕府の成立と江戸時代の社会について学ぶ。
		3週	開国と幕末の動乱		開国までの流れをおさえる。
		4週	近代日本の成立とアジア		近代日本の成立とアジアの関係について学ぶ。
		5週	日本の戦争と戦後の日本の成長		近代の日本の戦争と戦後の日本の成長について学ぶ。
		6週	法・憲法 (1) 日本国憲法の三原則		「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」を学ぶ。
		7週	法・憲法 (2) 日本国憲法の特徴		他国の憲法や明治憲法と比較しながら日本国憲法を学ぶ。
		8週	政治 (1) 戦後の日本政治		政党政治と選挙の仕方について学ぶ。
	4thQ	9週	政治 (2) 外交と安全保障		平和と安全保障、日本と外国の関係について学ぶ。
		10週	経済 (1) 高度経済成長と産業構造		戦後の経済史、日本と外国の貿易関係について学ぶ。
		11週	経済 (2) 経済と国民生活		経済成長と経済不況がおよぼす国民生活への影響を学ぶ。
		12週	社会 (1) 家族と社会生活		若者の結婚観と男女共同参画社会について学ぶ。
		13週	社会 (2) 現代日本社会の課題		少子高齢化社会の背景と、社会保障制度について学ぶ。



	14週	文化（1）宗教	日本の宗教事情や宗教的慣習について学ぶ。
	15週	文化（2）現代日本の文化	日本の地域文化やポップカルチャーについて学ぶ。
	16週		

評価割合

	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	0	70	30	0	0	100
配点	0	70	30	0	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	線形代数Ⅱ	
科目基礎情報						
科目番号	0073		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般科		対象学年	3		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	教科書: 高遠節夫 他「新線形代数」大日本図書 / 参考書: 高遠節夫 他「新線形代数問題集」大日本図書					
担当教員	山口 博己, 濱口 直樹					
目的・到達目標						
線形代数Ⅱにおける基本的事項と標準的な計算方法についての概要を理解できることを目標とする。授業内容を60%以上理解し計算できることで、学習教育目標の(C-1)の達成とする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目	各単元において数学的な性質を理解し、応用問題を解くことができる。		各単元における基本的な計算方法を理解し、標準問題を解くことができる。		各単元における基本問題を解くことができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	線形変換, 固有値と固有ベクトル, 行列の対角化等の概念を理解し, 計算に習熟するとともに, 数学的な表現力や論理的な思考力を高め, 事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばす。					
授業の進め方と授業内容・方法	・ 授業方法は講義を中心とし, 演習問題や課題を出す。					
注意点	<成績評価> 定期試験等(80%), 平常点(20%)の合計100点満点で(C-1)を評価し, 合計の6割以上を獲得した者をこの科目の合格者とする。ただし平常点は授業中に行う演習, 課題等で評価する。 <オフィスアワー> 毎週水曜日 14:30 ~ 15:00, 数学科の各教員が対応します。 <先修科目・後修科目> 先修科目は線形代数Ⅰとなる。 <備考> 線形代数Ⅰの内容を理解し, 行列・行列式の計算に習熟していることを前提とする。授業後には必ず復習を行い, 練習問題を自分で解くことが大切である。					
授業計画						
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	行列式の図形的意味	行列式と面積, 体積の関係を理解する。線形独立性の行列式による判定法を理解する。		
		2週	外積	外積の定義を理解する。		
		3週	線形変換の定義	線形変換の定義と意味を理解する。		
		4週	線形変換の基本性質	線形変換の基本性質を理解する。		
		5週	合成変換と逆変換	行列と線形変換の関係を理解し合成変換, 逆変換に対応する概念を理解する。		
		6週	回転を表す変換	回転を表す線形変換および行列に対応する概念を理解する。		
		7週	直交行列と直交変換	直交変換および行列に対応する概念を理解する。		
		8週	演習	理解度の確認を行う。		
	2ndQ	9週	固有値と固有ベクトル	固有値と固有ベクトルの定義を理解する。		
		10週	固有値と固有ベクトルの計算(1)	2次の正方行列について固有値と固有ベクトルを求めることができる。		
		11週	固有値と固有ベクトルの計算(2)	3次の正方行列について固有値と固有ベクトルを求めることができる。		
		12週	行列の対角化	固有値と固有ベクトルを用いて行列を対角化することができる。		
		13週	対角化可能な条件	対角化可能な条件について理解する。		
		14週	対称行列の直交行列による対角化	シュミットの直交化法を用いて対称行列の直交行列による対角化ができる。		
		15週	対角化の応用	2次曲線の標準形を求めることができる。		
		16週	前期末達成度試験			
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	80	0	20	0	0	100
配点	80	0	20	0	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	微分積分Ⅱ A
科目基礎情報					
科目番号	0074		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般科		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 高遠節夫 他「新微分積分Ⅱ」 大日本図書 / 問題集: 高遠節夫 他「新微分積分Ⅱ問題集」 大日本図書				
担当教員	小林 茂樹, 前田 善文				
目的・到達目標					
関数の展開, 偏微分, 重積分に関する基本的事項と標準的な計算方法について理解できることを目標とする。授業内容を60%以上理解し計算できることで, 学習・教育目標の(C-1)の達成とする。					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目		各単元において数学的な性質を理解し, 応用問題を解くことができる。	各単元における基本的な計算方法を理解し, 標準問題を解くことができる。	各単元における基本問題を解くことができない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	偏微分, 重積分の各分野の系統的な理解や基礎的概念の理解を通して, 知識の習得と技能の習熟を図る。また, 数学的論理を通して思考力・表現力・創造力を養い, 現象を数学的に考察し処理する能力を伸ばす。				
授業の進め方と授業内容・方法	授業方法は講義を中心とし, 演習問題や課題と組み合わせて進める。				
注意点	<p>&lt;成績評価&gt; 定期試験等(80%), 平常点(20%)の合計100点満点で(C-1)を評価し, 合計の6割以上を獲得した者をこの科目の合格者とする。  ただし, 平常点は授業中に行う課題演習等で評価する。  &lt;オフィスアワー&gt; 毎週水曜日 14:30 ~ 15:00 数学科の各教員が対応します。  &lt;先修科目・後修科目&gt; 先修科目は微分積分Ⅰと線形代数Ⅰ, 後修科目はベクトル解析, フーリエ解析, 複素関数論, および確率統計Ⅱとなる。  &lt;備考&gt; 1変数関数の微分と積分の計算ができることを前提とする。授業後には必ず復習を行い, 教科書の問いや練習問題等を自分で解いてみるのが大切である。  (関連科目) 微分積分ⅡB</p>				
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	多項式による近似(1)	基本的な関数について, 1次2次近似式を求めることができる。	
		2週	多項式による近似(2)	n次近似式を求めることができる。ランダウ記号の意味を理解し, 1変数関数の極値を調べることができる。	
		3週	数列の極限	基本的な数列の極限を求めることができる。	
		4週	級数(1)	簡単な級数の収束・発散を調べ, 和を求めることができる。	
		5週	級数(2)	等比級数の具体的な問題を解くことができる。	
		6週	べき級数とマクローリン展開	基本的な関数のマクローリン展開・テーラー展開を求めることができる。	
		7週	オイラーの公式	オイラーの公式を理解し, 複素数の計算に応用できる。	
		8週	演習	標準的な問題を解くことができる。	
	2ndQ	9週	2変数関数	2変数関数の意味とそのグラフについて理解できる。	
		10週	偏導関数	偏導関数および偏微分係数を求めることができる。	
		11週	全微分	全微分および接平面の方程式を求めることができる。	
		12週	合成関数の微分法	2変数関数について, 合成関数の微分法を適用できる。	
		13週	高次偏導関数	第2次偏導関数を求めることができる。	
		14週	極大・極小	極値の判定方法を理解し, 関数の極値を求めることができる。	
		15週	演習	標準的な問題を解くことができる。	
		16週	前期未達成度試験		
後期	3rdQ	1週	陰関数の微分法	陰関数とその微分法を理解できる。	
		2週	条件つき極値問題	条件つき極値問題を理解し, 基本的な問題を解くことができる。	
		3週	包絡線	包絡線について理解し, その方程式を求めることができる。	
		4週	2重積分の定義(1)	2重積分の定義が理解できる。	
		5週	2重積分の定義(2) 2重積分の計算(1)	2重積分の性質が理解できる。累次積分の計算方法が理解できる。	
		6週	2重積分の計算(2)	一般の領域における累次積分を計算することができる。	
		7週	2重積分の計算(3)	積分順序を変更することができる。立体の体積をもとめることができる。	
		8週	演習	標準的な問題を解くことができる。	
	4thQ	9週	極座標による2重積分(1)	極座標変換の意味が理解でき, 簡単な2重積分の計算ができる。	

	10週	極座標による2重積分(2) 変数変換(1)	極座標変換を用いて様々な問題を解くことができる。 変数変換の方法が理解できる。
	11週	変数変換(2)	一般の変数変換による2重積分の計算ができる。
	12週	広義積分	広義積分の意味を理解し、簡単な問題を解くことができる。
	13週	2重積分のいろいろな応用(1)	曲面積を求めることができる。
	14週	2重積分のいろいろな応用(2)	図形の重心を求めることができる。
	15週	演習	標準的な問題を解くことができる。
	16週	学年末達成度試験	

#### 評価割合

	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	80	0	20	0	0	100
配点	80	0	20	0	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	微分積分Ⅱ B	
科目基礎情報						
科目番号	0075	科目区分	一般 / 必修			
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	一般科	対象学年	3			
開設期	後期	週時間数	2			
教科書/教材	教科書: 高遠節夫 他「新微分積分Ⅱ」 大日本図書 / 問題集: 高遠節夫 他「新微分積分Ⅱ問題集」 大日本図書					
担当教員	佐久間 敏幸, 西信 洋和					
目的・到達目標						
微分方程式に関する基本的事項と標準的な計算方法について理解できることを目標とする。授業内容を60%以上理解し計算できることで、学習・教育目標の(C-1)の達成とする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目	各単元において数学的な性質を理解し、応用問題を解くことができる。	各単元における基本的な計算方法を理解し、標準問題を解くことができる。	各単元における基本問題を解くことができない。			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	微分積分の応用、微分方程式、複素数の各分野の系統的な理解や基礎的概念の理解を通して、知識の習得と技能の習熟を図る。また、数学的論理を通して思考力・表現力・創造力を養い、現象を数学的に考察し処理する能力を伸ばす。					
授業の進め方と授業内容・方法	授業方法は講義を中心とし、演習問題や課題を出す。適宜、レポート課題を課すので、期限に遅れず提出すること。					
注意点	<p>&lt;成績評価&gt; 定期試験等(80%)、平常点(20%)の合計100点満点で(C-1)を評価し、合計の6割以上を獲得した者をこの科目の合格者とする。  ただし、平常点は授業中に行う課題演習等で評価する。  &lt;オフィスアワー&gt; 毎週水曜日 14:30 ~ 15:00 数学科の各教員が対応します。  &lt;先修科目・後修科目&gt; 先修科目は微分積分Ⅰと線形代数Ⅰ、後修科目はベクトル解析、フーリエ解析、複素関数論、および確率統計Ⅱとなる。  &lt;備考&gt; 1変数関数の微分と積分の計算ができることを前提とする。授業後には必ず復習を行い、教科書の問いや練習問題等を自分で解いてみるのが大切である。  (関連科目) 微分積分ⅡA</p>					
授業計画						
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	微分方程式の意味	簡単な微分方程式をつくることができる。		
		2週	微分方程式の解	微分方程式の一般解・特殊解について理解できる。		
		3週	変数分離形	基本的な変数分離形の微分方程式の一般解を求めることができる。		
		4週	同次形	基本的な同次形の微分方程式の一般解を求めることができる。		
		5週	1階線形微分方程式	非斉次1階線形微分方程式の一般解を定数変化法を用いて求めることができる。		
		6週	2階微分方程式とその解	2階微分方程式とその一般解・特殊解について理解できる。		
		7週	2階線形微分方程式	関数が線形独立であるかロンスキアンを用いて調べることができる。2階線形微分方程式の一般解の形について理解できる。		
		8週	演習	標準的な問題を解くことができる。		
	4thQ	9週	定数係数斉次線形微分方程式(1)	特性方程式の解により、一般解の形が分類されることが理解できる。		
		10週	定数係数斉次線形微分方程式(2)	定数係数斉次線形微分方程式の一般解を求めることができる。		
		11週	定数係数非斉次線形微分方程式(1)	具体的な例から、定数係数非斉次線形微分方程式の特殊解を予想することができる。		
		12週	定数係数非斉次線形微分方程式(2)	標準的な定数係数非斉次線形微分方程式の一般解を求めることができる。		
		13週	いろいろな線形微分方程式	連立微分方程式や定数係数でない線形微分方程式のうち、基本的なものについて一般解を求めることができる。		
		14週	線形でない2階微分方程式	線形でない2階微分方程式のうち、典型的なものについて一般解を求めることができる。		
		15週	演習	標準的な問題を解くことができる。		
		16週	学年末達成度試験			
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	80	0	20	0	0	100
配点	80	0	20	0	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	確率統計 I	
科目基礎情報						
科目番号	0076	科目区分	一般 / 必修			
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	一般科	対象学年	3			
開設期	後期	週時間数	2			
教科書/教材	教科書: 高遠節夫 他「新確率統計」大日本図書 / 問題集: 高遠節夫 他「新確率統計問題集」大日本図書					
担当教員	山口 博己, 濱口 直樹					
目的・到達目標						
確率統計Iにおける基本的事項と標準的な計算方法についての概要を理解できることを目標とする。授業内容を60%以上理解し計算できることで、学習教育目標の(C-1)の達成とする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目	各単元において数学的な性質を理解し、応用問題を解くことができる。	各単元における基本的な計算方法を理解し、標準問題を解くことができる。	各単元における基本問題を解くことができない。			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	確率、統計の系統的な理解を通して、知識の習得と技能の習熟を図り、数学的論理を通して思考力、表現力、想像力を養う。事象、現象を数学的にとらえ、記述し、処理することにより問題を解決する能力を養う。					
授業の進め方と授業内容・方法	・ 授業方法は講義を中心とし、演習問題や課題を出す。					
注意点	<成績評価> 定期試験等(80%)、平常点(20%)の合計100点満点で(C-1)を評価し、合計の6割以上を獲得した者をこの科目の合格者とする。ただし平常点は授業中に行う演習、課題等で評価する。 <オフィスアワー> 毎週水曜日 14:30~15:00 数学科の各教員が対応します。 <先修科目・後修科目> 先修科目は微分積分I、後修科目は確率統計IIとなる。 <備考> 授業後には必ず復習を行い、練習問題を自分で解くことが大切である。					
授業計画						
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	確率の定義と基本性質	確率の定義、余事象の確率、確率の加法定理、排反事象の確率等を理解し、それを用いて問題を解くことができる。		
		2週	期待値	期待値を求めることができる。		
		3週	条件つき確率と乗法定理	条件つき確率、確率の乗法定理の意味を理解し、それを用いて問題を解くことができる。		
		4週	事象の独立	事象の独立について理解ができる。		
		5週	反復試行	反復試行の確率を求めることができる。		
		6週	ベイズの定理	ベイズの定理を用いて問題を解くことができる。		
		7週	度数分布	度数分布表をつくることができる。		
		8週	演習	理解度の確認をする。		
	4thQ	9週	代表値	データの平均、中央値、モードを求めることができる。		
		10週	散布度	データの分散、標準偏差を求めることができる。		
		11週	四分位と箱ひげ図	四分位と箱ひげ図の考えが理解でき、利用できる。		
		12週	相関	相関係数を理解し、2つの変数の関係を調べることができる。		
		13週	回帰直線	回帰直線の方程式を求めることができる。		
		14週	確率変数と確率分布	確率変数について理解し、その平均や分散を求めることができる。		
		15週	二項分布とポアソン分布	二項分布やポアソン分布を用いて問題を解くことができる。		
		16週	学年末達成度試験			
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	80	0	20	0	0	100
配点	80	0	20	0	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	英語IIIA (M)
科目基礎情報					
科目番号	0077	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般科	対象学年	3		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	30グラウンド英文法 その他リスニング教材				
担当教員	赤瀬 正樹				
目的・到達目標					
授業項目に書かれているそれぞれの文構造が理解でき、さらにその文法項目を使用して基本的なコミュニケーションに必要となる簡単な文を作り出すことで(F2)の達成とする。また、基本的な英文を聞き取ることも目標とする。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	文法を理解し、その文法が入った英文を、正しい単語を用いて書くことができる。	文法を理解し、その文法が入った英文を、単語がいくらか間違っても、書くことができる。	文法を理解しておらず、その文法が入った英文を書くことができない。		
評価項目2	文法を理解し、その文法が入った英文を、正しい単語を用いて読むことができる。	文法を理解し、その文法が入った英文を、単語がいくらかわからなくても、読むことができる。	文法を理解しておらず、その文法が入った英文を読むことができない。		
評価項目3	文法を理解し、その文法が入った英文を含む文章を読むことができる。	文法を理解し、その文法が入った英文を含む文章を、単語がいくらかわからなくても、読むことができる。	文法を理解しておらず、その文法が入った英文を含む文章を読むことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	1, 文法が理解できる。 2, 理解した文法知識を使って文を書ける。 3, 理解した文法知識を使って文を読む。 4, 基本的な英文を聞きとることができる。				
授業の進め方と授業内容・方法	授業の前半では、文法の教科書に沿って学習し、その後付属の問題を解いて学習内容を定着させる。後半ではリスニング教材を用いて基礎的な英文を聞き取る訓練を行う。毎回リスニング問題は小テストとし、成績に加えられる。				
注意点	成績評価 小テスト及び定期試験の成績で評価し、合計の6割以上を獲得した者を、F-2を達成したのものとして、この科目の合格者とする。  オフィスアワー 毎週金曜日 16:00-17:00 一般科棟 3F 東 この時間にとらわれず必要に応じて来室してください。  先修科目は英語IIA及び英語IIBである。 後習科目は英語IVである。				
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	文の種類 (I)	文の種類について理解し、問題を解くことができる。	
		2週	文の種類 (II)	文の種類について理解し、問題を解くことができる。	
		3週	文の構造 (I)	文の構造について理解し、問題を解くことができる。	
		4週	文の構造 (II)	文の構造について理解し、問題を解くことができる。	
		5週	基本時制 (I)	基本時制について理解し、問題を解くことができる。	
		6週	基本時制 (II)	基本時制について理解し、問題を解くことができる。	
		7週	完了形 (I)	完了形について理解し、問題を解くことができる。	
		8週	完了形 (II)	完了形について理解し、問題を解くことができる。	
	2ndQ	9週	助動詞 (I)	助動詞について理解し、問題を解くことができる。	
		10週	助動詞 (II)	助動詞について理解し、問題を解くことができる。	
		11週	助動詞 (III)	助動詞について理解し、問題を解くことができる。	
		12週	動詞の態 (I)	動詞の態について理解し、問題を解くことができる。	
		13週	動詞の態 (II)	動詞の態について理解し、問題を解くことができる。	
		14週	不定詞 (I)	不定詞について理解し、問題を解くことができる。	
		15週	不定詞 (II)	不定詞について理解し、問題を解くことができる。	
		16週	前期未達成度試験	既習の文法を理解し、問題を解くことができる。	
後期	3rdQ	1週	不定詞 (III)	不定詞について理解し、問題を解くことができる。	
		2週	動名詞 (I)	動名詞について理解し、問題を解くことができる。	
		3週	動名詞 (II)	動名詞について理解し、問題を解くことができる。	
		4週	分詞 (I)	分詞について理解し、問題を解くことができる。	
		5週	分詞 (II)	分詞について理解し、問題を解くことができる。	
		6週	分詞 (III)	分詞について理解し、問題を解くことができる。	
		7週	比較 (I)	比較について理解し、問題を解くことができる。	
		8週	比較 (II)	比較について理解し、問題を解くことができる。	
	4thQ	9週	関係詞 (I)	関係詞について理解し、問題を解くことができる。	
		10週	関係詞 (II)	関係詞について理解し、問題を解くことができる。	

	11週	関係詞 (III)	関係詞について理解し, 問題を解くことができる.
	12週	関係詞 (IV)	関係詞について理解し, 問題を解くことができる.
	13週	仮定法 (I)	仮定法について理解し, 問題を解くことができる.
	14週	仮定法 (II)	仮定法について理解し, 問題を解くことができる.
	15週	時制の一致と話法	時制の一致と話法について理解し, 問題を解くことができる.
	16週	学年末達成度試験	既習の文法を理解し, 問題を解くことができる.

評価割合

	試験	小テスト				合計
総合評価割合	50	50	0	100	配点	50



長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	英語IIIA (E)
科目基礎情報					
科目番号	0078		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般科		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	30グラウンド英文法 その他リスニング教材				
担当教員	赤瀬 正樹				
目的・到達目標					
授業項目に書かれているそれぞれの文構造が理解でき、さらにその文法項目を使用して基本的なコミュニケーションに必要となる簡単な文を作り出すことで(F2)の達成とする。また、基本的な英文を聞き取ることも目標とする。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	文法を理解し、その文法が入った英文を、正しい単語を用いて書くことができる。	文法を理解し、その文法が入った英文を、単語がいくらか間違っても、書くことができる。	文法を理解しておらず、その文法が入った英文を書くことができない。		
評価項目2	文法を理解し、その文法が入った英文を、正しい単語を用いて読むことができる。	文法を理解し、その文法が入った英文を、単語がいくらかわからなくても、読むことができる。	文法を理解しておらず、その文法が入った英文を読むことができない。		
評価項目3	文法を理解し、その文法が入った英文を含む文章を読むことができる。	文法を理解し、その文法が入った英文を含む文章を、単語がいくらかわからなくても、読むことができる。	文法を理解しておらず、その文法が入った英文を含む文章を読むことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	1, 文法が理解できる。 2, 理解した文法知識を使って文を書ける。 3, 理解した文法知識を使って文を読む。 4, 基本的な英文を聞きとることができる。				
授業の進め方と授業内容・方法	授業の前半では、文法の教科書に沿って学習し、その後付属の問題を解いて学習内容を定着させる。後半ではリスニング教材を用いて基礎的な英文を聞き取る訓練を行う。毎回リスニング問題は平常点とし、成績に加えられる。				
注意点	成績評価 平常点及び定期試験の成績で評価し、合計の6割以上を獲得した者を、F-2を達成したものととして、この科目の合格者とする。  オフィスアワー 毎週金曜日 16:00-17:00 一般科棟 3F 東 この時間にとらわれず必要に応じて来室してください。  先修科目は英語IIA及び英語IIBである。 後習科目は英語IVである。				
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	文の種類 (I)	文の種類について理解し、問題を解くことができる。	
		2週	文の種類 (II)	文の種類について理解し、問題を解くことができる。	
		3週	文の構造 (I)	文の構造について理解し、問題を解くことができる。	
		4週	文の構造 (II)	文の構造について理解し、問題を解くことができる。	
		5週	基本時制 (I)	基本時制について理解し、問題を解くことができる。	
		6週	基本時制 (II)	基本時制について理解し、問題を解くことができる。	
		7週	完了形 (I)	完了形について理解し、問題を解くことができる。	
		8週	完了形 (II)	完了形について理解し、問題を解くことができる。	
	2ndQ	9週	助動詞 (I)	助動詞について理解し、問題を解くことができる。	
		10週	助動詞 (II)	助動詞について理解し、問題を解くことができる。	
		11週	助動詞 (III)	助動詞について理解し、問題を解くことができる。	
		12週	動詞の態 (I)	動詞の態について理解し、問題を解くことができる。	
		13週	動詞の態 (II)	動詞の態について理解し、問題を解くことができる。	
		14週	不定詞 (I)	不定詞について理解し、問題を解くことができる。	
		15週	不定詞 (II)	不定詞について理解し、問題を解くことができる。	
		16週	前期達成度試験	既習の文法を理解し、問題を解くことができる。	
後期	3rdQ	1週	不定詞 (III)	不定詞について理解し、問題を解くことができる。	
		2週	動名詞 (I)	動名詞について理解し、問題を解くことができる。	
		3週	動名詞 (II)	動名詞について理解し、問題を解くことができる。	
		4週	分詞 (I)	分詞について理解し、問題を解くことができる。	
		5週	分詞 (II)	分詞について理解し、問題を解くことができる。	
		6週	分詞 (III)	分詞について理解し、問題を解くことができる。	
		7週	比較 (I)	比較について理解し、問題を解くことができる。	
		8週	比較 (II)	比較について理解し、問題を解くことができる。	
	4thQ	9週	関係詞 (I)	関係詞について理解し、問題を解くことができる。	
		10週	関係詞 (II)	関係詞について理解し、問題を解くことができる。	

	11週	関係詞 (III)	関係詞について理解し, 問題を解くことができる.
	12週	関係詞 (IV)	関係詞について理解し, 問題を解くことができる.
	13週	仮定法 (I)	仮定法について理解し, 問題を解くことができる.
	14週	仮定法 (II)	仮定法について理解し, 問題を解くことができる.
	15週	時制の一致と話法	時制の一致と話法について理解し, 問題を解くことができる.
	16週	学年末達成度試験	既習の文法を理解し, 問題を解くことができる.

評価割合

	試験	平常点				合計
総合評価割合	50	50	0	100	配点	50

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	英語IIIA (S)
<b>科目基礎情報</b>					
科目番号	0079	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般科	対象学年	3		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	30グラウンド英文法 その他リスニング教材				
担当教員	徳竹 ゆう子				
<b>目的・到達目標</b>					
授業項目に書かれているそれぞれの文構造が理解でき、さらにその文法項目を使用して基本的なコミュニケーションに必要となる簡単な文を作り出すことで(F2)の達成とする。また、基本的な英文を聞き取ることも目標とする。					
<b>ルーブリック</b>					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	文法を理解し、その文法が入った英文を、正しい単語を用いて書くことができる。	文法を理解し、その文法が入った英文を、単語がいくらか間違っても、書くことができる。	文法を理解しておらず、その文法が入った英文を書くことができない。		
評価項目2	文法を理解し、その文法が入った英文を、正しい単語を用いて読むことができる。	文法を理解し、その文法が入った英文を、単語がいくらかわからなくても、読むことができる。	文法を理解しておらず、その文法が入った英文を読むことができない。		
評価項目3	文法を理解し、その文法が入った英文を含む文章を読むことができる。	文法を理解し、その文法が入った英文を含む文章を、単語がいくらかわからなくても、読むことができる。	文法を理解しておらず、その文法が入った英文を含む文章を読むことができない。		
<b>学科の到達目標項目との関係</b>					
<b>教育方法等</b>					
概要	1, 文法が理解できる。 2, 理解した文法知識を使って文を書ける。 3, 理解した文法知識を使って文を読める。 4, 基本的な英文を聞きとることができる。				
授業の進め方と授業内容・方法	授業の前半では、文法の教科書に沿って学習し、その後付属の問題を解いて学習内容を定着させる。後半ではリスニング教材を用いて基礎的な英文を聞き取る訓練を行う。毎回リスニング問題は小テストとし、成績に加えられる。				
注意点	成績評価 小テスト及び定期試験の成績で評価し、合計の6割以上を獲得した者を、F-2を達成したものとして、この科目の合格者とする。  オフィスアワー 毎週金曜日 16:00-17:00 一般科棟 3F 東 この時間にとらわれず必要に応じて来室してください。  先修科目は英語IIA及び英語IIBである。 後習科目は英語IVである。				
<b>授業計画</b>					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	文の種類 (I)	文の種類について理解し、問題を解くことができる。	
		2週	文の種類 (II)	文の種類について理解し、問題を解くことができる。	
		3週	文の構造 (I)	文の構造について理解し、問題を解くことができる。	
		4週	文の構造 (II)	文の構造について理解し、問題を解くことができる。	
		5週	基本時制 (I)	基本時制について理解し、問題を解くことができる。	
		6週	基本時制 (II)	基本時制について理解し、問題を解くことができる。	
		7週	完了形 (I)	完了形について理解し、問題を解くことができる。	
		8週	完了形 (II)	完了形について理解し、問題を解くことができる。	
	2ndQ	9週	助動詞 (I)	助動詞について理解し、問題を解くことができる。	
		10週	助動詞 (II)	助動詞について理解し、問題を解くことができる。	
		11週	助動詞 (III)	助動詞について理解し、問題を解くことができる。	
		12週	動詞の態 (I)	動詞の態について理解し、問題を解くことができる。	
		13週	動詞の態 (II)	動詞の態について理解し、問題を解くことができる。	
		14週	不定詞 (I)	不定詞について理解し、問題を解くことができる。	
		15週	不定詞 (II)	不定詞について理解し、問題を解くことができる。	
		16週	前期末達成度試験	既習の文法を理解し、問題を解くことができる。	
後期	3rdQ	1週	不定詞 (III)	不定詞について理解し、問題を解くことができる。	
		2週	動名詞 (I)	動名詞について理解し、問題を解くことができる。	
		3週	動名詞 (II)	動名詞について理解し、問題を解くことができる。	
		4週	分詞 (I)	分詞について理解し、問題を解くことができる。	
		5週	分詞 (II)	分詞について理解し、問題を解くことができる。	
		6週	分詞 (III)	分詞について理解し、問題を解くことができる。	
		7週	比較 (I)	比較について理解し、問題を解くことができる。	
		8週	比較 (II)	比較について理解し、問題を解くことができる。	
	4thQ	9週	関係詞 (I)	関係詞について理解し、問題を解くことができる。	
		10週	関係詞 (II)	関係詞について理解し、問題を解くことができる。	

	11週	関係詞 (III)	関係詞について理解し, 問題を解くことができる.
	12週	関係詞 (IV)	関係詞について理解し, 問題を解くことができる.
	13週	仮定法 (I)	仮定法について理解し, 問題を解くことができる.
	14週	仮定法 (II)	仮定法について理解し, 問題を解くことができる.
	15週	時制の一致と話法	時制の一致と話法について理解し, 問題を解くことができる.
	16週	学年末達成度試験	既習の文法を理解し, 問題を解くことができる.

評価割合

	試験	小テスト				合計
総合評価割合	50	50	0	100	配点	50

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	英語IIIA (J)
科目基礎情報					
科目番号	0080		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般科		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	30グラウンド英文法 その他リスニング教材				
担当教員	小澤 志朗				
目的・到達目標					
授業項目に書かれているそれぞれの文構造が理解でき、さらにその文法項目を使用して基本的なコミュニケーションに必要となる簡単な文を作り出すことで(F2)の達成とする。また、基本的な英文を聞き取ることも目標とする。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	文法を理解し、その文法が入った英文を、正しい単語を用いて書くことができる。	文法を理解し、その文法が入った英文を、単語がいくらか間違っても、書くことができる。	文法を理解しておらず、その文法が入った英文を書くことができない。		
評価項目2	文法を理解し、その文法が入った英文を、正しい単語を用いて読むことができる。	文法を理解し、その文法が入った英文を、単語がいくらかわからなくても、読むことができる。	文法を理解しておらず、その文法が入った英文を読むことができない。		
評価項目3	文法を理解し、その文法が入った英文を含む文章を読むことができる。	文法を理解し、その文法が入った英文を含む文章を、単語がいくらかわからなくても、読むことができる。	文法を理解しておらず、その文法が入った英文を含む文章を読むことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	1, 文法が理解できる。 2, 理解した文法知識を使って文を書ける。 3, 理解した文法知識を使って文を読む。 4, 基本的な英文を聞きとることができる。				
授業の進め方と授業内容・方法	授業の前半では、文法の教科書に沿って学習し、その後付属の問題を解いて学習内容を定着させる。後半ではリスニング教材を用いて基礎的な英文を聞き取る訓練を行う。毎回リスニング問題は小テストとし、成績に加えられる。				
注意点	成績評価 小テスト及び定期試験の成績で評価し、合計の6割以上を獲得した者を、F-2を達成したものとして、この科目の合格者とする。  オフィスアワー 毎週金曜日 16:00-17:00 一般科棟 3F 東 この時間にとらわれず必要に応じて来室してください。  先修科目は英語IIA及び英語IIBである。 後習科目は英語IVである。				
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	文の種類 (I)	文の種類について理解し、問題を解くことができる。	
		2週	文の種類 (II)	文の種類について理解し、問題を解くことができる。	
		3週	文の構造 (I)	文の構造について理解し、問題を解くことができる。	
		4週	文の構造 (II)	文の構造について理解し、問題を解くことができる。	
		5週	基本時制 (I)	基本時制について理解し、問題を解くことができる。	
		6週	基本時制 (II)	基本時制について理解し、問題を解くことができる。	
		7週	完了形 (I)	完了形について理解し、問題を解くことができる。	
		8週	完了形 (II)	完了形について理解し、問題を解くことができる。	
	2ndQ	9週	助動詞 (I)	助動詞について理解し、問題を解くことができる。	
		10週	助動詞 (II)	助動詞について理解し、問題を解くことができる。	
		11週	助動詞 (III)	助動詞について理解し、問題を解くことができる。	
		12週	動詞の態 (I)	動詞の態について理解し、問題を解くことができる。	
		13週	動詞の態 (II)	動詞の態について理解し、問題を解くことができる。	
		14週	不定詞 (I)	不定詞について理解し、問題を解くことができる。	
		15週	不定詞 (II)	不定詞について理解し、問題を解くことができる。	
		16週	前期未達成度試験	既習の文法を理解し、問題を解くことができる。	
後期	3rdQ	1週	不定詞 (III)	不定詞について理解し、問題を解くことができる。	
		2週	動名詞 (I)	動名詞について理解し、問題を解くことができる。	
		3週	動名詞 (II)	動名詞について理解し、問題を解くことができる。	
		4週	分詞 (I)	分詞について理解し、問題を解くことができる。	
		5週	分詞 (II)	分詞について理解し、問題を解くことができる。	
		6週	分詞 (III)	分詞について理解し、問題を解くことができる。	
		7週	比較 (I)	比較について理解し、問題を解くことができる。	
		8週	比較 (II)	比較について理解し、問題を解くことができる。	
	4thQ	9週	関係詞 (I)	関係詞について理解し、問題を解くことができる。	
		10週	関係詞 (II)	関係詞について理解し、問題を解くことができる。	

	11週	関係詞 (III)	関係詞について理解し, 問題を解くことができる.
	12週	関係詞 (IV)	関係詞について理解し, 問題を解くことができる.
	13週	仮定法 (I)	仮定法について理解し, 問題を解くことができる.
	14週	仮定法 (II)	仮定法について理解し, 問題を解くことができる.
	15週	時制の一致と話法	時制の一致と話法について理解し, 問題を解くことができる.
	16週	学年末達成度試験	既習の文法を理解し, 問題を解くことができる.

評価割合

	試験	小テスト				合計
総合評価割合	50	50	0	100	配点	50

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	英語IIIA (C)
科目基礎情報					
科目番号	0081		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般科		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	30グラウンド英文法 その他リスニング教材				
担当教員	小澤 志朗				
目的・到達目標					
授業項目に書かれているそれぞれの文構造が理解でき、さらにその文法項目を使用して基本的なコミュニケーションに必要な簡単な文を作り出すことで(F2)の達成とする。また、基本的な英文を聞き取ることも目標とする。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	文法を理解し、その文法が入った英文を、正しい単語を用いて書くことができる。	文法を理解し、その文法が入った英文を、単語がいくらか間違っても、書くことができる。	文法を理解しておらず、その文法が入った英文を書くことができない。		
評価項目2	文法を理解し、その文法が入った英文を、正しい単語を用いて読むことができる。	文法を理解し、その文法が入った英文を、単語がいくらかわからなくても、読むことができる。	文法を理解しておらず、その文法が入った英文を読むことができない。		
評価項目3	文法を理解し、その文法が入った英文を含む文章を読むことができる。	文法を理解し、その文法が入った英文を含む文章を、単語がいくらかわからなくても、読むことができる。	文法を理解しておらず、その文法が入った英文を含む文章を読むことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	1, 文法が理解できる。 2, 理解した文法知識を使って文を書ける。 3, 理解した文法知識を使って文を読む。 4, 基本的な英文を聞きとることができる。				
授業の進め方と授業内容・方法	授業の前半では、文法の教科書に沿って学習し、その後付属の問題を解いて学習内容を定着させる。後半ではリスニング教材を用いて基礎的な英文を聞き取る訓練を行う。毎回リスニング問題は小テストとし、成績に加えられる。				
注意点	成績評価 小テスト及び定期試験の成績で評価し、合計の6割以上を獲得した者を、F-2を達成したものとして、この科目の合格者とする。  オフィスアワー 毎週金曜日 16:00-17:00 一般科棟 3F 東 この時間にとらわれず必要に応じて来室してください。  先修科目は英語IIA及び英語IIBである。 後習科目は英語IVである。				
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	文の種類 (I)	文の種類について理解し、問題を解くことができる。	
		2週	文の種類 (II)	文の種類について理解し、問題を解くことができる。	
		3週	文の構造 (I)	文の構造について理解し、問題を解くことができる。	
		4週	文の構造 (II)	文の構造について理解し、問題を解くことができる。	
		5週	基本時制 (I)	基本時制について理解し、問題を解くことができる。	
		6週	基本時制 (II)	基本時制について理解し、問題を解くことができる。	
		7週	完了形 (I)	完了形について理解し、問題を解くことができる。	
		8週	完了形 (II)	完了形について理解し、問題を解くことができる。	
	2ndQ	9週	助動詞 (I)	助動詞について理解し、問題を解くことができる。	
		10週	助動詞 (II)	助動詞について理解し、問題を解くことができる。	
		11週	助動詞 (III)	助動詞について理解し、問題を解くことができる。	
		12週	動詞の態 (I)	動詞の態について理解し、問題を解くことができる。	
		13週	動詞の態 (II)	動詞の態について理解し、問題を解くことができる。	
		14週	不定詞 (I)	不定詞について理解し、問題を解くことができる。	
		15週	不定詞 (II)	不定詞について理解し、問題を解くことができる。	
		16週	前期未達成度試験	既習の文法を理解し、問題を解くことができる。	
後期	3rdQ	1週	不定詞 (III)	不定詞について理解し、問題を解くことができる。	
		2週	動名詞 (I)	動名詞について理解し、問題を解くことができる。	
		3週	動名詞 (II)	動名詞について理解し、問題を解くことができる。	
		4週	分詞 (I)	分詞について理解し、問題を解くことができる。	
		5週	分詞 (II)	分詞について理解し、問題を解くことができる。	
		6週	分詞 (III)	分詞について理解し、問題を解くことができる。	
		7週	比較 (I)	比較について理解し、問題を解くことができる。	
		8週	比較 (II)	比較について理解し、問題を解くことができる。	
	4thQ	9週	関係詞 (I)	関係詞について理解し、問題を解くことができる。	
		10週	関係詞 (II)	関係詞について理解し、問題を解くことができる。	

	11週	関係詞 (III)	関係詞について理解し, 問題を解くことができる.
	12週	関係詞 (IV)	関係詞について理解し, 問題を解くことができる.
	13週	仮定法 (I)	仮定法について理解し, 問題を解くことができる.
	14週	仮定法 (II)	仮定法について理解し, 問題を解くことができる.
	15週	時制の一致と話法	時制の一致と話法について理解し, 問題を解くことができる.
	16週	学年末達成度試験	既習の文法を理解し, 問題を解くことができる.

評価割合

	試験	小テスト				合計
総合評価割合	50	50	0	100	配点	50



長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	英語IIIB (M)
科目基礎情報					
科目番号	0082	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般科	対象学年	3		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	CROWN English Communication III				
担当教員	小宮山 真美子				
目的・到達目標					
<p>科学・社会・文化などの様々なジャンルのテキストを読み、内容の理解を深める。物語であればストーリーの展開を捉えながら情報や要点をまとめ、説明文であれば書き手の意向や主張を批判的に解釈する上で、必要な読解方略を身につけられるよう学習してゆく。また、内容について英語の質問に英語で答えることを通じて、総合的なコミュニケーション能力の基本を身につける。以上により(F-2)の達成度を評価する。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
新しく学ぶ英単語や熟語の意味を正しく理解し、運用することができる。	新しく学ぶ英単語や熟語の意味のほとんどが言え、書くことができる。	新しく学ぶ英単語や熟語の意味を6割くらい言え、書くことができる。	新しく学ぶ英単語や熟語の意味の半分以下しか言えず、書くこともできない。		
新しい英文法を学び、文章の意味を日本語訳できるようになり、またその文法を使って英作文が作れる。	新しい英文法を使った文章の意味をほとんど日本語訳でき、またその文法を使ってほぼ完璧に英作文が作れる。	新しい英文法を使った文章の意味を6割くらい日本語訳でき、またその文法を使って6割くらいの英作文が作れる。	新しい英文法を使った文章の意味をほとんど訳せず、またその文法を使った英作文もほとんど作れない。		
パラグラフや文章全体の内容を理解し、それに対して文化的・専門的な情報を収集し、自分なりの視点から意見を述べられる。	パラグラフや文章全体の内容をほぼ完璧に把握し、それに対して多角的視点から独創的な意見を述べられる。	パラグラフや文章全体の内容を6割くらい把握し、それに対して自分なりの意見を述べられる。	パラグラフや文章全体の内容をほぼ把握しておらず、それに対して意見も述べられない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	<p>様々なタイプのテキストに触れ、読解力を養う。物語であれば登場人物の心理やストーリーの展開を捉えながらテーマに迫り、説明文であれば具体例を把握しながら書き手の意向や主張を批判的に読む力を養う。英語の質問に英語で答えることにも力点を置き、英語による総合的なコミュニケーション能力の伸長を図る。</p>				
授業の進め方と授業内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業方法は座学を中心とし、クラス全体での英文解釈をする。</li> <li>・適宜、課題プリント、ノートチェック、確認テストを課す。</li> <li>・課題は期限に遅れずに提出すること。</li> </ul>				
注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オフィスアワー：水曜日 14:30～16:00</li> <li>この時間以外でも必要に応じて来室して下さい</li> </ul>				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1週	オリエンテーション LESSON 1: Life as a Journey	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語Ⅲの授業・学習方法について説明。</li> <li>[人生・日本文化/説明文・エッセイ]</li> <li>・日本語と英語で表現される俳句を鑑賞し、その違いを味わう。</li> <li>・日本の雄大な自然に心動かされた芭蕉の心情を、自分の感情をことばで表す。</li> <li>・旅の厳しさと素晴らしさ、また旅が人生に与える影響について考え、意見を述べる。</li> </ul>		
	2週	LESSON 1: Life as a Journey	同上		
	3週	LESSON 2: God's Hands	<ul style="list-style-type: none"> <li>[人生・医療/インタビュー]</li> <li>・心臓外科医がこれまでに経験した苦難の体験を読み取る。</li> <li>・「天才」と呼ばれる人の陰の努力について読み取る。</li> <li>・判断の早さや的確さは経験に裏打ちされることを知る。</li> <li>・医師や医療の在り方についての自分の意見を発表する。</li> <li>・「人生における成功」について考え、発表させる。</li> </ul>		
	4週	LESSON 2: God's Hands	同上		
	5週	LESSON 3: Captured by Art	<ul style="list-style-type: none"> <li>[芸術/説明文]</li> <li>・美術館ではなく街中に現れるインスタレーションアートを楽しみ、さらにそのアーティストが目指していることを読み取る。</li> <li>・アートの定義について考える。</li> </ul>		
	6週	LESSON 3: Captured by Art	同上		
	7週	LESSON 3: Captured by Art	同上		
	8週	理解度の確認			
	9週	LESSON 4: Does Money Make You Mean?	<ul style="list-style-type: none"> <li>[社会・経済/説明文]</li> <li>・ポール・ピフがおこなった実験の内容と結果をの概要や要点を正しく読み取る。</li> <li>・経済状況の違いが人の行動に影響を及ぼすかどうか考える。</li> <li>・世界の経済格差の問題の改善策について考える。</li> </ul>		
	10週	LESSON 4: Does Money Make You Mean?	同上		
	11週	LESSON 5: The Biggest Event in Human History ... Or the Last?	<ul style="list-style-type: none"> <li>[科学/論説文]</li> <li>・AIの現状を知り、今後期待される可能性について考える。</li> <li>・AIが人間にもたらす利点と脅威について学ぶ。</li> <li>・AIとの共存のために人がすべきことを考え、話し合う。</li> </ul>		

後期		12週	LESSON 5: The Biggest Event in Human History ... Or the Last?	同上
		13週	LESSON 6: Only a Camera Lens between Us	[人生・平和/説明文] ・瀬谷ルミ子が現在の道に進むきっかけとなった出来事を読み取る。 ・紛争後の平和構築における行程で必要なことを読み取る。 ・社会貢献のあり方について考える。
		14週	LESSON 6: Only a Camera Lens between Us	同上
		15週	LESSON 6: Only a Camera Lens between Us	
		16週	前期未達成度試験	
		3rdQ	1週	LESSON 7: Being Bilingual
	2週		LESSON 7: Being Bilingual	同上
	3週		LESSON 7: Being Bilingual	同上
	4週		LESSON 8: The Magic of Reality	[科学/論説文] ・不思議な出来事に出会ったときにすべき判断の基準を正確に読み取り、そうした態度が科学の発展に寄与してきたことを理解する。 ・科学と「真実」の関係について考える。 ・世間で一般的に信じられていたことに反論した人物について学ぶ。
	5週		LESSON 8: The Magic of Reality	同上
	6週		LESSON 8: The Magic of Reality	同上
	7週		LESSON 8: The Magic of Reality	同上
	8週		理解度の確認	
	4thQ	9週	LESSON 9: Green Revolution, Blue Revolution	[環境/論説文] ・食料危機から水危機への流れを把握する。 ・世界の水危機について理解する。 ・ヴァーチャルウォーターの概念と、その輸出入の利点を理解する。 ・水危機の解決法、また他の危機について話し合う。
		10週	LESSON 9: Green Revolution, Blue Revolution	同上
		11週	LESSON 9: Green Revolution, Blue Revolution	同上
12週		LESSON 10: Looking into the Eye of History	[平和/スピーチ] ・スピーチのこぼれや表現を鑑賞する。 ・オバマ氏の平和に対する思いを読み取る。 ・スピーチの目的、聴衆に主張を伝える上でどのような要素が必要かを考える。	
13週		LESSON 10: Looking into the Eye of History	同上	
14週		LESSON 10: Looking into the Eye of History	同上	
15週		LESSON 10: Looking into the Eye of History	同上	
16週		学年未達成度試験		

評価割合

	試験	小テスト	授業参加態度	課題	合計
総合評価割合	70	10	10	10	100
基礎的能力	70	10	10	0	90
専門的能力	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	10	10

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	英語IIIB (E)
科目基礎情報					
科目番号	0083		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般科		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	CROWN English Communication III				
担当教員	小宮山 真美子				
目的・到達目標					
科学・社会・文化などの様々なジャンルのテキストを読み、内容の理解を深める。物語であればストーリーの展開を捉えながら情報や要点をまとめ、説明文であれば書き手の意向や主張を批判的に解釈する上で、必要な読解方略を身につけられるよう学習してゆく。また、内容について英語の質問に英語で答えることを通じて、総合的なコミュニケーション能力の基本を身につける。以上により(F-2)の達成度を評価する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
新しく学ぶ英単語や熟語の意味を正しく理解し、運用することができる。	新しく学ぶ英単語や熟語の意味のほとんどが言え、書くことができる。	新しく学ぶ英単語や熟語の意味を6割くらい言え、書くことができる。	新しく学ぶ英単語や熟語の意味の半分以下しか言えず、書くこともできない。		
新しい英文法を学び、文章の意味を日本語訳できるようになり、またその文法を使って英作文が作れる。	新しい英文法を使った文章の意味をほとんど日本語訳でき、またその文法を使ってほぼ完璧に英作文が作れる。	新しい英文法を使った文章の意味を6割くらい日本語訳でき、またその文法を使って6割くらいの英作文が作れる。	新しい英文法を使った文章の意味をほとんど訳せず、またその文法を使った英作文もほとんど作れない。		
パラグラフや文章全体の内容を理解し、それに対して文化的・専門的な情報を収集し、自分なりの視点から意見を述べられる。	パラグラフや文章全体の内容をほぼ完璧に把握し、それに対して多角的視点から独創的な意見を述べられる。	パラグラフや文章全体の内容を6割くらい把握し、それに対して自分なりの意見を述べられる。	パラグラフや文章全体の内容をほぼ把握しておらず、それに対して意見も述べられない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	様々なタイプのテキストに触れ、読解力を養う。物語であれば登場人物の心理やストーリーの展開を捉えながらテーマに迫り、説明文であれば具体例を把握しながら書き手の意向や主張を批判的に読む力を養う。英語の質問に英語で答えることにも力点を置き、英語による総合的なコミュニケーション能力の伸長を図る。				
授業の進め方と授業内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業方法は座学を中心とし、クラス全体での英文解釈をする。</li> <li>・適宜、課題プリント、ノートチェック、確認テストを課す。</li> <li>・課題は期限に遅れずに提出すること。</li> </ul>				
注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オフィスアワー：水曜日 14:30～16:00</li> <li>この時間以外でも必要に応じて来室して下さい</li> </ul>				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1週	オリエンテーション LESSON 1: Life as a Journey	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語Ⅲの授業・学習方法について説明。</li> <li>[人生・日本文化/説明文・エッセイ]</li> <li>・日本語と英語で表現される俳句を鑑賞し、その違いを味わう。</li> <li>・日本の雄大な自然に心動かされた芭蕉の心情を、自分の感情をことばで表す。</li> <li>・旅の厳しさと素晴らしさ、また旅が人生に与える影響について考え、意見を述べる。</li> </ul>		
	2週	LESSON 1: Life as a Journey	同上		
	3週	LESSON 2: God's Hands	<ul style="list-style-type: none"> <li>[人生・医療/インタビュー]</li> <li>・心臓外科医がこれまでに経験した苦難の体験を読み取る。</li> <li>・「天才」と呼ばれる人の陰の努力について読み取る。</li> <li>・判断の早さや的確さは経験に裏打ちされることを知る。</li> <li>・医師や医療の在り方についての自分の意見を発表する。</li> <li>・「人生における成功」について考え、発表させる。</li> </ul>		
	4週	LESSON 2: God's Hands	同上		
	5週	LESSON 3: Captured by Art	<ul style="list-style-type: none"> <li>[芸術/説明文]</li> <li>・美術館ではなく街中に現れるインスタレーションアートを楽しみ、さらにそのアーティストが目指していることを読み取る。</li> <li>・アートの定義について考える。</li> </ul>		
	6週	LESSON 3: Captured by Art	同上		
	7週	LESSON 3: Captured by Art	同上		
	8週	理解度の確認			
	9週	LESSON 4: Does Money Make You Mean?	<ul style="list-style-type: none"> <li>[社会・経済/説明文]</li> <li>・ポール・ピフがおこなった実験の内容と結果をの概要や要点を正しく読み取る。</li> <li>・経済状況の違いが人の行動に影響を及ぼすかどうか考える。</li> <li>・世界の経済格差の問題の改善策について考える。</li> </ul>		
	10週	LESSON 4: Does Money Make You Mean?	同上		
	11週	LESSON 5: The Biggest Event in Human History ... Or the Last?	<ul style="list-style-type: none"> <li>[科学/論説文]</li> <li>・AIの現状を知り、今後期待される可能性について考える。</li> <li>・AIが人間にもたらす利点と脅威について学ぶ。</li> <li>・AIとの共存のために人がすべきことを考え、話し合う。</li> </ul>		

後期		12週	LESSON 5: The Biggest Event in Human History ... Or the Last?	同上		
		13週	LESSON 6: Only a Camera Lens between Us	[人生・平和/説明文] ・瀬谷ルミ子が現在の道に進むきっかけとなった出来事を読み取る。 ・紛争後の平和構築における行程で必要なことを読み取る。 ・社会貢献のあり方について考える。		
		14週	LESSON 6: Only a Camera Lens between Us	同上		
		15週	LESSON 6: Only a Camera Lens between Us			
		16週	前期未達成度試験			
	3rdQ		1週	LESSON 7: Being Bilingual	[言語・比較文化/説明文] ・日本にいと気づきにくい、世界の二言語併用の現実について理解する。 ・母語をめぐって争われた歴史を知り、それがアイデンティティ形成に同結びつくのかを考える。 ・日本で英語を公用語にすることや、日本で各言語のサービスを行うことについて、自分の意見を持つ。	
			2週	LESSON 7: Being Bilingual	同上	
			3週	LESSON 7: Being Bilingual	同上	
		4週		4週	LESSON 8: The Magic of Reality	[科学/論説文] ・不思議な出来事に出会ったときにすべき判断の基準を正確に読み取り、そうした態度が科学の発展に寄与してきたことを理解する。 ・科学と「真実」の関係について考える。 ・世間で一般的に信じられていたことに反論した人物について学ぶ。
				5週	LESSON 8: The Magic of Reality	同上
				6週	LESSON 8: The Magic of Reality	同上
				7週	LESSON 8: The Magic of Reality	同上
				8週	理解度の確認	
	4thQ		9週	LESSON 9: Green Revolution, Blue Revolution	[環境/論説文] ・食料危機から水危機への流れを把握する。 ・世界の水危機について理解する。 ・ヴァーチャルウォーターの概念と、その輸出入の利点を理解する。 ・水危機の解決法、また他の危機について話し合う。	
			10週	LESSON 9: Green Revolution, Blue Revolution	同上	
			11週	LESSON 9: Green Revolution, Blue Revolution	同上	
12週			12週	LESSON 10: Looking into the Eye of History	[平和/スピーチ] ・スピーチのこぼれや表現を鑑賞する。 ・オバマ氏の平和に対する思いを読み取る。 ・スピーチの目的、聴衆に主張を伝える上でどのような要素が必要かを考える。	
			13週	LESSON 10: Looking into the Eye of History	同上	
			14週	LESSON 10: Looking into the Eye of History	同上	
			15週	LESSON 10: Looking into the Eye of History	同上	
			16週	学年未達成度試験		

評価割合

	試験	小テスト	授業参加態度	課題	合計
総合評価割合	70	10	10	10	100
基礎的能力	70	10	10	0	90
専門的能力	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	10	10

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	英語IIIB (S)
科目基礎情報					
科目番号	0084	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般科	対象学年	3		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	CROWN English Communication III				
担当教員	徳竹 ゆう子				
目的・到達目標					
科学・社会・文化などの様々なジャンルのテキストを読み、内容の理解を深める。物語であればストーリーの展開を捉えながら情報や要点をまとめ、説明文であれば書き手の意向や主張を批判的に解釈する上で、必要な読解方略を身につけられるよう学習してゆく。また、内容について英語の質問に英語で答えることを通じて、総合的なコミュニケーション能力の基本を身につける。以上により(F-2)の達成度を評価する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
新しく学ぶ英単語や熟語の意味を正しく理解し、運用することができる。	新しく学ぶ英単語や熟語の意味のほとんどが言え、書くことができる。	新しく学ぶ英単語や熟語の意味を6割くらい言え、書くことができる。	新しく学ぶ英単語や熟語の意味の半分以下しか言えず、書くこともできない。		
新しい英文法を学び、文章の意味を日本語訳できるようになり、またその文法を使って英作文が作れる。	新しい英文法を使った文章の意味をほとんど日本語訳でき、またその文法を使ってほぼ完璧に英作文が作れる。	新しい英文法を使った文章の意味を6割くらい日本語訳でき、またその文法を使って6割くらいの英作文が作れる。	新しい英文法を使った文章の意味をほとんど訳せず、またその文法を使った英作文もほとんど作れない。		
パラグラフや文章全体の内容を理解し、それに対して文化的・専門的な情報を収集し、自分なりの視点から意見を述べられる。	パラグラフや文章全体の内容をほぼ完璧に把握し、それに対して多角的視点から独創的な意見を述べられる。	パラグラフや文章全体の内容を6割くらい把握し、それに対して自分なりの意見を述べられる。	パラグラフや文章全体の内容をほぼ把握しておらず、それに対して意見も述べられない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	様々なタイプのテキストに触れ、読解力を養う。物語であれば登場人物の心理やストーリーの展開を捉えながらテーマに迫り、説明文であれば具体例を把握しながら書き手の意向や主張を批判的に読む力を養う。英語の質問に英語で答えることにも力点を置き、英語による総合的なコミュニケーション能力の伸長を図る。				
授業の進め方と授業内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業方法は座学を中心とし、クラス全体での英文解釈をする。</li> <li>・適宜、課題プリント、ノートチェック、確認テストを課す。</li> <li>・課題は期限に遅れずに提出すること。</li> </ul>				
注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オフィスアワー：水曜日 14:30～16:00</li> <li>この時間以外でも必要に応じて来室して下さい</li> </ul>				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1週	オリエンテーション LESSON 1: Life as a Journey	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語Ⅲの授業・学習方法について説明。</li> <li>[人生・日本文化/説明文・エッセイ]</li> <li>・日本語と英語で表現される俳句を鑑賞し、その違いを味わう。</li> <li>・日本の雄大な自然に心動かされた芭蕉の心情を、自分の感情をことばで表す。</li> <li>・旅の厳しさと素晴らしさ、また旅が人生に与える影響について考え、意見を述べる。</li> </ul>		
	2週	LESSON 1: Life as a Journey	同上		
	3週	LESSON 2: God's Hands	<ul style="list-style-type: none"> <li>[人生・医療/インタビュー]</li> <li>・心臓外科医がこれまでに経験した苦難の体験を読み取る。</li> <li>・「天才」と呼ばれる人の陰の努力について読み取る。</li> <li>・判断の早さや的確さは経験に裏打ちされることを知る。</li> <li>・医師や医療の在り方についての自分の意見を発表する。</li> <li>・「人生における成功」について考え、発表させる。</li> </ul>		
	4週	LESSON 2: God's Hands	同上		
	5週	LESSON 3: Captured by Art	<ul style="list-style-type: none"> <li>[芸術/説明文]</li> <li>・美術館ではなく街中に現れるインスタレーションアートを楽しみ、さらにそのアーティストが目指していることを読み取る。</li> <li>・アートの定義について考える。</li> </ul>		
	6週	LESSON 3: Captured by Art	同上		
	7週	LESSON 3: Captured by Art	同上		
	8週	理解度の確認			
	9週	LESSON 4: Does Money Make You Mean?	<ul style="list-style-type: none"> <li>[社会・経済/説明文]</li> <li>・ポール・ピフがおこなった実験の内容と結果をの概要や要点を正しく読み取る。</li> <li>・経済状況の違いが人の行動に影響を及ぼすかどうか考える。</li> <li>・世界の経済格差の問題の改善策について考える。</li> </ul>		
	10週	LESSON 4: Does Money Make You Mean?	同上		
	11週	LESSON 5: The Biggest Event in Human History ... Or the Last?	<ul style="list-style-type: none"> <li>[科学/論説文]</li> <li>・AIの現状を知り、今後期待される可能性について考える。</li> <li>・AIが人間にもたらす利点と脅威について学ぶ。</li> <li>・AIとの共存のために人がすべきことを考え、話し合う。</li> </ul>		

後期		12週	LESSON 5: The Biggest Event in Human History ... Or the Last?	同上		
		13週	LESSON 6: Only a Camera Lens between Us	[人生・平和/説明文] ・瀬谷ルミ子が現在の道に進むきっかけとなった出来事を読み取る。 ・紛争後の平和構築における行程で必要なことを読み取る。 ・社会貢献のあり方について考える。		
		14週	LESSON 6: Only a Camera Lens between Us	同上		
		15週	LESSON 6: Only a Camera Lens between Us			
		16週	前期未達成度試験			
	3rdQ		1週	LESSON 7: Being Bilingual	[言語・比較文化/説明文] ・日本にいと気づきにくい、世界の二言語併用の現実について理解する。 ・母語をめぐって争われた歴史を知り、それがアイデンティティ形成に同結びつくのかを考える。 ・日本で英語を公用語にすることや、日本で各言語のサービスを行うことについて、自分の意見を持つ。	
			2週	LESSON 7: Being Bilingual	同上	
			3週	LESSON 7: Being Bilingual	同上	
		4週	LESSON 8: The Magic of Reality	4週	[科学/論説文] ・不思議な出来事に出会ったときにすべき判断の基準を正確に読み取り、そうした態度が科学の発展に寄与してきたことを理解する。 ・科学と「真実」の関係について考える。 ・世間で一般的に信じられていたことに反論した人物について学ぶ。	
				5週	LESSON 8: The Magic of Reality	同上
				6週	LESSON 8: The Magic of Reality	同上
				7週	LESSON 8: The Magic of Reality	同上
				8週	理解度の確認	
	4thQ		9週	LESSON 9: Green Revolution, Blue Revolution	[環境/論説文] ・食料危機から水危機への流れを把握する。 ・世界の水危機について理解する。 ・ヴァーチャルウォーターの概念と、その輸出入の利点を理解する。 ・水危機の解決法、また他の危機について話し合う。	
			10週	LESSON 9: Green Revolution, Blue Revolution	同上	
			11週	LESSON 9: Green Revolution, Blue Revolution	同上	
12週		LESSON 10: Looking into the Eye of History	12週	[平和/スピーチ] ・スピーチのこぼれや表現を鑑賞する。 ・オバマ氏の平和に対する思いを読み取る。 ・スピーチの目的、聴衆に主張を伝える上でどのような要素が必要かを考える。		
			13週	LESSON 10: Looking into the Eye of History	同上	
			14週	LESSON 10: Looking into the Eye of History	同上	
			15週	LESSON 10: Looking into the Eye of History	同上	
			16週	学年未達成度試験		

評価割合

	試験	小テスト	授業参加態度	課題	合計
総合評価割合	70	10	10	10	100
基礎的能力	70	10	10	0	90
専門的能力	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	10	10

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	英語IIIB (J)
科目基礎情報					
科目番号	0085	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般科	対象学年	3		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	CROWN English Communication III				
担当教員	小宮山 真美子				
目的・到達目標					
科学・社会・文化などの様々なジャンルのテキストを読み、内容の理解を深める。物語であればストーリーの展開を捉えながら情報や要点をまとめ、説明文であれば書き手の意向や主張を批判的に解釈する上で、必要な読解方略を身につけられるよう学習してゆく。また、内容について英語の質問に英語で答えることを通じて、総合的なコミュニケーション能力の基本を身につける。以上により(F-2)の達成度を評価する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
新しく学ぶ英単語や熟語の意味を正しく理解し、運用することができる。	新しく学ぶ英単語や熟語の意味のほとんどが言え、書くことができる。	新しく学ぶ英単語や熟語の意味を6割くらい言え、書くことができる。	新しく学ぶ英単語や熟語の意味の半分以下しか言えず、書くこともできない。		
新しい英文法を学び、文章の意味を日本語訳できるようになり、またその文法を使って英作文が作れる。	新しい英文法を使った文章の意味をほとんど日本語訳でき、またその文法を使ってほぼ完璧に英作文が作れる。	新しい英文法を使った文章の意味を6割くらい日本語訳でき、またその文法を使って6割くらいの英作文が作れる。	新しい英文法を使った文章の意味をほとんど訳せず、またその文法を使った英作文もほとんど作れない。		
パラグラフや文章全体の内容を理解し、それに対して文化的・専門的な情報を収集し、自分なりの視点から意見を述べられる。	パラグラフや文章全体の内容をほぼ完璧に把握し、それに対して多角的視点から独創的な意見を述べられる。	パラグラフや文章全体の内容を6割くらい把握し、それに対して自分なりの意見を述べられる。	パラグラフや文章全体の内容をほぼ把握しておらず、それに対して意見も述べられない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	様々なタイプのテキストに触れ、読解力を養う。物語であれば登場人物の心理やストーリーの展開を捉えながらテーマに迫り、説明文であれば具体例を把握しながら書き手の意向や主張を批判的に読む力を養う。英語の質問に英語で答えることにも力点を置き、英語による総合的なコミュニケーション能力の伸長を図る。				
授業の進め方と授業内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業方法は座学を中心とし、クラス全体での英文解釈をする。</li> <li>・適宜、課題プリント、ノートチェック、確認テストを課す。</li> <li>・課題は期限に遅れずに提出すること。</li> </ul>				
注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オフィスアワー：水曜日 14:30～16:00</li> <li>この時間以外でも必要に応じて来室して下さい</li> </ul>				
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション LESSON 1: Life as a Journey	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語Ⅲの授業・学習方法について説明。</li> <li>[人生・日本文化/説明文・エッセイ]</li> <li>・日本語と英語で表現される俳句を鑑賞し、その違いを味わう。</li> <li>・日本の雄大な自然に心動かされた芭蕉の心情を、自分の感情をことばで表す。</li> <li>・旅の厳しさと素晴らしさ、また旅が人生に与える影響について考え、意見を述べる。</li> </ul>	
		2週	LESSON 1: Life as a Journey	同上	
		3週	LESSON 2: God's Hands	<ul style="list-style-type: none"> <li>[人生・医療/インタビュー]</li> <li>・心臓外科医がこれまでに経験した苦難の体験を読み取る。</li> <li>・「天才」と呼ばれる人の陰の努力について読み取る。</li> <li>・判断の早さや的確さは経験に裏打ちされることを知る。</li> <li>・医師や医療の在り方についての自分の意見を発表する。</li> <li>・「人生における成功」について考え、発表させる。</li> </ul>	
		4週	LESSON 2: God's Hands	同上	
		5週	LESSON 3: Captured by Art	<ul style="list-style-type: none"> <li>[芸術/説明文]</li> <li>・美術館ではなく街中に現れるインスタレーションアートを楽しみ、さらにそのアーティストが目指していることを読み取る。</li> <li>・アートの定義について考える。</li> </ul>	
		6週	LESSON 3: Captured by Art	同上	
		7週	LESSON 3: Captured by Art	同上	
		8週	理解度の確認		
	2ndQ	9週	LESSON 4: Does Money Make You Mean?	<ul style="list-style-type: none"> <li>[社会・経済/説明文]</li> <li>・ポール・ピフがおこなった実験の内容と結果をの概要や要点を正しく読み取る。</li> <li>・経済状況の違いが人の行動に影響を及ぼすかどうか考える。</li> <li>・世界の経済格差の問題の改善策について考える。</li> </ul>	
		10週	LESSON 4: Does Money Make You Mean?	同上	
		11週	LESSON 5: The Biggest Event in Human History ... Or the Last?	<ul style="list-style-type: none"> <li>[科学/論説文]</li> <li>・AIの現状を知り、今後期待される可能性について考える。</li> <li>・AIが人間にもたらす利点と脅威について学ぶ。</li> <li>・AIとの共存のために人がすべきことを考え、話し合う。</li> </ul>	

後期		12週	LESSON 5: The Biggest Event in Human History ... Or the Last?	同上
		13週	LESSON 6: Only a Camera Lens between Us	[人生・平和/説明文] ・瀬谷ルミ子が現在の道に進むきっかけとなった出来事を読み取る。 ・紛争後の平和構築における行程で必要なことを読み取る。 ・社会貢献のあり方について考える。
		14週	LESSON 6: Only a Camera Lens between Us	同上
		15週	LESSON 6: Only a Camera Lens between Us	
		16週	前期未達成度試験	
		3rdQ	1週	LESSON 7: Being Bilingual
	2週		LESSON 7: Being Bilingual	同上
	3週		LESSON 7: Being Bilingual	同上
	4週		LESSON 8: The Magic of Reality	[科学/論説文] ・不思議な出来事に出会ったときにすべき判断の基準を正確に読み取り、そうした態度が科学の発展に寄与してきたことを理解する。 ・科学と「真実」の関係について考える。 ・世間で一般的に信じられていたことに反論した人物について学ぶ。
	5週		LESSON 8: The Magic of Reality	同上
	6週		LESSON 8: The Magic of Reality	同上
	7週		LESSON 8: The Magic of Reality	同上
	8週		理解度の確認	
	4thQ	9週	LESSON 9: Green Revolution, Blue Revolution	[環境/論説文] ・食料危機から水危機への流れを把握する。 ・世界の水危機について理解する。 ・ヴァーチャルウォーターの概念と、その輸出入の利点を理解する。 ・水危機の解決法、また他の危機について話し合う。
		10週	LESSON 9: Green Revolution, Blue Revolution	同上
		11週	LESSON 9: Green Revolution, Blue Revolution	同上
12週		LESSON 10: Looking into the Eye of History	[平和/スピーチ] ・スピーチのこぼれや表現を鑑賞する。 ・オバマ氏の平和に対する思いを読み取る。 ・スピーチの目的、聴衆に主張を伝える上でどのような要素が必要かを考える。	
13週		LESSON 10: Looking into the Eye of History	同上	
14週		LESSON 10: Looking into the Eye of History	同上	
15週		LESSON 10: Looking into the Eye of History	同上	
16週		学年未達成度試験		

評価割合

	試験	小テスト	授業参加態度	課題	合計
総合評価割合	70	10	10	10	100
基礎的能力	70	10	10	0	90
専門的能力	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	10	10



長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	英語III B (C)
科目基礎情報					
科目番号	0086	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般科	対象学年	3		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	CROWN English Communication III				
担当教員	徳竹 ゆう子				
目的・到達目標					
科学・社会・文化などの様々なジャンルのテキストを読み、内容の理解を深める。物語であればストーリーの展開を捉えながら情報や要点をまとめ、説明文であれば書き手の意向や主張を批判的に解釈する上で、必要な読解方略を身につけられるよう学習してゆく。また、内容について英語の質問に英語で答えることを通じて、総合的なコミュニケーション能力の基本を身につける。以上により(F-2)の達成度を評価する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
新しく学ぶ英単語や熟語の意味を正しく理解し、運用することができる。	新しく学ぶ英単語や熟語の意味のほとんどが言え、書くことができる。	新しく学ぶ英単語や熟語の意味を6割くらい言え、書くことができる。	新しく学ぶ英単語や熟語の意味の半分以下しか言えず、書くこともできない。		
新しい英文法を学び、文章の意味を日本語訳できるようになり、またその文法を使って英作文が作れる。	新しい英文法を使った文章の意味をほとんど日本語訳でき、またその文法を使ってほぼ完璧に英作文が作れる。	新しい英文法を使った文章の意味を6割くらい日本語訳でき、またその文法を使って6割くらいの英作文が作れる。	新しい英文法を使った文章の意味をほとんど訳せず、またその文法を使った英作文もほとんど作れない。		
パラグラフや文章全体の内容を理解し、それに対して文化的・専門的な情報を収集し、自分なりの視点から意見を述べられる。	パラグラフや文章全体の内容をほぼ完璧に把握し、それに対して多角的視点から独創的な意見を述べられる。	パラグラフや文章全体の内容を6割くらい把握し、それに対して自分なりの意見を述べられる。	パラグラフや文章全体の内容をほぼ把握しておらず、それに対して意見も述べられない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	様々なタイプのテキストに触れ、読解力を養う。物語であれば登場人物の心理やストーリーの展開を捉えながらテーマに迫り、説明文であれば具体例を把握しながら書き手の意向や主張を批判的に読む力を養う。英語の質問に英語で答えることにも力点を置き、英語による総合的なコミュニケーション能力の伸長を図る。				
授業の進め方と授業内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業方法は座学を中心とし、クラス全体での英文解釈をする。</li> <li>・適宜、課題プリント、ノートチェック、確認テストを課す。</li> <li>・課題は期限に遅れずに提出すること。</li> </ul>				
注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オフィスアワー：水曜日 14:30～16:00</li> <li>この時間以外でも必要に応じて来室して下さい</li> </ul>				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1週	オリエンテーション LESSON 1: Life as a Journey	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語Ⅲの授業・学習方法について説明。</li> <li>[人生・日本文化/説明文・エッセイ]</li> <li>・日本語と英語で表現される俳句を鑑賞し、その違いを味わう。</li> <li>・日本の雄大な自然に心動かされた芭蕉の心情を、自分の感情をことばで表す。</li> <li>・旅の厳しさと素晴らしさ、また旅が人生に与える影響について考え、意見を述べる。</li> </ul>		
	2週	LESSON 1: Life as a Journey	同上		
	3週	LESSON 2: God's Hands	<ul style="list-style-type: none"> <li>[人生・医療/インタビュー]</li> <li>・心臓外科医がこれまでに経験した苦難の体験を読み取る。</li> <li>・「天才」と呼ばれる人の陰の努力について読み取る。</li> <li>・判断の早さや的確さは経験に裏打ちされることを知る。</li> <li>・医師や医療の在り方についての自分の意見を発表する。</li> <li>・「人生における成功」について考え、発表させる。</li> </ul>		
	4週	LESSON 2: God's Hands	同上		
	5週	LESSON 3: Captured by Art	<ul style="list-style-type: none"> <li>[芸術/説明文]</li> <li>・美術館ではなく街中に現れるインスタレーションアートを楽しみ、さらにそのアーティストが目指していることを読み取る。</li> <li>・アートの定義について考える。</li> </ul>		
	6週	LESSON 3: Captured by Art	同上		
	7週	LESSON 3: Captured by Art	同上		
	8週	理解度の確認			
	9週	LESSON 4: Does Money Make You Mean?	<ul style="list-style-type: none"> <li>[社会・経済/説明文]</li> <li>・ポール・ピフがおこなった実験の内容と結果をの概要や要点を正しく読み取る。</li> <li>・経済状況の違いが人の行動に影響を及ぼすかどうか考える。</li> <li>・世界の経済格差の問題の改善策について考える。</li> </ul>		
	10週	LESSON 4: Does Money Make You Mean?	同上		
	11週	LESSON 5: The Biggest Event in Human History ... Or the Last?	<ul style="list-style-type: none"> <li>[科学/論説文]</li> <li>・AIの現状を知り、今後期待される可能性について考える。</li> <li>・AIが人間にもたらす利点と脅威について学ぶ。</li> <li>・AIとの共存のために人がすべきことを考え、話し合う。</li> </ul>		

後期		12週	LESSON 5: The Biggest Event in Human History ... Or the Last?	同上		
		13週	LESSON 6: Only a Camera Lens between Us	[人生・平和/説明文] ・瀬谷ルミ子が現在の道に進むきっかけとなった出来事を読み取る。 ・紛争後の平和構築における行程で必要なことを読み取る。 ・社会貢献のあり方について考える。		
		14週	LESSON 6: Only a Camera Lens between Us	同上		
		15週	LESSON 6: Only a Camera Lens between Us			
		16週	前期未達成度試験			
	3rdQ		1週	LESSON 7: Being Bilingual	[言語・比較文化/説明文] ・日本にいと気づきにくい、世界の二言語併用の現実について理解する。 ・母語をめぐって争われた歴史を知り、それがアイデンティティ形成に同結びつくのかを考える。 ・日本で英語を公用語にすることや、日本で各言語のサービスを行うことについて、自分の意見を持つ。	
			2週	LESSON 7: Being Bilingual	同上	
			3週	LESSON 7: Being Bilingual	同上	
		4週	LESSON 8: The Magic of Reality	4週	[科学/論説文] ・不思議な出来事に出会ったときにすべき判断の基準を正確に読み取り、そうした態度が科学の発展に寄与してきたことを理解する。 ・科学と「真実」の関係について考える。 ・世間で一般的に信じられていたことに反論した人物について学ぶ。	
				5週	LESSON 8: The Magic of Reality	同上
				6週	LESSON 8: The Magic of Reality	同上
				7週	LESSON 8: The Magic of Reality	同上
				8週	理解度の確認	
	4thQ		9週	LESSON 9: Green Revolution, Blue Revolution	[環境/論説文] ・食料危機から水危機への流れを把握する。 ・世界の水危機について理解する。 ・ヴァーチャルウォーターの概念と、その輸出入の利点を理解する。 ・水危機の解決法、また他の危機について話し合う。	
			10週	LESSON 9: Green Revolution, Blue Revolution	同上	
			11週	LESSON 9: Green Revolution, Blue Revolution	同上	
12週		LESSON 10: Looking into the Eye of History	12週	[平和/スピーチ] ・スピーチのこぼれや表現を鑑賞する。 ・オバマ氏の平和に対する思いを読み取る。 ・スピーチの目的、聴衆に主張を伝える上でどのような要素が必要かを考える。		
			13週	LESSON 10: Looking into the Eye of History	同上	
			14週	LESSON 10: Looking into the Eye of History	同上	
			15週	LESSON 10: Looking into the Eye of History	同上	
			16週	学年未達成度試験		

評価割合

	試験	小テスト	授業参加態度	課題	合計
総合評価割合	70	10	10	10	100
基礎的能力	70	10	10	0	90
専門的能力	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	10	10

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	国語Ⅳ (機械)	
科目基礎情報						
科目番号	0043		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般科		対象学年	4		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	教科書: 『書き込み式 日本語表現ノート』名古屋大学日本語表現研究会 三弥井書店					
担当教員	牧 千夏					
目的・到達目標						
・論理的で実用的な文章を書くことができ、発表資料を用いて口頭発表することができることによって、(A-1)の達成とする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	論理的で実用的な文章を書くことができる。		おおむね論理的で実用的な文章をかくことができる。		論理的で実用的な文章を書くことができない。	
評価項目2	効果的な発表資料を作成できる。		おおむね効果的な発表資料を作成できる。		効果的な発表資料を作成できない。	
評価項目3	的確な口頭発表をすることができる。		おおむね的確な口頭発表をすることができる。		的確な口頭発表をすることができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	論理的で実用的な文章を書く講義および実習を行い、発表資料を用いて口頭発表する実習を行う。					
授業の進め方と授業内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業は講義と実習を中心とし、課題は小論文や発表資料作成等を課す。</li> <li>・課題は、期限内に遅れず提出すること。</li> </ul> <p>なお、この科目は学修単位科目であり、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が必要である。事前・事後学習として課題等を与える。</p>					
注意点	<p>&lt;成績評価&gt; 小論文(45%)・発表資料(30%)・口頭発表(20%)・メール(5%)の合計100点満点で(A-1)を評価し、合計の6割以上を獲得した者を合格とする。</p> <p>&lt;オフィスアワー&gt; 放課後 16:00 ~ 17:00, 一般科棟 3階。</p> <p>&lt;先修科目・後修科目&gt; 先修科目は国語Ⅲ</p>					
授業計画						
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス	本科目の目的や概要などについて理解できる。		
		2週	文の書き方	主語述語を対応させた文章を書くことができる。		
		3週	文の接続の仕方・表記	接続詞の働きを知り、使うことができる。表記を統一させることができる。		
		4週	パラグラフライティング①解説	パラグラフライティングの概要を理解できる。		
		5週	パラグラフライティング②実習	パラグラフライティングによって、短い文章を書くことができる。		
		6週	パラグラフライティング③実習	前週に書いた文章をよりよく書き直すことができる。		
		7週	小論文①解説	小論文の概要を理解することができる。		
		8週	小論文②実習	論理的な小論文を書くことができる。		
	4thQ	9週	小論文③実習	前週に書いた小論文ををよりよく書き直すことができる。		
		10週	発表資料①解説	発表資料作成の手順を理解することができる。		
		11週	発表資料②作成	効果的な発表資料を作成することができる。		
		12週	発表資料③作成	優れた資料を参考にし、より効果的な発表資料を作成することができる。		
		13週	口頭発表①実習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分かりやすく、的確な口頭発表をすることができる</li> <li>・発表を聞き、意見や質問をできる。</li> </ul>		
		14週	口頭発表②実習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分かりやすく、的確な口頭発表をすることができる</li> <li>・発表を聞き、意見や質問をできる。</li> </ul>		
		15週	メールの書き方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体裁の整ったメールを書くことができる</li> </ul>		
		16週				
評価割合						
	試験	小論文	発表資料	口頭発表	メール	合計
総合評価割合	0	45	30	20	5	100
配点	0	45	30	20	5	100

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	国語Ⅳ (電気)	
科目基礎情報						
科目番号	0044		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般科		対象学年	4		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	教科書: 『書き込み式 日本語表現ノート』名古屋大学日本語表現研究会 三弥井書店					
担当教員	牧 千夏					
目的・到達目標						
・論理的で実用的な文章を書くことができ、発表資料を用いて口頭発表することができることによって、(A-1)の達成とする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	論理的で実用的な文章を書くことができる。		おおむね論理的で実用的な文章をかくことができる。		論理的で実用的な文章を書くことができない。	
評価項目2	効果的な発表資料を作成できる。		おおむね効果的な発表資料を作成できる。		効果的な発表資料を作成できない。	
評価項目3	的確な口頭発表をすることができる。		おおむね的確な口頭発表をすることができる。		的確な口頭発表をすることができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	論理的で実用的な文章を書く講義および実習を行い、発表資料を用いて口頭発表する実習を行う。					
授業の進め方と授業内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業は講義と実習を中心とし、課題は小論文や発表資料作成等を課す。</li> <li>・課題は、期限内に遅れず提出すること。</li> </ul> <p>なお、この科目は学修単位科目であり、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が必要である。事前・事後学習として課題等を与える。</p>					
注意点	<p>&lt;成績評価&gt;・小論文(45%)・発表資料(30%)・口頭発表(20%)・メール(5%)の合計100点満点で(A-1)を評価し、合計の6割以上を獲得した者を合格とする。</p> <p>&lt;オフィスアワー&gt;放課後 16:00 ~ 17:00, 一般科棟 3階。</p> <p>&lt;先修科目・後修科目&gt;先修科目は国語Ⅲ</p>					
授業計画						
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス	本科目の目的や概要などについて理解できる。		
		2週	文の書き方	主語述語を対応させた文章を書くことができる。		
		3週	文の接続の仕方・表記	接続詞の働きを知り、使うことができる。表記を統一させることができる。		
		4週	パラグラフライティング①解説	パラグラフライティングの概要を理解できる。		
		5週	パラグラフライティング②実習	パラグラフライティングによって、短い文章を書くことができる。		
		6週	パラグラフライティング③実習	前週に書いた文章をよりよく書き直すことができる。		
		7週	小論文①解説	小論文の概要を理解することができる。		
		8週	小論文②実習	論理的な小論文を書くことができる。		
	4thQ	9週	小論文③実習	前週に書いた小論文ををよりよく書き直すことができる。		
		10週	発表資料①解説	発表資料作成の手順を理解することができる。		
		11週	発表資料②作成	効果的な発表資料を作成することができる。		
		12週	発表資料③作成	優れた資料を参考にし、より効果的な発表資料を作成することができる。		
		13週	口頭発表①実習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分かりやすく、的確な口頭発表をすることができる</li> <li>・発表を聞き、意見や質問をできる。</li> </ul>		
		14週	口頭発表②実習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分かりやすく、的確な口頭発表をすることができる</li> <li>・発表を聞き、意見や質問をできる。</li> </ul>		
		15週	メールの書き方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体裁の整ったメールを書くことができる</li> </ul>		
		16週				
評価割合						
	試験	小論文	発表資料	口頭発表	メール	合計
総合評価割合	0	45	30	20	5	100
配点	0	45	30	20	5	100

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	国語Ⅳ (制御)	
科目基礎情報						
科目番号	0045		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般科		対象学年	4		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	教科書: 『書き込み式 日本語表現ノート』名古屋大学日本語表現研究会 三弥井書店					
担当教員	牧 千夏					
目的・到達目標						
・論理的で実用的な文章を書くことができ、発表資料を用いて口頭発表することができることによって、(A-1)の達成とする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	論理的で実用的な文章を書くことができる。		おおむね論理的で実用的な文章をかくことができる。		論理的で実用的な文章を書くことができない。	
評価項目2	効果的な発表資料を作成できる。		おおむね効果的な発表資料を作成できる。		効果的な発表資料を作成できない。	
評価項目3	的確な口頭発表をすることができる。		おおむね的確な口頭発表をすることができる。		的確な口頭発表をすることができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	論理的で実用的な文章を書く講義および実習を行い、発表資料を用いて口頭発表する実習を行う。					
授業の進め方と授業内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業は講義と実習を中心とし、課題は小論文や発表資料作成等を課す。</li> <li>・課題は、期限内に遅れず提出すること。</li> </ul> <p>なお、この科目は学修単位科目であり、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が必要である。事前・事後学習として課題等を与える。</p>					
注意点	<p>&lt;成績評価&gt;・小論文(45%)・発表資料(30%)・口頭発表(20%)・メール(5%)の合計100点満点で(A-1)を評価し、合計の6割以上を獲得した者を合格とする。</p> <p>&lt;オフィスアワー&gt;放課後 16:00 ~ 17:00, 一般科棟 3階。</p> <p>&lt;先修科目・後修科目&gt;先修科目は国語Ⅲ</p>					
授業計画						
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス	本科目の目的や概要などについて理解できる。		
		2週	文の書き方	主語述語を対応させた文章を書くことができる。		
		3週	文の接続の仕方・表記	接続詞の働きを知り、使うことができる。表記を統一させることができる。		
		4週	パラグラフライティング①解説	パラグラフライティングの概要を理解できる。		
		5週	パラグラフライティング②実習	パラグラフライティングによって、短い文章を書くことができる。		
		6週	パラグラフライティング③実習	前週に書いた文章をよりよく書き直すことができる。		
		7週	小論文①解説	小論文の概要を理解することができる。		
		8週	小論文②実習	論理的な小論文を書くことができる。		
	4thQ	9週	小論文③実習	前週に書いた小論文ををよりよく書き直すことができる。		
		10週	発表資料①解説	発表資料作成の手順を理解することができる。		
		11週	発表資料②作成	効果的な発表資料を作成することができる。		
		12週	発表資料③作成	優れた資料を参考にし、より効果的な発表資料を作成することができる。		
		13週	口頭発表①実習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分かりやすく、的確な口頭発表をすることができる</li> <li>・発表を聞き、意見や質問をできる。</li> </ul>		
		14週	口頭発表②実習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分かりやすく、的確な口頭発表をすることができる</li> <li>・発表を聞き、意見や質問をできる。</li> </ul>		
		15週	メールの書き方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体裁の整ったメールを書くことができる</li> </ul>		
		16週				
評価割合						
	試験	小論文	発表資料	口頭発表	メール	合計
総合評価割合	0	45	30	20	5	100
配点	0	45	30	20	5	100

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	国語Ⅳ (情報)	
科目基礎情報						
科目番号	0046		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般科		対象学年	4		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	教科書: 『書き込み式 日本語表現ノート』名古屋大学日本語表現研究会 三弥井書店					
担当教員	牧 千夏					
目的・到達目標						
・論理的で実用的な文章を書くことができ、発表資料を用いて口頭発表することができることによって、(A-1)の達成とする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	論理的で実用的な文章を書くことができる。		おおむね論理的で実用的な文章をかくことができる。		論理的で実用的な文章を書くことができない。	
評価項目2	効果的な発表資料を作成できる。		おおむね効果的な発表資料を作成できる。		効果的な発表資料を作成できない。	
評価項目3	的確な口頭発表をすることができる。		おおむね的確な口頭発表をすることができる。		的確な口頭発表をすることができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	論理的で実用的な文章を書く講義および実習を行い、発表資料を用いて口頭発表する実習を行う。					
授業の進め方と授業内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業は講義と実習を中心とし、課題は小論文や発表資料作成等を課す。</li> <li>・課題は、期限内に遅れず提出すること。</li> </ul> <p>なお、この科目は学修単位科目であり、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が必要である。事前・事後学習として課題等を与える。</p>					
注意点	<p>&lt;成績評価&gt; 小論文(45%)・発表資料(30%)・口頭発表(20%)・メール(5%)の合計100点満点で(A-1)を評価し、合計の6割以上を獲得した者を合格とする。</p> <p>&lt;オフィスアワー&gt; 放課後 16:00 ~ 17:00, 一般科棟 3階。</p> <p>&lt;先修科目・後修科目&gt; 先修科目は国語Ⅲ</p>					
授業計画						
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス	本科目の目的や概要などについて理解できる。		
		2週	文の書き方	主語述語を対応させた文章を書くことができる。		
		3週	文の接続の仕方・表記	接続詞の働きを知り、使うことができる。表記を統一させることができる。		
		4週	パラグラフライティング①解説	パラグラフライティングの概要を理解できる。		
		5週	パラグラフライティング②実習	パラグラフライティングによって、短い文章を書くことができる。		
		6週	パラグラフライティング③実習	前週に書いた文章をよりよく書き直すことができる。		
		7週	小論文①解説	小論文の概要を理解することができる。		
		8週	小論文②実習	論理的な小論文を書くことができる。		
	4thQ	9週	小論文③実習	前週に書いた小論文ををよりよく書き直すことができる。		
		10週	発表資料①解説	発表資料作成の手順を理解することができる。		
		11週	発表資料②作成	効果的な発表資料を作成することができる。		
		12週	発表資料③作成	優れた資料を参考にし、より効果的な発表資料を作成することができる。		
		13週	口頭発表①実習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分かりやすく、的確な口頭発表をすることができる</li> <li>・発表を聞き、意見や質問をできる。</li> </ul>		
		14週	口頭発表②実習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分かりやすく、的確な口頭発表をすることができる</li> <li>・発表を聞き、意見や質問をできる。</li> </ul>		
		15週	メールの書き方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体裁の整ったメールを書くことができる</li> </ul>		
		16週				
評価割合						
	試験	小論文	発表資料	口頭発表	メール	合計
総合評価割合	0	45	30	20	5	100
配点	0	45	30	20	5	100

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	国語Ⅳ (環境)	
科目基礎情報						
科目番号	0047		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般科		対象学年	4		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	教科書: 『書き込み式 日本語表現ノート』名古屋大学日本語表現研究会 三弥井書店					
担当教員	牧 千夏					
目的・到達目標						
・論理的で実用的な文章を書くことができ、発表資料を用いて口頭発表することができることによって、(A-1)の達成とする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	論理的で実用的な文章を書くことができる。		おおむね論理的で実用的な文章をかくことができる。		論理的で実用的な文章を書くことができない。	
評価項目2	効果的な発表資料を作成できる。		おおむね効果的な発表資料を作成できる。		効果的な発表資料を作成できない。	
評価項目3	的確な口頭発表をすることができる。		おおむね的確な口頭発表をすることができる。		的確な口頭発表をすることができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	論理的で実用的な文章を書く講義および実習を行い、発表資料を用いて口頭発表する実習を行う。					
授業の進め方と授業内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業は講義と実習を中心とし、課題は小論文や発表資料作成等を課す。</li> <li>・課題は、期限内に遅れず提出すること。</li> </ul> <p>なお、この科目は学修単位科目であり、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が必要である。事前・事後学習として課題等を与える。</p>					
注意点	<p>&lt;成績評価&gt; 小論文(45%)・発表資料(30%)・口頭発表(20%)・メール(5%)の合計100点満点で(A-1)を評価し、合計の6割以上を獲得した者を合格とする。</p> <p>&lt;オフィスアワー&gt; 放課後 16:00 ~ 17:00, 一般科棟 3 階。</p> <p>&lt;先修科目・後修科目&gt; 先修科目は国語Ⅲ</p>					
授業計画						
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス	本科目の目的や概要などについて理解できる。		
		2週	文の書き方	主語述語を対応させた文章を書くことができる。		
		3週	文の接続の仕方・表記	接続詞の働きを知り、使うことができる。表記を統一させることができる。		
		4週	パラグラフライティング①解説	パラグラフライティングの概要を理解できる。		
		5週	パラグラフライティング②実習	パラグラフライティングによって、短い文章を書くことができる。		
		6週	パラグラフライティング③実習	前週に書いた文章をよりよく書き直すことができる。		
		7週	小論文①解説	小論文の概要を理解することができる。		
		8週	小論文②実習	論理的な小論文を書くことができる。		
	4thQ	9週	小論文③実習	前週に書いた小論文ををよりよく書き直すことができる。		
		10週	発表資料①解説	発表資料作成の手順を理解することができる。		
		11週	発表資料②作成	効果的な発表資料を作成することができる。		
		12週	発表資料③作成	優れた資料を参考にし、より効果的な発表資料を作成することができる。		
		13週	口頭発表①実習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分かりやすく、的確な口頭発表をすることができる</li> <li>・発表を聞き、意見や質問をできる。</li> </ul>		
		14週	口頭発表②実習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分かりやすく、的確な口頭発表をすることができる</li> <li>・発表を聞き、意見や質問をできる。</li> </ul>		
		15週	メールの書き方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体裁の整ったメールを書くことができる</li> </ul>		
		16週				
評価割合						
	試験	小論文	発表資料	口頭発表	メール	合計
総合評価割合	0	45	30	20	5	100
配点	0	45	30	20	5	100

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	日本文学
科目基礎情報					
科目番号	0048		科目区分	一般 / 必修選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	一般科		対象学年	4	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	『古典セレクション 源氏物語1』(桐壺・帚木・空蝉・夕顔)。なお、低学年で使用した国語便覧、古語辞典、文法の本は必携。教材を持参しない者の受講は認めない。				
担当教員	小池 博明				
目的・到達目標					
我が国の文学の最高傑作である『源氏物語』について、その時代的・文化的背景と関連づけておおよそ理解することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	『源氏物語』について、辞書や資料を参考にしながら、注釈書を読むことで、おおよそ理解できる。	『源氏物語』を、注釈書・辞書、その他の資料を使って、理解しようとすることができる。	『源氏物語』が理解できない。		
評価項目2	『源氏物語』を、その時代的・文化的背景に関連づけて、おおよそ理解できる。	『源氏物語』の時代的・文化的背景をおおよそ理解できる。	『源氏物語』の背景が理解できない。		
評価項目3					
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	我が国の最高の文学作品と位置づけられる『源氏物語』を、注釈書・辞書・資料を参考にしながら、じっくりと読み味わう。今年度は、桐壺巻(冒頭部分)と夕顔巻(前半部分)を取り上げる予定である。				
授業の進め方と授業内容・方法	現代における『源氏物語』の代表的注釈書である『古典セレクション 源氏物語』を、ときに教授者の私見も交えつつ講義する。講義形式ではあるが、できるだけ受講者に発問したり、対話したりして進めていきたい。なお、教材を持参しない者の受講は認めない。 なお、この科目は学修単位科目であり、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が必要である。事前・事後学習として課題等を与える。				
注意点	〈成績評価〉試験(80%)、課題など(20%)の合計100点満点で(A-1)を評価し、合計の6割以上を獲得した者を合格とする。 〈オフィスアワー〉16:00~17:00、管理・一般科棟3F国語教員室t この時間にとらわれずに必要に応じて来室してください。 〈先修科目〉国語Ⅲ				
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス	授業を受けるにあたって、必要な事柄を理解する。	
		2週	『源氏物語』概説	『源氏物語』に関する基礎知識を理解する。	
		3週	桐壺①	・桐壺のあらすじが理解できる。 ・「〔1〕帝の桐壺更衣への御おぼえまばゆし」「〔2〕更衣に皇子誕生、方々の憎しみつもの」(前半)が理解できる。	
		4週	桐壺②	「〔2〕更衣に皇子誕生、方々の憎しみつもの」(後半)、「〔3〕若宮三歳になり、袴着の儀式を行う」が理解できる。	
		5週	桐壺③	「〔4〕更衣病む、帝に別れて退出、命果てる」「〔5〕無心の若宮、更衣の里に退出する」が理解できる。	
		6週	夕顔①	・夕顔のあらすじが理解できる。 ・「〔1〕源氏、乳母を見舞い、女から扇を贈られる」が理解できる。	
		7週	夕顔②	「〔2〕源氏、心から老病の乳母を見舞い、慰める」「〔3〕源氏、歌に興をおぼえ、返歌を贈る」(前半)が理解できる。	
		8週	夕顔③	「〔3〕源氏、歌に興をおぼえ、返歌を贈る」(後半)、「〔4〕源氏、六条邸を訪れ、夕顔の宿を意識する」が理解できる。	
	2ndQ	9週	夕顔④	「〔5〕源氏、惟光の報告をうけ、関心を強める」「〔6〕源氏、伊予介の訪問をうけ、空蝉を思う」が理解できる。	
		10週	夕顔⑤	「〔7〕秋、源氏、六条御息所の御方を訪れる」が理解できる。	
		11週	夕顔⑥	「〔8〕惟光、夕顔の宿を偵察、源氏を手引きする」「〔9〕源氏、名も知れぬ夕顔の女に耽溺する」(前半)が理解できる。	
		12週	夕顔⑦	「〔9〕源氏、名も知れぬ夕顔の女に耽溺する」(後半)、「〔10〕源氏、中秋の夜、夕顔の家に宿る」(前半)が理解できる。	
		13週	夕顔⑧	「〔10〕源氏、中秋の夜、夕顔の家に宿る」(後半)、「〔11〕源氏、夕顔の女を宿近くの廃院に伴う」(前半)が理解できる。	



		14週	夕顔⑨	「〔11〕源氏、夕顔の女を宿近くの廃院に伴う」（後半）が理解できる。
		15週	まとめ	自分にとっての『源氏物語』の魅力を考えることができる。
		16週		

評価割合

	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	80	0	20	0	0	100
配点	80	0	20	0	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	西洋史	
科目基礎情報						
科目番号	0049	科目区分	一般 / 必修選択			
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	一般科	対象学年	4			
開設期	前期	週時間数	2			
教科書/教材	『最新世界史図説タバストリー』(帝国書院)を持参すること。					
担当教員	久保田 和男					
目的・到達目標						
西洋史上の大きな変化を理解できていること。西洋の歴史地理的な基本的な知識を理解していること。これらを満足することで、学習・教育目標の(A-1)の達成とする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
・中東・欧州の歴史を説明できる	きちんと説明できる	一定の説明能力がある	あまり説明できない			
・宗教問題と社会について説明できる	きちんと説明できる	一定の説明能力がある	あまり説明できない			
・ユダヤ人の歴史について考え、中東問題の起源を説明できる	きちんと説明できる	一定の説明能力がある	あまり説明できない			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中東・欧州の歴史を概観する</li> <li>・宗教問題と社会について考える</li> <li>・ユダヤ人の歴史について考え、中東問題の起源を知る</li> </ul>					
授業の進め方と授業内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業方法は講義を中心とする</li> <li>・適宜、レポート課題などを課すので、期限に遅れず提出すること</li> </ul> <p>なお、この科目は学修単位科目であり、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が必要である。事前・事後学習として課題等を与える。</p>					
注意点	<p>2回の定期試験の成績(80%)と、授業への取り組み姿勢(20% ノート点検で判断する)で評価する。合計の6割以上を獲得した者を、(A-1)を達成したものととして、この科目の合格者とする。</p> <p>先修科目は 世界史 日本史 現代社会</p> <p>オフィスアワー 月曜日16:00~17:00 一般科棟1F東 社会科教員室2</p>					
授業計画						
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	・ オリエンタリズム・オリエント文明	・ オリエンタリズムを理解し世界史的な視座をえる。		
		2週	・ アケメネス朝ペルシャ帝国と宗教：ゾロアスター教とマニ教	・ ソロアスター教やユダヤ教に見られる世界観を理解する。		
		3週	・ ギリシャ文明	・ 特にギリシャ哲学の現代における影響を考える。		
		4週	・ ギリシャ哲学	・ ギリシャ哲学について考える		
		5週	・ ヘレニズム時代と諸宗教	・ アレクサンドロス大王の東方遠征の意味を知る。		
		6週	・ ローマ共和国 ローマ帝国の成立	・ 共和政時代のローマの発展と理解する。		
		7週	・ ローマ帝国の衰退とキリスト教。三位一体説。異端と正統。	・ ローマ帝国とキリスト教徒の関係を理解する。		
		8週	・ ギリシャ・ローマ文明と、キリスト教の関係について確認する	理解度のチェックを行う。		
	2ndQ	9週	・ ゲルマン民族とキリスト教。カール大帝とローマ教皇	・ 西ヨーロッパ世界の成立を宗教面から理解する。		
		10週	・ イスラム教の成立と、イスラム教との生活	・ イスラム教について一定の理解をもつ。		
		11週	・ 十字軍の開始と展開	・ イスラム圏にキリスト教徒に対する敵意を芽生えさせた原因を理解する。		
		12週	・ モンゴル帝国とヨーロッパ	・ モンゴル帝国時代の東西交流とキリスト教徒の関わりについて理解する。		
		13週	・ ヨーロッパにおける主権国家体制とユダヤ人	・ 主権国家の成立と内容からユダヤ人迫害を理解する。		
		14週	・ ユダヤ人と近代ヨーロッパ	・ 近代ヨーロッパ世界の成立による、人権とナショナリズムをユダヤ人問題から考える。		
		15週	・ 中東紛争	・ イスラエルの建国に始まる深刻な対立について概要を知る。		
		16週				
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	80	0	20	0	0	100
配点	80	0	20	0	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	東洋史	
科目基礎情報						
科目番号	0050	科目区分	一般 / 必修選択			
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	一般科	対象学年	4			
開設期	後期	週時間数	2			
教科書/教材	『最新世界史図説タベストーリー』(帝国書院)を持参すること。参考書: 東野治之『遣唐使』(岩波新書) 榎本渉『僧侶と海商たちの東アジア』(講談社選書メチエ) 五味文彦『大仏再建』(講談社選書メチエ) その他は、教場で紹介する。					
担当教員	久保田 和男					
目的・到達目標						
東アジア海域交流史を理解できていること。東アジアの歴史地理的な基本的な知識を理解できていること。これらを満足することで、学習・教育目標の(A-1)の達成とする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
前近代史の日中交流についての諸問題を説明できる。	説明できる	部分的に説明できる	あまり説明できない			
東アジアの歴史地理的な基本的な知識を理解できている	基本的に理解出来ている	部分的に理解出来る	全く理解出来ていない			
東アジアの海域交流史への理解を通じて、日本文化の成立を考える	しっかりと考えている	日本文化の成立について部分的に考えている	全く考えていない			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>前近代史の日中交流についての諸問題を検討する。</li> <li>東アジアの海域交流史への理解を通じて、日本文化の成立を考える。</li> </ul>					
授業の進め方と授業内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業方法は講義を中心とする。</li> <li>適宜、レポート課題などを課すので、期限に遅れず提出すること。</li> </ul> <p>なお、この科目は学修単位科目であり、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が必要である。事前・事後学習として課題等を与える。</p>					
注意点	<p>2回の定期試験の成績(80%)と、授業への取り組み姿勢(20% ノート点検で判断する)で評価する。合計の6割以上を獲得した者を、(A-1)を達成したものとして、この科目の合格者とする。</p> <p>先修科目は 世界史 日本史 現代社会</p> <p>オフィスアワー 月曜日16:00~17:00 一般科棟1F東 社会科教員室2</p>					
授業計画						
後期	3rdQ	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
		1週	・ オリエンテーション	・ 東アジアの地理を理解する。		
		2週	・ 古代中国文明と東アジア	・ 中国文明と日本の新石器時代の関わりを理解する。		
		3週	・ 漢代の東アジアと倭国	・ 倭国の形成を中国歴史書から理解する。		
		4週	・ 三国時代と卑弥呼	・ 卑弥呼はなぜ使いを送ったのか、なぜ魏は卑弥呼を王に任じたのか理解する。		
		5週	・ 南北朝時代の東アジア・倭の五王	・ 仏教の中国伝来と朝鮮・日本への伝播を理解する。		
		6週	・ 遣唐使と「日本」の成立	・ 「日本」という国号や「天皇」という称号の生まれた背景を遣唐使の時代を通じて考える。		
		7週	・ 東アジアの変動と遣唐使の中止	・ 遣唐使はなぜ中止されたのか理解する。日本と宋との貿易関係を理解する。		
	8週	古代東アジア国際交流への理解を確認する	理解度チェック			
	4thQ	9週	・ 東アジアの変動と遣唐使の中止	・ 遣唐使はなぜ中止されたのか理解する。日本と宋との貿易関係を理解する。		
		10週	・ 宋代の経済と、日宋貿易	・ 奈良の大仏再建における日宋貿易の役割を中心に考える。		
		11週	・ 元寇とその東アジア的な意義	・ 元寇に関わった、高麗や南宋そして鎌倉幕府を通じて元寇を理解する。		
		12週	・ 倭寇と日明貿易	・ 日本国王に冊封された懐良親王と足利義満の目的について理解する。		
		13週	・ 鎖国と日中の貿易関係	・ 江戸時代の対外政策について理解する。		
		14週	・ 鎖国と日中の貿易関係	・ 江戸時代の対外政策について理解する。		
		15週	・ アヘン戦争と日本の開国	・ 東アジアにおける「西欧の衝撃」を考える。		
16週						
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	80	0	20	0	0	100
配点	80	0	20	0	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	日本社会史	
科目基礎情報						
科目番号	0051	科目区分	一般 / 必修選択			
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	一般科	対象学年	4			
開設期	前期	週時間数	2			
教科書/教材	教科書: プリントを配布する. 参考書: 授業で随時紹介する.					
担当教員	二星潤					
目的・到達目標						
授業の内容と配布資料の情報を関連づけて理解した上で, 論述問題をまとめることができることにより, 学習・教育目標の (A-1) の達成とする.						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
1. 授業の内容と配布資料の情報を関連づけて理解できる.	資料の意義を解説することができる.	資料を正しく読むことができ, 内容も説明できる.	資料の内容を説明できない.			
2. 授業の内容について, 論述問題をまとめることができる.	歴史的な諸問題を現代の諸問題と関連付けて論述できる.	歴史的な諸問題について, 授業の内容をまとめて論述できる.	授業の内容について, 論述できない.			
評価項目3						
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	近代以前の日本社会の特色についての認識を深めることにより, 歴史的思考力を培う.					
授業の進め方と授業内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業方法は講義を中心とする.</li> <li>・ 適宜, レポート課題を課すので, 期限に遅れず提出すること.</li> </ul> なお, この科目は学修単位科目であり, 授業時間30時間に加えて, 自学自習時間60時間が必要である. 事前・事後学習として課題等を与える.					
注意点	<成績評価> 期末試験 (70%) とレポート (30%) で (A-1) を評価し, 6割以上の得点で合格とする. <オフィスアワー> 木曜日 16:00 ~ 17:00, 管理・一般科棟3F西 二星潤教員室 <先修科目・後修科目> 先修科目は現代社会となる.					
授業計画						
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	社会史の学び方	日本社会史を学ぶ目的を考える.		
		2週	縄文時代の社会	考古資料から縄文時代の社会を考察する.		
		3週	農耕社会の成立	水稲耕作の開始が日本社会に与えた影響を知る.		
		4週	平城京と地方社会	律令体制の整備と地方社会の関わりを考察する.		
		5週	平安貴族の社会	平安貴族の特色について理解する.		
		6週	古代仏教と社会	古代仏教が日本社会に与えた影響を知る.		
		7週	院政期の社会	院政期の社会の特徴を理解する.		
		8週	中世の武士社会	中世の武士の生活について考察する.		
	2ndQ	9週	中世社会の変動	商工業の発達による社会の変動を知る.		
		10週	武家社会の成長	諸産業の発達による社会の多様な展開を理解する.		
		11週	近世の社会	近世の社会の特徴を理解する.		
		12週	近世の都市	近世の都市構造について考察する.		
		13週	近世の地域社会	近世の地域社会の運営について知る.		
		14週	近世社会の変容	近世社会の変容が与えた影響を考察する.		
		15週	まとめ	日本社会とは何かを考える.		
		16週	前期末達成度試験			
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	30	0	100
配点	70	0	0	30	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	日本文化史	
科目基礎情報						
科目番号	0052		科目区分	一般 / 必修選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般科		対象学年	4		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	教科書: プリントを配布する. 参考書: 授業で随時紹介する.					
担当教員	二星 潤					
目的・到達目標						
授業の内容と配布資料の情報を関連づけて理解した上で, 論述問題をまとめることができることにより, 学習・教育目標の (A-1) の達成とする.						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
1, 授業の内容と配布資料の情報を関連づけて理解できる.	資料の意義を解説することができる.		資料を正しく読むことができ, 内容も説明できる.		資料の内容を説明できない.	
2, 授業の内容について, 論述問題をまとめることができる.	歴史的な諸問題を現代の諸問題と関連付けて論述できる.		歴史的な諸問題について, 授業の内容をまとめて論述できる.		授業の内容について, 論述できない.	
評価項目3						
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	日本の文化の特色についての認識を深めることにより, 歴史的思考力を培う.					
授業の進め方と授業内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業方法は講義を中心とする.</li> <li>・ 適宜, レポート課題を課すので, 期限に遅れず提出すること.</li> </ul> <p>なお, この科目は学修単位科目であり, 授業時間30時間に加えて, 自学自習時間60時間が必要である. 事前・事後学習として課題等を与える.</p>					
注意点	<p>&lt;成績評価&gt; 期末試験 (70%) とレポート (30%) で (A-1) を評価し, 6割以上の得点で合格とする.          &lt;オフィスアワー&gt; 木曜日 16:00 ~ 17:00, 管理・一般科棟3F西 二星潤教員室          &lt;先修科目・後修科目&gt; 先修科目は現代社会となる.</p>					
授業計画						
		週	授業内容・方法		週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	日本文化史の学び方		日本文化史を学ぶ目的を理解する.	
		2週	日本文化のはじまり		日本文化の発生を考察する.	
		3週	縄文文化と弥生文化		考古資料から縄文・弥生文化の形成を考察する.	
		4週	古墳文化		古墳の変化から社会の変容をとらえる.	
		5週	飛鳥文化と白鳳文化		大陸文化の受容を理解する.	
		6週	天平文化		天平文化における政治性と国際性を理解する.	
		7週	唐風文化と国風文化		唐風文化と国風文化を比較する.	
		8週	鎌倉文化		鎌倉文化の新しい気運を理解する.	
	4thQ	9週	室町文化		武家文化と公家文化の関係について考察する.	
		10週	桃山文化と南蛮文化		文化の持つ幅広い国際性を理解する.	
		11週	元禄文化		経済の発展と文化の関連を考察する.	
		12週	化政文化		文化における近代化の芽生えを理解する.	
		13週	近代文化		近代文化の二元性をとらえる.	
		14週	市民文化		都市化や国民生活の変化を理解する.	
		15週	まとめ		日本文化とは何かを考える.	
		16週	学年末達成度試験			
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	30	0	100
配点	70	0	0	30	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	倫理学	
科目基礎情報						
科目番号	0053		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般科		対象学年	4		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	教科書: 鬼頭葉子著『技術の倫理-技術を通して社会がみえる-』ナカニシヤ出版, 2018年					
担当教員	鬼頭 葉子					
目的・到達目標						
技術とはなにか, 思想史的背景を理解すること, 具体的な技術の内容とその倫理的課題について説明できること, 技術開発および技術者に求められる倫理的要件について自身の考えを倫理的に整理すること. 以上の内容をとおして学習・教育目標 (B-1) 及び (B-2) の達成を評価する.						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1	技術発展の歴史的経緯をよく理解し, 明確に説明することができる.	技術発展の歴史的経緯を基本的理解し, 説明することができる.	技術発展の歴史的経緯を理解・説明できない.			
評価項目2	技術が社会や自然環境に与える影響をよく理解し, 明確に説明することができる.	技術が社会や自然環境に与える影響について基本的理解し, 説明することができる.	技術が社会や自然環境に与える影響について理解・説明できない.			
評価項目3	今後の技術展開および技術者のあるべき姿について, 自らの考えを明確に記述することができる.	今後の技術展開および技術者のあるべき姿について, 自らの考えを記述することができる.	今後の技術展開および技術者のあるべき姿について, 自らの考えを記述することができない.			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	本授業では, 技術および倫理とはなにか, 思想史的定義を理解する. また, 様々な事例を倫理的に考察し, 技術が社会や自然環境に与える影響や, 技術者の倫理的行為について学ぶ.					
授業の進め方と授業内容・方法	授業方法は講義を行いつつ, 倫理事例や思考実験などを用いて学生の発言を促す. 学生は発言を行うとともに, ノートに倫理事例や思考実験への各自の見解, また同級生の発言などへのコメントを記入し, 提出する. なお, この科目は学修単位科目であり, 授業時間30時間に加えて, 自学自習時間60時間が必要である. 事前・事後学習として課題等を与える.					
注意点	<成績評価> 1回の中堅試験と平常点(50%), 学期末試験と平常点(50%)の合計100点満点で(B-1)(B-2)を評価し, 合計の6割以上を獲得した者を合格とする. <オフィスアワー> 放課後 16:00 ~ 17:00, 一般科棟3F西 鬼頭葉子教員室. <先修科目・後修科目> 先修科目は世界史, 日本史および現代社会. なお, 本科目は学修単位科目であり, 授業時間30時間に加えて, 自学自習時間60時間が必要である.					
授業計画						
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	倫理とは何か (1)	古代ギリシャ哲学を中心に, 倫理学の基本概念を理解できる.		
		2週	倫理とは何か (2)	啓蒙思想を中心に, 倫理学の基本概念を理解できる.		
		3週	倫理とは何か (3)	功利主義思想を中心に, 倫理学の基本概念を理解できる.		
		4週	倫理とは何か (4)	正義論など現代倫理思想の基本を理解できる.		
		5週	工学技術とは何か (1)	技術発展と歴史的経緯について説明できる.		
		6週	工学技術とは何か (2)	工学という学問の成立背景について説明できる.		
		7週	技術に関わる倫理的問題 (1)	技術開発と環境倫理の関係を理解できる.		
		8週	理解度の確認	7週までの内容を理解し, 適切に表現できる.		
	4thQ	9週	技術に関わる倫理的問題 (2)	技術開発と動物倫理の関係を理解できる.		
		10週	技術に関わる倫理的問題 (3)	技術開発とデュアルユースの関係を理解できる.		
		11週	技術に関わる倫理的問題 (4)	技術開発とグローバルな正義の関係を理解できる.		
		12週	技術に関わる倫理的問題 (5)	技術開発と生命倫理の関係を理解できる.		
		13週	技術の可能性と社会との関わり (1)	人工知能の社会的影響について説明できる.		
		14週	技術の可能性と社会との関わり (2)	技術利用と社会における合意形成の関係を理解できる.		
		15週	技術の可能性と社会との関わり (3)	技術開発と政治経済との関わりについて理解できる.		
		16週	学期末達成度試験			
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	80	0	20	0	0	100
配点	80	0	20	0	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	社会哲学	
科目基礎情報						
科目番号	0054	科目区分	一般 / 必修選択			
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	一般科	対象学年	4			
開設期	後期	週時間数	2			
教科書/教材	教科書: 指定しない。授業でプリントを配布する。					
担当教員	鬼頭 葉子					
目的・到達目標						
哲学・倫理学の考え方をを用いて、社会における様々な出来事や問題の思想史的背景を理解する。その知見をもとに自らの考えを明確にしつつ、多様な価値観を理解することができる。これをもって学習・教育目標 (A-1) の達成とする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1	哲学・倫理学の基本概念をよく理解し、詳細に説明できる。	哲学・倫理学の基本概念を理解し、簡単に説明できる。	哲学・倫理学の基本概念を理解・説明できない。			
評価項目2	社会の出来事や問題と思想史を結びつけ、詳細に説明することができる。	社会の出来事や問題と思想史の関連を理解し、簡単に説明することができる。	社会の出来事や問題と思想史の関連を理解していない。			
評価項目3	思想史を基に、自らの考えを記述することができる。	自らの考えを、論理的に記述することができる。	自らの考えを論理的に記述することができない。			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	古代ギリシア哲学から現代思想まで幅広く、政治・経済・法・正義など人間社会に関する思想的背景を学ぶ。					
授業の進め方と授業内容・方法	授業方法は講義を中心とし、コメントシートに講義内容へのコメントを記入して提出する。この科目は学修単位科目であり、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が必要である。事前・事後学習として課題等を与える。					
注意点	<成績評価> 1回の中間試験と平常点(50%)、学期末試験と平常点(50%)の合計100点満点で(A-1)を評価し、合計の6割以上を獲得した者を合格とする。 <オフィスアワー> 放課後 16:00 ~ 17:00, 一般科棟3F西 鬼頭葉子教員室。 <先修科目・後修科目> 先修科目は現代社会。					
授業計画						
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	幸福とは何か、その特質についてヘレニズム思想から学ぶ。	ヘレニズム思想について理解し、幸福の意味について考えることができる。		
		2週	政治とは何か①、その特質について中世の思想から学ぶ。	中世ヨーロッパにおける宗教と政治の関係について、近代との比較をしつつ理解できる。		
		3週	政治とは何か②、その特質についてマキアヴェッリの思想から学ぶ。	マキャベリズムやレアル・ポリティクスについて理解できる。		
		4週	政治とは何か③、その特質についてホッブスの思想から学ぶ。	ホッブスの近代国家観について、社会契約説をもとに理解できる。		
		5週	人権とは何か①、その特質についてロックの思想から学ぶ。	ロックの人権概念について、その政治理論をもとに理解できる。		
		6週	人権とは何か②、その特質についてルソーの思想から学ぶ。	ルソーの人権概念について、その社会契約論をもとに理解できる。		
		7週	法とは何か、その特質についてカントおよびベッカーリアの思想から学ぶ。	法や処罰について、啓蒙思想および功利主義思想をもとに理解できる。		
		8週	理解度の確認	7週までの内容について理解した内容を適切に表現できる。		
	4thQ	9週	自由経済とは何か、その特質についてアダム・スミスの思想から学ぶ。	古典経済学や初期資本主義について、アダム・スミスの思想をもとに理解できる。		
		10週	労働とはなにか、その特質についてマルクスの思想から学ぶ。	労働や近代経済のあり方について、マルクスの思想をもとに理解できる。		
		11週	労働意識とは何か、その宗教改革との関係について、ウェーバーの思想から学ぶ。	宗教が労働観に与える影響について、ウェーバー社会学をもとに理解できる。		
		12週	西洋近代思想の変容とは何か①、ニーチェの思想から学ぶ。	近代以後の価値転換について、ニーチェの思想をもとに理解できる。		
		13週	西洋近代思想の変容とは何か②、デュルケムやフロムの思想から学ぶ。	近代以後の価値転換について、デュルケムやフロムの社会思想をもとに理解できる。		
		14週	集団の暴力について思想的に考える。	「全体主義」に関するアレントの思想を理解できる。		
		15週	近代の功罪についてフーコーの思想から学ぶ。	フーコーの社会批判について理解できる。		
		16週				
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	80	0	20	0	0	100
配点	80	0	20	0	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	論理トレーニング	
科目基礎情報						
科目番号	0055	科目区分	一般 / 必修選択			
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	一般科	対象学年	4			
開設期	前期	週時間数	2			
教科書/教材	教科書: 指定しない。評論文や新聞記事など必要な資料を配布する。参考文献を適宜紹介する。					
担当教員	鬼頭 葉子					
目的・到達目標						
資料や課題の主旨を的確につかみ、自分の考えを明確に文章表現できること。これをもって学習・教育目標 (A-1) の達成を評価する。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1	論理に関する応用的な演習問題を解くことができる。	論理に関する基本的な演習問題を解くことができる。	論理に関する演習問題を解くことができない。			
評価項目2	テキストをよく理解し、それを基に自らの考えを論理的に記述することができる。	テキストの内容を把握でき、それを基に自らの考えを明確に述べることができる。	テキストを理解し、自らの考えを記述することができない。			
評価項目3	論文やレポートの書き方をよく理解し、ルール通りに作成することができる。	論文やレポートの書き方を理解し、ルールに基づいて作成することができる。	論文やレポートの書き方を理解していない。			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	クリティカル・シンキングの基本を学び、論理的に考える方法を身につける。与えられた課題についての的確に作文する方法を学ぶ。					
授業の進め方と授業内容・方法	クリティカル・シンキングの基本を解説し、小論文の演習問題を出す。さまざまな課題の作文練習によって文章力をつける。 この科目は学修単位科目であり、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が必要である。事前・事後学習として課題等を与える。					
注意点	<成績評価> 学期末レポート (80点) および授業時の課題提出 (20点) で(A-1)を評価し、60点以上を合格とする。 <先修科目・後修科目> 先修科目は現代社会, 国語III。 <オフィスアワー> 放課後 16:00 ~ 17:00, 一般科棟3F西 鬼頭葉子教員室。 <先修科目・後修科目> 先修科目は現代社会, 国語III。					
授業計画						
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	クリティカル・シンキングの方法 (1)	クリティカル・シンキングの基礎を理解できる。		
		2週	クリティカル・シンキングの方法 (2)	クリティカル・シンキングの基礎を理解できる。		
		3週	論理トレーニング問題の実践 (1)	クリティカル・シンキングの原則を応用し、演習問題を解くことができる。		
		4週	論理トレーニング問題の実践 (2)	クリティカル・シンキングの原則を応用し、演習問題を解くことができる。		
		5週	論理トレーニング問題の実践 (3)	クリティカル・シンキングの原則を応用し、演習問題を解くことができる。		
		6週	論理トレーニング問題の実践 (4)	クリティカル・シンキングの原則を応用し、演習問題を解くことができる。		
		7週	評論文のテキスト解釈 (1)	テキストを基に小論文を書き、互いに論評することができる。		
		8週	評論文のテキスト解釈 (2)	テキストを基に小論文を書き、互いに論評することができる。		
	2ndQ	9週	評論文のテキスト解釈 (3)	テキストを基に小論文を書き、互いに論評することができる。		
		10週	評論文のテキスト解釈 (4)	テキストを基に小論文を書き、互いに論評することができる。		
		11週	新聞記事のテキスト解釈 (1)	テキストを基に小論文を書き、互いに論評することができる。		
		12週	新聞記事のテキスト解釈 (2)	テキストを基に小論文を書き、互いに論評することができる。		
		13週	新聞記事のテキスト解釈 (3)	テキストを基に小論文を書き、互いに論評することができる。		
		14週	新聞記事のテキスト解釈 (4)	テキストを基に小論文を書き、互いに論評することができる。		
		15週	新聞記事のテキスト解釈 (5)	テキストを基に小論文を書き、互いに論評することができる。		
		16週				
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	0	0	20	80	0	100
配点	0	0	20	80	0	100



長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	法学	
<b>科目基礎情報</b>						
科目番号	0056	科目区分	一般 / 必修選択			
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	一般科	対象学年	4			
開設期	前期	週時間数	2			
教科書/教材	教科書は使用しない					
担当教員	関 良徳					
<b>目的・到達目標</b>						
私たちの身のまわりの法律について理解を深めると同時に、法律的な考え方の基礎を身につける。						
<b>ルーブリック</b>						
	理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベルの目安(良)	未到達レベルの目安(不可)			
評価項目1: 関心・意欲・態度	社会における法律の意義について自己との関わりから主体的に探究する。	社会における法律の意義について探究する。	社会における法律の意義について探究できていない。			
評価項目2: 思考・判断	自ら課題を発見し、法や法制度について多面的かつ多角的な視点から考察し判断することができる。	与えられた課題を検討し、法や法制度についてある程度判断・考察することができる。	与えられた課題を検討せず、法や法制度について判断・考察することができない。			
評価項目3: 知識・理解	法や法制度に関わる基本事項を理解し、社会生活に生かすための知識を主体的に身につける。	法や法制度に関わる基本事項を理解し、社会生活に生かすための知識をある程度身につける。	法や法制度に関わる基本事項を理解せず、社会生活に必要な知識を身につけることができない。			
<b>学科の到達目標項目との関係</b>						
<b>教育方法等</b>						
概要	この授業では、①日常世界で生じている法律問題とその背景について概説し、各々の問題について、いかなる取り組みがなされているかを説明する。②現在の法制度が抱えている問題点を指摘し、改善策を検討する。③身近な法律問題に自分なりの解決を示すとともに、クラスでの討論からより公正な判断を導くための問題解決型学習を行う。					
授業の進め方と授業内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業方法は講義を中心とし、演習問題や課題を課す。</li> <li>・適宜、レポート課題を課すので、期限に遅れずに提出すること。</li> </ul> なお、この科目は学修単位科目であり、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が必要である。事前・事後学習として課題等を与える。					
注意点	<成績評価> 試験(60%)およびレポート課題(40%)の合計100点満点で(A-1)を評価し、合計の6割以上を獲得した者を合格とする。 <オフィスアワー> 授業時間内またはメールにて質問等を受け付ける。 <備考> 討論形式の授業を行うので、積極的な参加が求められる。					
<b>授業計画</b>						
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	自己決定と法	法律的な考え方基礎にある「自己決定(権)」について理解できる。		
		2週	消費生活と法(1)	消費生活における契約と約款の問題を理解できる。		
		3週	消費生活と法(2)	消費者契約法について事例を通して理解できる。		
		4週	事例検討[1]	自己決定権に関わる事例を裁判形式で検討し、その問題点を探ることができる。		
		5週	家族と法	家族をめぐる法的問題について理解できる。		
		6週	子どもと法(1)	児童虐待への法的取組みについて理解できる。		
		7週	子どもと法(2)	少年犯罪及び少年法について理解できる。		
		8週	事例検討[2]	家族法や少年法に関する事例を裁判形式で検討し、各論点について考えられる。		
	2ndQ	9週	犯罪と法	犯罪と刑罰に関する法律や今日の治安問題について理解できる。		
		10週	裁判員制度	裁判員制度の意義と問題点について理解できる。		
		11週	医療と法(1)	インフォームド・コンセントや生殖医療に関わる法的問題について理解できる。		
		12週	事例検討[3]	刑事事件を裁判形式で検討し、その仕組みを理解できる。		
		13週	医療と法(2)	尊厳死や安楽死の問題、および臓器移植に関わる法的問題について理解できる。		
		14週	労働と法(1)	労働契約や解雇などの労働に関わる法や制度について理解できる。		
		15週	労働と法(2)	時間外長時間労働やハラスメント行為など規制する労働関連法について理解できる。		
		16週	前期未達成度試験			
<b>評価割合</b>						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	40	0	100
配点	60	0	0	40	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	中国語 I
科目基礎情報					
科目番号	0057	科目区分	一般 / 必修選択		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般科	対象学年	4		
開設期	前期	週時間数	2		
教科書/教材	教科書 著者: 張淑華 『日常会話で学ぶ初級中国語』 ほぼずき書籍 2016年発行				
担当教員	張 淑華				
目的・到達目標					
中国語のピンインの発音や声調等を理解でき、身につけるようになり、さらに、基礎的な文法知識を学ぶことにより、中国語で簡単な自己紹介や趣味等話せるようになることを目指す。日常用語や基礎文法の修得を目標とする。					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1		中国語の発音記号であるピンインを覚え、正確に発音できる。また、発音の特徴である声調を身につけ、正確につけることができる。	中国語の発音記号であるピンインを殆ど覚え、正確に発音できる。また、発音の特徴である声調を殆ど身につけ、正確につけることができる。	中国語の発音記号であるピンインを殆ど正確に発音できない。また、発音の特徴である声調を殆ど区別できず正確につけられない。	
評価項目2		①基本的な文法構造を理解できる。②基本的な構文、質問の仕方をマスターできる。③時間や曜日、年月日が話せる。	①基本的な文法構造を殆ど理解できる。②基本的な構文、質問の仕方を殆どマスターできる。③時間や曜日、年月日が殆ど話せる。	①基本的な文法構造を理解できない。②基本的な構文、質問の仕方が分からない。③時間や曜日、年月日が話せない。	
評価項目3		①挨拶用語を正確に使える。②簡単な自己紹介ができる。③簡単な短文作りが上手にできる。	①挨拶用語を殆ど正確に使える。②簡単な自己紹介が殆どできる。③簡単な短文作りが殆どできる。	①挨拶が殆どできない。②簡単な自己紹介があまりできない。③簡単な短文作りができない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	中国語の基礎発音や文法の基礎知識等を重視し、中国語の独特な発音や基礎文法に力を入れる。中国語で自己紹介できるように工夫すし、さらに、中国の伝統文化等も織り交ぜながら、異文化に対する理解を深めさせる。				
授業の進め方と授業内容・方法	この講義では、板書や作成プリントやICT等を活用する。個人ワークとグループワークを取り入れたり、余りできない学生に個別指導も行ったりして、授業を進める。中国語の概況から始まり、全体について理解した上で、基礎発音や文法の基礎知識等を丁寧に講義する。繰り返し練習することにより、学生が中国語の独特な発音や声調を理解し覚えるようになる。また、学生が中国語で自己紹介できるようになるため、ハンドアウト(プリント作成)や一人ずつのチェック等も工夫する。さらに、中国の伝統文化等を織り交ぜながら、異文化に対する理解を深めさせる。毎回チェックしたり、発表してもらったりする。 なお、この科目は学修単位科目であり、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が必要である。事前・事後学習として課題等を与える。				
注意点	筆頭試験は全体の6割の比重を占め、口頭試験は2割、出欠や授業態度等は残りの2割を占める。100点満点で評価するが、全体の6割以上で合格とする。				
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	中国と中国語の概論、発音、指数字等	中国と中国語(特に漢字)について理解し、興味を持つこと。漢字の違いが区別できる。	
		2週	ピンイン発音と声調(説明、練習、歌等)	中国語の発音や声調を覚え、ピンインや声調の区別ができる。	
		3週	ピンイン発音、声調、歌等(復習、説明、練習、)	中国語の発音や声調を覚え、ピンインや声調の区別ができ、正確に読み、区別できる。	
		4週	第一課 出迎え 単語、本文、文法や基礎発音等(復習、読み、説明、練習等)	挨拶用語を身につけ、挨拶表現を使い分けられ、初対面の挨拶や自己紹介ができる。	
		5週	第一課 出迎え 人体名称や基礎発音等第二課 自己紹介 単語、本文等(復習、読み、説明、練習、発表等)	人体各部の名称や挨拶表現等を覚え、使えるようになる。語彙の量を少しずつ増やしていく。	
		6週	第二課 自己紹介 文法など(復習、読み、説明、練習、発表等)	挨拶表現、名前、年齢、誕生日、数字の教え方等を覚え、正確に自己紹介をすることができる。	
		7週	第三課 車内の会話 単語、本文、文法等(復習、読み、説明、練習、発表等)	初対面挨拶の常用表現を覚え、家族構成について簡単に表現できる。	
		8週	第三課 車内の会話 家族や親族の呼び方等 第四課 ホームステイ先にて 単語、本文(復習、読み、説明、練習、発表等)	中国の複雑な家族や親族の呼称を覚え、必要な呼称を使い分けられ、正確に自己紹介できる。文法を理解し、簡単な短文が作れる。	
	2ndQ	9週	ワンタン作り(中国食文化の紹介)	食文化に触れ、伝統文化や語学に対する興味と意欲が湧き、異文化理解を深める。北方の家庭料理の一つであるワンタンの作り方などを覚え、作れる。	
		10週	第四課 ホームステイ先にて 文法や医者にかかる時の会話等(復習、読み、説明、練習、発表等)	医者にかかる時の会話を覚え、使える。文法を理解し、短文作りができる。	
		11週	第五課 山水画の鑑賞 単語、本文等(復習、読み、説明、練習、発表等)	少し難しい長文や文法を理解でき、使いやすい文型で短文作りができる。	
		12週	第五課 山水画の鑑賞 比較等 第六課 夕食 単語、本文等(復習、読み、説明、練習、発表等)	漢字の比較等について習得する。文法を理解し、短文作りができる。	
		13週	第六課 夕食 文法、漢詩の朗読 飲食物の語彙等(復習、読み、説明、練習、発表等)	漢詩を朗読できる。料理の言い方や好み等を覚え、自己表現できる。	

	14週	第七課 朝食 単語, 本文等 飲食物の語彙等 (復習, 読み, 説明, 練習, 発表等)	飲食物について, 自分の意志を会話で表現でき, コミュニケーションがとれる.
	15週	第七課 朝食 単語, 本文 道案内の表現等 (復習, 読み, 説明, 練習, 発表等)	声調変化について理解し, 時間の表現を習得し, 道案内もできるようになる.
	16週	復習, まとめ, 質疑回答, 会話能力のチェック	前期で習った内容について, 全体を把握でき, 質問することにより, さらにレベルアップできる.

評価割合

	筆記試験	会話試験	出欠	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0
配点	60	20	10	10	0

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	中国語Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	0058		科目区分	一般 / 必修選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	一般科		対象学年	4	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	教科書 張淑華 『日常会話で学ぶ初級中国語』 ほおずき書籍 2016年発行				
担当教員	張 淑華				
目的・到達目標					
前期を踏まえ、語彙の量を増やししながら、複雑な文法、文型や長文を習得し、より複雑な表現ができるようになる。受講生が意欲的に取り組み、複雑な短文作りやヒヤリングや会話ができるようになることを到達目標とする。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベルの目安(良)	未到達レベルの目安(不可)		
評価項目1	発音が正確であり、文法をよく理解できる。語彙の量が多く、正確に使い分けられる。	発音が殆ど正確であり、文法を理解できる。語彙の量が多く、殆ど正確に使い分けられる。	発音が不正確であり、文法をあまり理解できない。語彙の量が少なく、正確に使い分けられない。		
評価項目2	とても積極的に練習や会話に参加でき、辞書の引き方も良く分かる。	積極的に練習や会話に参加でき、態度が良い、辞書の引き方が大体分かる。	積極的に練習や会話に参加できないし、態度も良くない。辞書の引き方が殆ど分からない。		
評価項目3	聞きとりと会話が上手であり、主動的な会話もできる。短文づくりが正確である。質問もできる。	聞きとりと会話ができる。短文づくりが殆ど正確であり、質問も少しできる。	聞きとりと会話が下手であり、主動的な会話もできない。短文づくりが殆どできないし、質問もできない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	中国語Ⅰを履修した学生を対象とする。前期の基礎を踏まえ、語彙の量を増やししながら、少しずつ複雑な会話や文法等を学習し、理解する。説明や比較によって、両国の漢字のずれや違い等を区別でき、受講生の学習意欲を引き出し、レベルアップを求める。中国の伝統文化等についても紹介、講義し、さらに実践を加えることにより、受講生の異文化に対する理解を深めていく。				
授業の進め方と授業内容・方法	前期のピンイン(発音)ばかりでなく、内容についても身につけさせるために、復習、朗読、暗誦等いろいろな方法で身につけさせる。その他の講義では前半は新しい内容、読み方や意味などを説明し、後半は復習、発音と会話の練習を行い、最後に習得状況を確認する。授業内容の中で、漢字のずれと比較、文法、表現や意味の違い等を説明したり、発見してもらったりすることにより、記憶を強めることができるようにする。宿題をチェックし、ミス等について説明する。 なお、この科目は学修単位科目であり、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が必要である。事前・事後学習として課題等を与える。				
注意点	成績はトータルで評価する為、1、宿題と授業中の確認テスト(10点) 2、出席状況と態度(10点) 3、口頭試験(20点) 4、筆頭試験(60点) 合計100点満点で評価し、60点以上を合格とする。				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	前期の復習、暗誦等	忘れた内容を復習することにより、身につけることができる。	
		2週	前期の復習、暗誦、語彙等	忘れた内容を復習することにより、習得でき、使えるようになる。	
		3週	中国伝統文化の紹介(広い教室が必要)	目のマッサージや羽根蹴り等、体を動かしながら、中国文化に触れることができ、学習意欲が湧いてくるようになる。	
		4週	第八課 昼食 単語、本文、文法等 飲食物の語彙等 (復習、読み、説明、練習、発表等)	文法や文型等を理解し、少し長い文を自分で作成できるようになる。	
		5週	第八課 昼食 曜日の言い方等 第九課 ブティックにて 単語、本文等 (復習、読み、説明、練習、発表等)	注文時の言い方を覚え、使い分けられ、正確に注文できるようになる。曜日の言い方を習得する。	
		6週	第九課 ブティックにて 文法や漢詩の朗読等 (復習、読み、説明、練習、発表等)	店員との会話を習得し、買い物ができるようになる。文法を理解し、漢詩も朗読できるようになる。	
		7週	第十課 試着 単語、本文、文法等 (復習、読み、説明、練習、発表等)	文法を理解し、少し複雑な文型で短文づくりができるようになる。	
		8週	第十課 試着 色の言い方等 第十一課 値段交渉 単語、本文等 (復習、読み、説明、練習、発表等)	服装店にて自分の好みなど表現でき、買いものを楽しむことができる。語彙の量を増やし、少し複雑な会話ができるようになる。	
	4thQ	9週	第十一課 値段交渉 文法等 (復習、読み、説明、練習、発表等)	値段交渉できるようになり、会話を楽しむことができるようになる。	
		10週	第十二課 お支払い 単語、本文、文法等 (復習、読み、説明、練習、発表等)	お支払いについての会話表現を習得できるようになり、さらに会話を楽しめる。	
		11週	第十二課 お支払い 趣味の語彙や中国貨幣の言い方等 第十三課 本屋にて 単語、本文等 (復習、読み、説明、会話練習、発表等)	金額の言い方やお支払いのやり取りばかりでなく、さらに趣味の言い方を覚え、会話表現がより多彩、豊かになる。	
		12週	第十三課 本屋にて 旅行についての会話等 (復習、読み、説明、会話練習、発表等)	本屋での買い物ばかりでなく、旅行についても話せるようになる。	
		13週	第十四課 兆麟公園の氷祭り 単語、本文、文法等 (復習、読み、説明、会話練習、発表等)	長文に慣れ、複雑な長い短文作りもできるようになる。	
		14週	第十四課 兆麟公園の氷祭り 文法や歌等 (復習、読み、説明、会話練習、発表等)	長文に慣れ、複雑な長い短文作りもできるようになる。中国の歌やゲーム等を覚える。	

		15週	復習, 暗誦, 質疑回答	前期で習った内容について, 全体を把握できる. 質問することにより, さらにレベルアップできるようになる.
		16週	復習, まとめ, 質疑回答, 会話のレベルチェック	通年で習った内容について, 全体を把握でき, 質問することにより, さらにレベルアップできる. 会話やヒヤリングもできるようになる.

評価割合

	口頭試験	筆頭試験	出席状況 (平常点)	レポート	その他 (宿題)	合計
総合評価割合	20	0	0	0	0	20
配点	20	60	10	0	10	20

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	ハングル I	
科目基礎情報						
科目番号	0059		科目区分	一般 / 必修選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般科		対象学年	4		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	基礎から学ぶ 韓国語講座 初級 改訂 木内明著 ISBN978-4-336-05750-1					
担当教員	裊 湖珠					
目的・到達目標						
文字 (ハングル) の書き方・標準語の発音を習得し、本国語との比較によって言語構造の違いにも興味を持たせ、韓国の風習や価値観など文化に対する理解が図れる視聴覚教材を活用する。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1		韓国語の基本子音と母音を書く事や韓国語で数字を言える事, 簡単な会話ができる。	韓国語の基本子音と母音を書く事や韓国語で数字を言える事ができる。	韓国語の基本子音と母音を書く事ができない。		
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	韓国語を初めて学ぶ学生を対象にする。まず、文字 (ハングル) の書き方・標準語の発音を習得し、本国語との比較によって言語構造の違いを理解することを学ぶ。					
授業の進め方と授業内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業方法は基本的には講義を中心とするが韓国の文化や歴史にも触れる事が出来るようにDVD感想や実習も有り</li> <li>・適宜、レポート課題を課すので、期限に遅れず提出すること。</li> </ul> なお、この科目は学修単位科目であり、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が必要である。事前・事後学習として課題等を与える。					
注意点	<成績評価> 試験(60%)およびレポート課題(10%)、小テスト (20%) 学習態度 (10%)合計100点満点で評価し、合計の6割以上を獲得した者を合格とする。 <オフィスアワー> 必要に応じてメールで対応					
授業計画						
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション	ハングル文字の仕組みやハングルの由来に対して勉強する。		
		2週	韓国語の発音①	濃音, 激音, 子音の基本の読み書き		
		3週	韓国語の発音①	合成母音, 終音で基本の読み書き, パッチム		
		4週	韓国語の発音③	発音の変化		
		5週	挨拶・韓国の地図	基本的な挨拶文と韓国の地名を習う。		
		6週	第1課・第2課	「～は, ～です, ～が, ～ですか」練習問題		
		7週	家族の呼称	韓国では家族の呼び方に対して習う。		
		8週	第3課・第4課	指示代名詞を習う		
	2ndQ	9週	第5課・第6課	「します・しますか」を習う		
		10週	韓国映画鑑賞 (前部)	映画を通して韓国人の風習, 考え方を理解する		
		11週	韓国映画鑑賞 (後部)	映画を通して一般的な対話のスピードを聞く		
		12週	第7課・第8課	「～です, ～ます」を習う		
		13週	/形の縮約パターン	/形のまとめ		
		14週	数字	漢数詞と固有数詞を習う		
		15週	第9課・第10課	時計を読む事を習う		
		16週	試験			
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	60	20	10	10	0	100
配点	60	20	10	10	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	ハングルⅡ	
科目基礎情報						
科目番号	0060		科目区分	一般 / 必修選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般科		対象学年	4		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	基礎から学ぶ 韓国語講座 初級 改訂 木内明著 ISBN978-4-336-05750-1					
担当教員	斐 湖珠					
目的・到達目標						
文字 (ハングル) の書き方・標準語の発音を習得し、自国語との比較によって言語構造の違いにも興味を持たせ、韓国の風習や価値観など文化に対する理解が図れる視聴覚教材を活用する。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	韓国語で基本的な日常生活会話ができる。		韓国語で簡単な文を読む事や書く事ができる。		韓国語で簡単な文を読む事や書く事できない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	前期のハングルⅠを履修した学生を対象とする。まず、前期で習った文字 (ハングル) の書き方・標準語の発音を習得し、簡単な会話を学ぶ。					
授業の進め方と授業内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業方法は基本的には講義を中心とするが韓国の文化や歴史にも触れる事が出来るようにDVD感想や実習も有り</li> <li>・ 適宜、レポート課題を課すので、期限に遅れず提出すること。</li> </ul> <p>なお、この科目は学修単位科目であり、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が必要である。事前・事後学習として課題等を与える。</p>					
注意点	<p>&lt;成績評価&gt; 試験(60%)およびレポート課題(10%)の学習態度(10%)、小テスト (10%) 合計100点満点で評価し、合計の6割以上を獲得した者を合格とする。</p> <p>&lt;オフィスアワー&gt; 必要に応じてメールで対応</p>					
授業計画						
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	第11課・第12課	動詞や形容詞の否定文		
		2週	韓国語の中の外来語、敬語	韓国語の外来語、敬語を習う		
		3週	第13課	過去型		
		4週	過去型まとめ	過去型の「/」変換		
		5週	第14課・第15課	曜日に対して習う。		
		6週	身体・位置関係	身体・位置関係する単語を習う。		
		7週	第16課	「～できる」に対して習う。		
		8週	第17課	「～したい」に対して習う。		
	4thQ	9週	韓国映画鑑賞 (前部)	映画を通して韓国人の風習、考え方を理解する		
		10週	韓国映画鑑賞 (後部)	映画を通して一般的な対話のスピードを聞く		
		11週	第18課	「～してもいい」に対して習う。		
		12週	第19課	「～しなければならない」と意志に対して習う。		
		13週	韓国の新年伝統遊び	韓国の正月の遊びを体験する。		
		14週	第20課	未来形を習う。		
		15週	まとめ	1年間のまとめ		
		16週	試験			
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	60	20	10	10	0	100
配点	60	20	10	10	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	スポーツ I
<b>科目基礎情報</b>					
科目番号	0061		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般科		対象学年	4	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	参考書: 最新スポーツルール指定の運動着, Tシャツ, ポロシャツ, 専用シューズ(体育館, テニス).				
担当教員	児玉 英樹, 内山 了治, 小川 裕樹, 篠原 克修				
<b>目的・到達目標</b>					
事前の準備やウォーミングアップ, 事後の片付けやクーリングダウンを積極的に行い, 運動に適した服装や態度の重要性を理解した上で, 各授業項目(各種目)について, 自主的かつ意欲的に活動に取り組める。これらの内容を満足することで, 学習・教育目標の(A-2)の達成とする。					
<b>ループリック</b>					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	準備・活動の場面において, 自己および仲間のとるべき行動を判断し, 適切に働きかけながら, 主体的に活動できる。	準備・活動の場面において, 自己のとるべき行動を判断し, 仲間と協力しながら活動できる。	準備・活動の場面において, 自己のとるべき行動を判断できない。仲間との協力や活動への自主的な参加ができない。		
評価項目2	自己の能力を理解し, 適切な運動技能, 運動強度を判断し, 応用的技能の習得や体力向上をはかることができる。	教員が指示した運動課題に従い, 運動の基本技術や体力を身につけることができる。	教員の指示に従わず, 運動の基本技術や体力を身につけることができない。		
評価項目3	自己や周囲の安全に留意しながら活動し, 必要に応じて危険を回避する行動や, 周囲への声かけができる。	自己の安全に留意しながら活動し, 必要に応じて危険を回避する行動を取ることができる。	安全に留意しながら活動することができない。		
<b>学科の到達目標項目との関係</b>					
<b>教育方法等</b>					
概要	各種運動の合理的実践を通して, 運動の楽しさや喜びを体得し, 生涯にわたりスポーツを実践できる能力, 各種技能及び体力の向上を図る。また, 心身の健康のために, 積極的に運動と関わるライフスタイルの基礎をつくる。				
授業の進め方と授業内容・方法	授業方法は, 実技が中心となるが, 必要に応じてレポート等の課題を課す場合がある。				
注意点	<p>&lt;成績評価&gt; 上記(到達目標)に従い, 100点満点で(A-2)を評価し, 合計の6割以上獲得した者をこの科目の合格者とする。</p> <p>&lt;オフィスアワー&gt; 毎週火曜日16:00~17:00, 内山: 第1体育館, グラウンド, 児玉: 第1体育館, 篠原(非常勤講師): 授業の前後に聞いて下さい。緊急の場合は体育教員が対応します。</p> <p>&lt;先修科目・後修科目&gt; 先修科目: 保健・体育III 後修科目: スポーツII</p> <p>&lt;備考&gt; やむを得ない理由により欠課時数が3時間を超えてしまった場合には, 申し出により補習を行うことがあるが, その場合でも欠課時数の合計が, 総授業時数の1/5以内を目安とする。グラウンド改修工事が予定されており, 授業内容が変更になることがある。</p>				
<b>授業計画</b>					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	体操①	・身体的緊張をほぐす各種体操を意欲的に行える。 ・ストレッチ, 補強運動等の具体的方法の理解と実践ができる。	
		2週	ランニング① 種目選択I(テニス・卓球)①	<ランニング> 学校外(2.06km) <テニス> ストローク, ボレー, スマッシュ, サーブなど, W-ゲームの把握。 <卓球> フォア, バック, サーブ練習, ゲームなど。	
		3週	ランニング② 種目選択I(テニス・卓球)②	"	
		4週	種目選択I(テニス・卓球)③	<テニス> ストローク, ボレー, スマッシュ, サーブなど, W-ゲームの把握。 <卓球> フォア, バック, サーブ練習, ゲームなど。	
		5週	種目選択I(テニス・サッカー・ソフトボール)①	<テニス> ストローク, ボレー, スマッシュ, サーブなど, W-ゲームの把握。 <サッカー> 各種キック, トラッピング, ヘディング, ポジションに応じた戦術の理解など。 <ソフトボール> バッティング, 守備, ルールの理解など。	
		6週	種目選択I(テニス・サッカー・ソフトボール)②	"	
		7週	種目選択I(テニス・サッカー・ソフトボール)③	"	
		8週	種目選択I(テニス・サッカー・ソフトボール)④	"	
	4thQ	9週	種目選択I(テニス・サッカー・ソフトボール)⑤	"	
		10週	種目選択II(バレーボール・卓球・バドミントン・バスケットボール・トレーニングなど)①	<球技系種目> 応用技能・戦術の習得。 <トレーニング> 各種トレーニングの理解と実践, ウェイトトレーニング, 自転車を利用したトレーニングなど。	
		11週	種目選択III(バレーボール・卓球・バドミントン・バスケットボール・トレーニングなど)②	"	
		12週	種目選択III(バレーボール・卓球・バドミントン・バスケットボール・トレーニングなど)③	"	
		13週	種目選択III(バレーボール・卓球・バドミントン・バスケットボール・トレーニングなど)④	"	



	14週	種目選択III(バレーボール・卓球・バドミントン・バスケットボール・トレーニングなど)⑤	〃
	15週	種目選択III(バレーボール・卓球・バドミントン・バスケットボール・トレーニングなど)⑥	〃
	16週		

評価割合

	試験	技能	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	0	60	40	0	0	100
配点	0	60	40	0	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	日本語コミュニケーションスキル (留学生対象)		
科目基礎情報							
科目番号	0062		科目区分	一般 / 必修			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2			
開設学科	一般科		対象学年	4			
開設期	前期		週時間数	前期:2			
教科書/教材	教材は適宜, 教師が用意する.						
担当教員	岡宮 美樹						
目的・到達目標							
3年次の「日本語」の授業での漢字の習得を継続する。 論理的な日本語, 適切な資料を使い, 自国の世界遺産について調べ, 発表することができる.							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1 JLPTのN2レベルの漢字を習得している.	80%以上習得できている.		70%以上習得できている.		習得が59%以下である.		
評価項目2 論理的な日本語, 適切な資料を使い, 自国の世界遺産について調べ, 発表することができる.	効果的なプレゼンになるよう工夫し, 適切な資料を選出し, わかりやすい日本語で発表することができる.		参考資料等を参照しながら, プレゼンを作成し, 発表することができる.		プレゼンの資料の作成ができなかったり, 発表することができない.		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	高専での学習活動において, 各自の研究, 実験結果を正確にまとめ, 伝え, 発表する力が求められる. この授業では, 3年時の授業で身に付けた語彙や表現を使い, プレゼンテーションの方法を学ぶ.						
授業の進め方と授業内容・方法	毎回, テーマに沿ったプレゼンテーションを作成し, 授業時に発表する.						
注意点	<成績評価> 毎回各テーマにおいて, プレゼンテーション作成を課する. 提出状況, 内容などをポートフォリオ形式で評価する. 100点満点により評価し, 6割以上を獲得した者を合格とする.						
授業計画							
	週	授業内容・方法		週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	オリエンテーション		本授業での取り組みを理解する.		
		2週	私の国ってこんなところ①		適切な資料等を使って, 自国の紹介ができる.		
		3週	私の国ってこんなところ②		適切な資料等を使って, 自国の紹介ができる.		
		4週	世界遺産って何?		世界遺産について, 説明することができる.		
		5週	日本の世界遺産①		日本の世界遺産について理解する.		
		6週	日本の世界遺産について発表①		日本の世界遺産について発表することができる.		
		7週	日本の世界遺産について発表② 原稿作成①		日本の世界遺産について発表することができる. 各自の国の世界遺産について, 原稿を作成する.		
		8週	日本の世界遺産② 原稿作成②		日本の世界遺産について, 説明することができる. 各自の国の世界遺産について, 原稿を作成する.		
	2ndQ	9週	原稿作成③		各自の国の世界遺産について, 原稿を作成し, 発表する.		
		10週	プレゼンテーション作成①, 発表①		各自の国の世界遺産について, プレゼンテーションを作成し, 発表をする.		
		11週	プレゼンテーション作成②, 発表②		各自の国の世界遺産について, プレゼンテーションを作成し, 発表をする.		
		12週	プレゼンテーション作成③, 発表③		各自の国の世界遺産について, プレゼンテーションを作成し, 発表をする.		
		13週	プレゼンテーション練習①		正しい発音, 適切な発声, 態度で発表することができる.		
		14週	プレゼンテーション練習②		正しい発音, 適切な発声, 態度で発表することができる.		
		15週	「伝えたい! 私の国の世界遺産」		作成したプレゼンテーションを発表することができる.		
		16週					
評価割合							
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計	
総合評価割合	0	0	0	100	0	100	
配点	0	0	0	100	0	100	

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	英語Ⅳ (E)	
科目基礎情報						
科目番号	0063	科目区分	一般 / 必修選択			
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2			
開設学科	一般科	対象学年	4			
開設期	通年	週時間数	2			
教科書/教材	教科書: Tech Talk Pre-Intermediate (Oxford University Press)					
担当教員	クレイトン					
目的・到達目標						
"In order to attain the goal of A-1 and F-2, students will develop skills and gain confidence in English communication (A-1) through opportunities to express their opinions and ideas in various contexts relevant to their future careers (F-2)."						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1	Skills to communicate in English effectively and confidently.	Skills to communicate in English.	Inadequate skills to communicate in English.			
評価項目2	High, practical English listening skills.	English listening skills.	Inadequate English listening skills.			
評価項目3	High, practical skills to accomplish English homework tasks.	Skills to accomplish English homework tasks.	Inadequate skills to accomplish English homework tasks.			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	The purpose of this course is to encourage students to build specialist vocabulary and language skills that enable them to communicate more confidently in their chosen technical fields. (A-1)					
授業の進め方と授業内容・方法	Lessons will be structured around class discussions and group work, along with reading and listening assignments.					
注意点	Grades are based on attendance, class participation and the completion of homework assignments (40%) and tests (60%). An average grade of 60% is required to pass this course. (F-2)					
授業計画						
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	Intoroduction	Outline of topics		
		2週	Unit 1	Job and work vocabulary		
		3週	Unit 1	Requests and offers		
		4週	Unit 2	Exchanging information		
		5週	Unit 2	Measurements		
		6週	Unit 3	Estimating quantities		
		7週	Unit 3	Specifications		
		8週	Test	Unit review		
	2ndQ	9週	Unit 4	Cause and effect		
		10週	Unit 4	Checking and controlling		
		11週	Unit 5	Explanating what happened		
		12週	Unit 5	Performance indicators		
		13週	Unit 6	Trouble shooting		
		14週	Unit 6	Repairs		
		15週	Final test	Unit review		
		16週				
後期	3rdQ	1週	Introduction	Outline of units		
		2週	Unit 7	Questions		
		3週	Unit 7	Numbers		
		4週	Unit 8	Explaining rules		
		5週	Unit 8	Identifying faults		
		6週	Unit 9	Safety hazards		
		7週	Unit 9	Instructions		
		8週	Test	Unit review		
	4thQ	9週	Unit 10	Shapes		
		10週	Unit 10	Classifying		
		11週	Unit 11	Testing		
		12週	Unit 11	"Understanding instructions"		
		13週	Unit 12	Warnings		
		14週	Unit 12	Making suggestions		
		15週	Final test	Unit review		
		16週				
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	課題	その他	合計
総合評価割合	60	0	40	0	0	100

配点	60	0	40	0	0	100
----	----	---	----	---	---	-----

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	英語Ⅳ (M)	
科目基礎情報						
科目番号	0064		科目区分	一般 / 必修選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般科		対象学年	4		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	教科書: Tech Talk Pre-Intermediate (Oxford University Press)					
担当教員	クレイトン					
目的・到達目標						
"In order to attain the goal of A-1 and F-2, students will develop skills and gain confidence in English communication (A-1) through opportunities to express their opinions and ideas in various contexts relevant to their future careers (F-2)."						
ルーブリック						
		Skills to communicate in English effectively and confidently.	Skills to communicate in English.	Inadequate skills to communicate in English.		
評価項目1		High, practical English listening skills.	English listening skills.	Inadequate English listening skills.		
評価項目2		High, practical skills to accomplish English homework tasks.	Skills to accomplish English homework tasks.	Inadequate skills to accomplish English homework tasks.		
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	The purpose of this course is to encourage students to build specialist vocabulary and language skills that enable them to communicate more confidently in their chosen technical fields. (A-1)					
授業の進め方と授業内容・方法	Lessons will be structured around class discussions and group work, along with reading and listening assignments.					
注意点	Grades are based on attendance, class participation and the completion of homework assignments (40%) and tests (60%). An average grade of 60% is required to pass this course. (F-2)					
授業計画						
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	Intoroduction	Outline of topics		
		2週	Unit 1	Job and work vocabulary		
		3週	Unit 1	Requests and offers		
		4週	Unit 2	Exchanging information		
		5週	Unit 2	Measurements		
		6週	Unit 3	Estimating quantities		
		7週	Unit 3	Specifications		
		8週	Test	Unit review		
	2ndQ	9週	Unit 4	Cause and effect		
		10週	Unit 4	Checking and controlling		
		11週	Unit 5	Explaining what happened		
		12週	Unit 5	Performance indicators		
		13週	Unit 6	Trouble shooting		
		14週	Unit 6	Repairs		
		15週	Final test	Unit review		
		16週				
後期	3rdQ	1週	Introduction	Outline of units		
		2週	Unit 7	Questions		
		3週	Unit 7	Numbers		
		4週	Unit 8	Explaining rules		
		5週	Unit 8	Identifying faults		
		6週	Unit 9	Safety hazards		
		7週	Unit 9	Instructions		
		8週	Test	Unit review		
	4thQ	9週	Unit 10	Shapes		
		10週	Unit 10	Classifying		
		11週	Unit 11	Testing		
		12週	Unit 11	"Understanding instructions"		
		13週	Unit 12	Warnings		
		14週	Unit 12	Making suggestions		
		15週	Final test	Unit review		
		16週				
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	60	0	40	0	0	100
配点	60	0	40	0	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	英語Ⅳ (S)	
科目基礎情報						
科目番号	0065		科目区分	一般 / 必修選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般科		対象学年	4		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	教科書: Tech Talk Pre-Intermediate (Oxford University Press)					
担当教員	クレイトン					
目的・到達目標						
"In order to attain the goal of A-1 and F-2, students will develop skills and gain confidence in English communication (A-1) through opportunities to express their opinions and ideas in various contexts relevant to their future careers (F-2)."						
ルーブリック						
		Skills to communicate in English effectively and confidently.	Skills to communicate in English.	Inadequate skills to communicate in English.		
評価項目1		High, practical English listening skills.	English listening skills.	Inadequate English listening skills.		
評価項目2		High, practical skills to accomplish English homework tasks.	Skills to accomplish English homework tasks.	Inadequate skills to accomplish English homework tasks.		
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	The purpose of this course is to encourage students to build specialist vocabulary and language skills that enable them to communicate more confidently in their chosen technical fields. (A-1)					
授業の進め方と授業内容・方法	Lessons will be structured around class discussions and group work, along with reading and listening assignments.					
注意点	Grades are based on attendance, class participation and the completion of homework assignments (40%) and tests (60%). An average grade of 60% is required to pass this course. (F-2)					
授業計画						
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	Intoroduction	Outline of topics		
		2週	Unit 1	Job and work vocabulary		
		3週	Unit 1	Requests and offers		
		4週	Unit 2	Exchanging information		
		5週	Unit 2	Measurements		
		6週	Unit 3	Estimating quantities		
		7週	Unit 3	Specifications		
		8週	Test	Unit review		
	2ndQ	9週	Unit 4	Cause and effect		
		10週	Unit 4	Checking and controlling		
		11週	Unit 5	Explanating what happened		
		12週	Unit 5	Performance indicators		
		13週	Unit 6	Trouble shooting		
		14週	Unit 6	Repairs		
		15週	Final test	Unit review		
		16週				
後期	3rdQ	1週	Introduction	Outline of units		
		2週	Unit 7	Questions		
		3週	Unit 7	Numbers		
		4週	Unit 8	Explaining rules		
		5週	Unit 8	Identifying faults		
		6週	Unit 9	Safety hazards		
		7週	Unit 9	Instructions		
		8週	Test	Unit review		
	4thQ	9週	Unit 10	Shapes		
		10週	Unit 10	Classifying		
		11週	Unit 11	Testing		
		12週	Unit 11	"Understanding instructions"		
		13週	Unit 12	Warnings		
		14週	Unit 12	Making suggestions		
		15週	Final test	Unit review		
		16週				
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	60	0	40	0	0	100
配点	60	0	40	0	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	英語Ⅳ (J)		
科目基礎情報							
科目番号	0066		科目区分	一般 / 必修選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	一般科		対象学年	4			
開設期	通年		週時間数	前期:2 後期:2			
教科書/教材	Touchstone Level 2 Student's Book, Cambridge University Press						
担当教員	デヴィッドソン						
目的・到達目標							
In order to attain the goal of A-1 and F-2, students will develop skills and gain confidence in English communication (A-1) through completing tasks which help them to express themselves in everyday life and work situations. These skills will be relevant to their future careers (F-2). 基盤となる工学分野において、必要な英語の基礎力を身につける。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1	Skills to use English in everyday life.	Skills to use English in everyday life.	Inadequate skills to use English in everyday life.				
評価項目2	Skills to give presentations in English freely and effectively.	Skills to have conversations in English.	Inadequate skills to give presentations in English.				
評価項目3	Strong confidence in using English with others.	Confidence in using English with others.	Insufficient confidence in using English with others.				
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	The objectives of this class are to review and practice basic grammar in conversation and to improve the students ability to converse in English.						
授業の進め方と授業内容・方法	Through the use of the text (Touchstone), other exercises and role play practice the students will gain confidence to travel abroad and use English in work and social situations.						
注意点	Evaluation is based on Attendance (30%), Final Test (20%), Quizzes (20%), Speaking Test (10), Homework (10%) and Participation (10%).						
授業計画							
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標				
前期	1stQ	1週	Course Introduction and introductory exercise	Students understand course content, evaluation, goals and introduce themselves			
		2週	Text Unit 1 p.1-5	Making Friends			
		3週	Unit 1 p.6-9				
		4週	Unit 2 p.11-15	Interests			
		5週	Unit 2 p. 16-19 Homework Assignment 1				
		6週	Unit 3 p.21-25	Health			
		7週	Unit 3 p.26-29				
		8週	Quiz 1 & Supplemental Activities				
	2ndQ	9週	Unit 4 p..33-36	Celebrations			
		10週	Unit 4 p.37-41 Homework Assignment 2				
		11週	Unit 5 p. 43-47	Growing Up			
		12週	Unit 5 p.48-52				
		13週	Quiz 2 & Supplemental Activities				
		14週	Speaking Test & Review				
		15週	Test				
		16週					
後期	3rdQ	1週	Text Unit 6 p.53-57	Around Town			
		2週	Unit 6 p.58-61				
		3週	Unit 7 p.65-69	Going Away			
		4週	Unit 7 p.70-73 Homework Assignment 3				
		5週	Unit 8 p.75-78	At Home			
		6週	Unit 8 p.79-83				
		7週	Quiz 3 & Supplemental Activities				
		8週	Unit 9 p.85-89	Things Happen			
	4thQ	9週	Unit 9 p.90-93 Homework Assignment 4				
		10週	Unit 10 p.97-101	Communication			
		11週	Unit 10 p.102-105				
		12週	Quiz 4 & Supplemental Activities				
		13週	Unit 11 p.107-111	Appearances			
		14週	Speaking Test & Review				
		15週	Test				
		16週					
評価割合							
	exam	homework	quizzes	Speaking Test	attendance	participation	合計

総合評価割合	20	10	20	0	40	10	100
Basic Ability	20	10	20	0	40	10	100
Technical Ability	0	0	0	0	0	0	0



長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	英語Ⅳ (C)		
科目基礎情報							
科目番号	0067		科目区分	一般 / 必修選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2			
開設学科	一般科		対象学年	4			
開設期	通年		週時間数	2			
教科書/教材	Touchstone Level 2 Student's Book, Cambridge University Press						
担当教員	デヴィッドソン						
目的・到達目標							
In order to attain the goal of A-1 and F-2, students will develop skills and gain confidence in English communication (A-1) through completing tasks which help them to express themselves in everyday life and work situations. These skills will be relevant to their future careers (F-2). 基盤となる工学分野において、必要な英語の基礎力を身につける。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1	Skills to use English in everyday life.	Skills to use English in everyday life.	Inadequate skills to use English in everyday life.				
評価項目2	Skills to give presentations in English freely and effectively.	Skills to have conversations in English.	Inadequate skills to give presentations in English.				
評価項目3	Strong confidence in using English with others.	Confidence in using English with others.	Insufficient confidence in using English with others.				
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	The objectives of this class are to review and practice basic grammar in conversation and to improve the students ability to converse in English.						
授業の進め方と授業内容・方法	Through the use of the text (Touchstone), other exercises and role play practice the students will gain confidence to travel abroad and use English in work and social situations.						
注意点	Evaluation is based on Attendance (30%), Final Test (20%), Quizzes (20%), Speaking Test (10), Homework (10%) and Participation (10%).						
授業計画							
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標				
前期	1stQ	1週	Course Introduction and introductory exercise	Students understand course content, evaluation, goals and introduce themselves			
		2週	Text Unit 1 p.1-5	Making Friends			
		3週	Unit 1 p.6-9				
		4週	Unit 2 p.11-15	Interests			
		5週	Unit 2 p. 16-19 Homework Assignment 1				
		6週	Unit 3 p.21-25	Health			
		7週	Unit 3 p.26-29				
		8週	Quiz 1 & Supplemental Activities				
	2ndQ	9週	Unit 4 p..33-36	Celebrations			
		10週	Unit 4 p.37-41 Homework Assignment 2				
		11週	Unit 5 p. 43-47	Growing Up			
		12週	Unit 5 p.48-52				
		13週	Quiz 2 & Supplemental Activities				
		14週	Speaking Test & Review				
		15週	Test				
		16週					
後期	3rdQ	1週	Text Unit 6 p.53-57	Around Town			
		2週	Unit 6 p.58-61				
		3週	Unit 7 p.65-69	Going Away			
		4週	Unit 7 p.70-73 Homework Assignment 3				
		5週	Unit 8 p.75-78	At Home			
		6週	Unit 8 p.79-83				
		7週	Quiz 3 & Supplemental Activities				
		8週	Unit 9 p.85-89	Things Happen			
	4thQ	9週	Unit 9 p.90-93 Homework Assignment 4				
		10週	Unit 10 p.97-101	Communication			
		11週	Unit 10 p.102-105				
		12週	Quiz 4 & Supplemental Activities				
		13週	Unit 11 p.107-111	Appearances			
		14週	Speaking Test & Review				
		15週	Test				
		16週					
評価割合							
	exam	homework	quizzes	Speaking Test	attendance	participation	合計

総合評価割合	20	10	20	0	40	10	100
Basic Ability	20	10	20	0	40	10	100
Technical Ability	0	0	0	0	0	0	0

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	経済学	
科目基礎情報						
科目番号	0069		科目区分	一般 / 必修選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般科		対象学年	4		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	参考書: 神取道宏 (2014) 『ミクロ経済学の力』 (日本評論社)					
担当教員	永田 邦和					
目的・到達目標						
ミクロ経済学の基礎知識を身に付け、それらの知識を使って、現実の経済問題やそれらに関する議論を理解できるようにする。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベルの目安(良)	未到達レベルの目安(不可)		
評価項目1	価格理論の理解	価格理論の基礎知識を身に付け、使いこなせるようにする	専門用語や基礎的な概念を理解している	初歩的な用語や概念を理解していない		
評価項目2	ゲーム理論や情報の経済学の理解	ゲーム理論や情報の経済学の基礎知識を身に付け、使いこなせるようにする	専門用語や基礎的な概念を理解している	初歩的な用語や概念を理解していない		
評価項目3	現実の経済問題への理解や関心	価格理論やゲーム理論、情報の経済学を用いて、現実の経済問題や議論を理解できる	現実の経済問題の概要を説明できる	現実の経済問題を全く理解できず、関心も表現できない		
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	ミクロ経済学は、大きく、価格理論とゲーム理論、情報の経済学の三つに分かれる。これらは、現実の経済問題を分析する際のツールである。この授業では、価格理論とゲーム理論、情報の経済学の基礎知識を理解し、それらの知識を使って、現実の経済問題やそれらに関する議論を理解できるようにする。					
授業の進め方と授業内容・方法	15回の講義の前半では、価格理論を取り上げる。中間試験では、価格理論の理解度を評価する。後半では、ゲーム理論と情報の経済学を取り上げる。期末試験では、ゲーム理論と情報の経済学の理解度を評価する。授業中に、受講生の理解度を確保するための問題演習やテスト、宿題を課す。受講生の理解度に応じて授業の進捗を変更する場合、外部性や独占、情報の経済学を割愛することもある。 なお、この科目は学修単位科目であり、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が必要である。事前・事後学習として課題等を与える。					
注意点	<成績評価> 試験 (60%, 中間試験30%と期末試験30%), 小テスト (30%), 平常点 (授業中の練習問題や宿題等, 10%) とする。評価結果60%以上の者を合格とする。 <オフィスアワー> 授業終了後、教室か非常勤講師控室。					
授業計画						
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス: ミクロ経済学とは	ミクロ経済学の目的と概要		
		2週	消費者行動の理論 (1)	消費者行動の基礎理論を理解する		
		3週	消費者行動の理論 (2)	価格や所得の変化の需要への影響を理解する		
		4週	企業行動の理論 (1)	生産要素が一つのケースを理解する		
		5週	企業行動の理論 (2)	生産要素が二つのケースを理解する		
		6週	市場均衡 (1)	部分均衡分析と分析の応用例 (TPPの議論) を理解する		
		7週	市場均衡 (2)	一般均衡分析を理解する		
		8週	市場の失敗と独占	外部性や公共財, 独占を理解する		
	4thQ	9週	ゲームとナッシュ均衡 (1)	同時手番ゲームの基礎とナッシュ均衡を理解する		
		10週	ゲームとナッシュ均衡 (2)	同時手番ゲームの応用例を理解する		
		11週	時間を通じたゲーム (1)	時間を通じたゲームの基礎を理解する		
		12週	時間を通じたゲーム (2)	時間を通じたゲームの応用例や繰り返しゲームを理解する		
		13週	保険とモラルハザード	保険の役割とモラルハザード, その防止策を理解する		
		14週	逆淘汰とシグナリング	逆淘汰とシグナリングの基礎を理解する		
		15週	講義のまとめ	ミクロ経済学の基礎知識の理解度を再確認する		
		16週	学年末達成度試験			
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	60	30	10	0	0	100
配点	60	30	10	0	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	地球科学
科目基礎情報					
科目番号	0070		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般科		対象学年	4	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	教科書:教科書: 大西浩次「科学と人間生活」5章ほか, 中村桂子代表(実教出版), および, 自作教材参考書:シリーズ現代の天文学(日本天文学会編) I:岡村・池内・海部・佐藤・永原「人類の住む宇宙」日本評論社, 鹿園直建「地球惑星システム科学入門」(東京大学出版会), 東京大学地球惑星システム科学講座[編]「進化する地球惑星システム」(東京大学出版会)				
担当教員	大西 浩次				
目的・到達目標					
宇宙における地球の形成から現在の地球への進化の様子を時間を追って説明できること。さらに、プレートテクトニクスに基づく、日本列島の形成と地震について説明できること。これらを学習し、宇宙の中での地球の特異性と普遍性を説明できること。また、災害のメカニズムを理解し、防災についての理解を得ること。これらの内容を満足する事で、学習・教育目標の(C-1)の達成とする。					
本科目は学修単位科目であり、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が必要です。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	地球の形成から現在の地球への進化の様子を時間を追って説明できる。回路方程式を作成し回路の特性を説明できる。	地球の形成史や現在の地球への様子が説明できる。	地球の形成史などが説明できない。		
評価項目2	プレートテクトニクスに基づく、日本列島の形成と地震について説明できる。	日本列島の形成と地震について理解している。	日本列島の形成と地震について理解していない。		
評価項目3	災害のメカニズムを理解し、防災についての対策などが考えることができる。	災害のメカニズムや防災の大切さを説明できる。	災害のメカニズムや防災などが説明できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	前半では、地球科学に関係する基本的な内容を学び、宇宙の中での「地球」の特異性と普遍性を理解する。後半は、地球科学、特にプレートテクトニクスに基づく、日本列島の形成と地震についての基礎を学び、東日本大震災後の地球科学の進む道を考える。				
授業の進め方と授業内容・方法	・授業方法は講義を中心とし、演習問題や課題をだす。 ・単元ごとに、小テストや用語の確認、あるいは、レポート課題を課す。小テスト・用語の確認テストは、毎授業終了時に提出のこと。レポートは、期限内に遅れず提出すること。				
注意点	<成績評価> 試験(60%)、小テスト・課題レポート等(40%)の合計100点満点で(C-1)を評価する。6割以上を獲得した者をこの科目の合格者とする。 <オフィスアワー>放課後 16:00 ~ 17:00, 機械工学科棟3 F 大西教員室。この時間にとらわれず必要に応じて来室可 <先修科目・後修科目>先修科目は物理I, 物理II, 化学I, 化学II, 応用物理Iとなる。 <備考>いくつかの専門分野がかかわる複合領域を含むため、既存の知識のみでは理解が困難になる場合がある。自ら積極的に考え、調べる必要がある。				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	宇宙から地球を眺める	宇宙における地球の位置づけと特徴を理解する。	
		2週	地球と取り巻く時空の階層構造	地球を取り巻く時空の階層構造の存在を理解し、その原因に付いて説明できる。	
		3週	膨張宇宙からビックバン	ビックバンとはなにか理解し、ビックバンや星での元素合成を説明できる。	
		4週	太陽系の中の地球	太陽系の広がりか説明できる。太陽系の形成について説明できる。金星、火星と比較して地球環境を理解する。	
		5週	惑星としての地球から生命の星としての地球へ	地球の形成から現在の地球への進化の様子を時間を追って説明できる。地球上に最初に誕生した生命がどのように進化して現在に到るかを説明できる。	
		6週	地球大気と海洋の運動	地球大気構造や気温分布を熱輸送の観点から説明できる。大気の大循環を理解し、大気中の風の流れなどの気象現象を説明できる。	
		7週	惑星としての地球	地球の熱収支を熱放射の観点から調べ、温室効果の意味を説明できる。金星や火星と地球の違いを温室効果ガスや放射平衡温度から理解する。	
		8週	前期中間理解度確認	現在の地球環境に到るまでの進化の過程の基本的な理解度を確認する。	
	2ndQ	9週	生物の多様性と共通性	地球上の生物の多様性について説明できる。生物に共通する性質について説明できる。	
		10週	地球上の植生と生態系	世界のバイオームとその分布について説明できる。日本のバイオームの水平分布、垂直分布について説明できる。生態系における炭素の循環とエネルギーの流れについて説明できる。	
		11週	日本列島を作った作用	プレートテクトニクスを理解し、日本列島の特徴を理解する。	
		12週	地震・火山のメカニズム	地震や火山のメカニズムを理解する。	
		13週	地震災害・火山災害と防災	地震災害、火山災害の特徴と防災を理解する。	

	14週	気象災害と防災	気象災害の特徴と防災を理解する。
	15週	阪神・淡路大震災, 東日本大震災の教訓	阪神・淡路大震災や東日本大震災を踏まえた今後を考える。
	16週	前期末達成度試験	地球のグローバルな環境問題を理解しているか, 災害の起こるメカニズムと防災に付いての基礎的な理解度を確認する。

評価割合

	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	60	10	15	15	0	100
配点	60	10	15	15	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度(2019年度)	授業科目	スポーツⅡ
科目基礎情報					
科目番号	0067		科目区分	一般/必修	
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般科		対象学年	5	
開設期	前期		週時間数	前期:2	
教科書/教材	参考書: 最新スポーツルール指定の運動着, Tシャツ, ポロシャツ, 専用シューズ(体育館, テニス).				
担当教員	児玉 英樹, 内山 了治, 小川 裕樹, 篠原 克修				
目的・到達目標					
事前の準備やウォーミングアップ, 事後の片付けやクーリングダウンを積極的に行い, 運動に適した服装や態度の重要性を理解した上で, 各授業項目(各種目)について, 自主的かつ意欲的に活動に取り組める。これらの内容を満足することで, 学習・教育目標の(A-2)の達成とする。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	準備・活動の場面において, 自己および仲間のとるべき行動を判断し, 適切に働きかけながら, 主体的に活動できる。	準備・活動の場面において, 自己のとるべき行動を判断し, 仲間と協力しながら活動できる。	準備・活動の場面において, 自己のとるべき行動を判断できない。仲間との協力や活動への自主的な参加ができない。		
評価項目2	自己の能力を理解し, 適切な運動技能, 運動強度を判断し, 応用的技能の習得や体力向上をはかることができる。	教員が指示した運動課題に従い, 運動の基本技術や体力を身につけることができる。	教員の指示に従わず, 運動の基本技術や体力を身につけることができない。		
評価項目3	自己や周囲の安全に留意しながら活動し, 必要に応じて危険を回避する行動や, 周囲への声かけができる。	自己の安全に留意しながら活動し, 必要に応じて危険を回避する行動を取ることができる。	安全に留意しながら活動することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	各種運動の合理的実践を通して, 運動の楽しさや喜びを体得し, 生涯にわたりスポーツを実践できる能力, 各種技能及び体力の向上を図る。また, 心身の健康のために, 生活の中に積極的に運動を取り入れる。				
授業の進め方と授業内容・方法	授業方法は, 実技が中心となるが, 学習教育目標(A-2)を評価するためのレポート課題を課す。				
注意点	<p>&lt;成績評価&gt; 上記(到達目標)に従い, 100点満点で(A-2)を評価し, 合計の6割以上獲得した者をこの科目の合格者とする。</p> <p>&lt;オフィスアワー&gt; 毎週火曜日16:00~17:00, 内山: 第1体育館, グラウンド, 児玉: 第1体育館, 篠原(非常勤講師): 授業の前後に聞いて下さい。緊急の場合は体育教員が対応します。</p> <p>&lt;先修科目・後修科目&gt; 先修科目: スポーツI</p> <p>&lt;備考&gt; やむを得ない理由により欠課時数が3時間を超えてしまった場合には, 申し出により補習を行うことがあるが, その場合でも欠課時数の合計が, 総授業時数の1/5以内を目安とする。</p>				
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	体操①	・身体的緊張をほぐす各種体操を意欲的に行える。 ・ストレッチ, 補強運動等の具体的方法の理解と実践ができる。	
		2週	スポーツテスト①	・文部科学省スポーツテストを行う。 ・運動能力, 体力の実態把握と課題設定。	
		3週	スポーツテスト②	"	
		4週	種目選択I(テニス・サッカー・ソフトボール)①	<テニス> ストローク, ボレー, スマッシュ, サーブスなど, W-ゲームの把握。 <サッカー> 各種キック, トラッピング, ヘディング, ポジションに応じた戦術の理解など。 <ソフトボール> バッティング, 守備, ルールの理解など。	
		5週	種目選択I(テニス・サッカー・ソフトボール)②	"	
		6週	種目選択I(テニス・サッカー・ソフトボール)③	"	
		7週	種目選択I(テニス・サッカー・ソフトボール)④	"	
		8週	種目選択I(テニス・サッカー・ソフトボール)⑤	"	
		9週	種目選択I(テニス・サッカー・ソフトボール)⑥	"	
	2ndQ	10週	種目選択III(バレーボール・卓球・バドミントン・バスケットボール・トレーニングなど)①	<球技系種目> 発展的スキル・戦術の習得。 <トレーニング> 各種トレーニングの理解と実践, ウェイトトレーニング, 自転車を利用したトレーニングなど。	
		11週	種目選択III(バレーボール・卓球・バドミントン・バスケットボール・トレーニングなど)②	"	
		12週	種目選択III(バレーボール・卓球・バドミントン・バスケットボール・トレーニングなど)③	"	
		13週	種目選択III(バレーボール・卓球・バドミントン・バスケットボール・トレーニングなど)④	"	
		14週	種目選択III(バレーボール・卓球・バドミントン・バスケットボール・トレーニングなど)⑤	"	
		15週	種目選択III(バレーボール・卓球・バドミントン・バスケットボール・トレーニングなど)⑥	"	
		16週			

評価割合						
	試験	技能	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	0	50	40	10	0	100
配点	0	50	40	10	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	英語 V (E)
<b>科目基礎情報</b>					
科目番号	0068		科目区分	一般 / 必修選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	一般科		対象学年	5	
開設期	前期		週時間数	前期:2	
教科書/教材	no textbook				
担当教員	オサダ				
<b>目的・到達目標</b>					
In order to attain the goal of A-1 and F-2, students will develop skills and gain confidence in English communication (A-1) through opportunities to express their opinions and ideas in various contexts relevant to their future careers (F-2). 基盤となる工学分野において、必要な英語の基礎力を身につける。					
<b>ルーブリック</b>					
	Ideal Level of Achievement (Very Good)	Standard Level of Achievement (Good)	Unacceptable Level of Achievement (Fail)		
Evaluation 1	Skills to express their thoughts freely in English in expressive ways.	Skills to express their thoughts in English.	Inadequate skills to express their thoughts in English.		
Evaluation 2	Skills to conduct research projects in English freely and effectively.	Skills to conduct research projects in English.	Inadequate skills to conduct research projects in English.		
Evaluation 3	Skills to write reports in English freely and effectively.	Skills to write reports in English.	Inadequate skills to write reports in English.		
<b>学科の到達目標項目との関係</b>					
<b>教育方法等</b>					
概要	The aim of this course is to develop students' skills and strategies for natural and effective communication in English (A-1) through collaborative group work and individual tasks. The main focus is to work through the stages for preparing, giving, and critiquing interesting and professional presentations.				
授業の進め方と授業内容・方法	Tasks include planning and conducting a research project, and presenting findings orally and in a written report.. Students also learn how to make content appropriate to audience, and techniques for effective public speaking. Active participation is expected, and some homework is required. なお、この科目は学修単位科目であり、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が必要である。事前・事後学習として課題等を与える。				
注意点	Grades are based on active participation in classroom activities and homework preparation for tasks (50%), and on two presentations (40%) and one written report (10%), to fulfill goal (F-2). Students who achieve 60% of the total assessment will get a credit for the course. オフィスアワー 授業のあとリフレッシュルームに尋ねてください。				
<b>授業計画</b>					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	Course Overview. Introductions and Interviews	interview a partner; report information in plenary.	
		2週	Group Research Project (1): Select topics; analyse survey question types	Write a questionnaire.	
		3週	(2): Conduct a survey	Collect data; take notes.	
		4週	(3): Visuals - analyse types; language to describe visuals	Collate data; present results visually.	
		5週	(4): Structure of a research presentation	Organise information.	
		6週	(5): Preparation and practice; evaluation criteria	Prepare group presentations; practice.	
		7週	(6): Group research presentations; feedback.	Make presentations; peer evaluation.	
		8週	(7): Group research presentations; feedback	Make presentations; peer evaluation.	
	2ndQ	9週	(8): Writing a research report; organisation; useful expressions	Write a report of research project.	
		10週	Individual Presentations (1): ideas; information	Brainstorm a topic; find information	
		11週	(2): Simplifying Internet texts	Adapt written information to suit audience	
		12週	(3): Structuring a speech	Effective introductions and Conclusions	
		13週	(4): Performance aspects; Pronunciation	Practise voice; behaviour for public speaking	
		14週	(5): Preparation and practice; evaluation criteria	Prepare individual presentations; practice.	
		15週	(6): Individual Presentations; Feedback	Make presentations; peer evaluation.	
		16週	(7) Individual Presentations; Feedback	Make presentations; peer evaluation.	
<b>評価割合</b>					
		Presentation	Portfolio	Other	合計
総合評価割合		40	10	50	100
Basic Ability		40	10	50	100
Technical Ability		0	0	0	0
Interdisciplinary Ability		0	0	0	0



長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	英語 V (S)	
科目基礎情報						
科目番号	0069		科目区分	一般 / 必修選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般科		対象学年	5		
開設期	前期		週時間数	前期:2		
教科書/教材	Topic Talk (EFL Press)					
担当教員	クレイトン					
目的・到達目標						
In order to attain the goal of A-1 and F-2, students will develop skills and gain confidence in English communication (A-1) through opportunities to express their opinions and ideas in various contexts relevant to their future careers (F-2).						
ルーブリック						
		Ideal Level of Achievement (Very Good)	Standard Level of Achievement (Good)	Unacceptable Level of Achievement (Fail)		
Evaluation 1		Skills to communicate in English effectively and confidently.	Skills to communicate in English.	Inadequate skills to communicate in English.		
Evaluation 2		High, practical English listening skills.	English listening skills.	Inadequate English listening skills.		
Evaluation 3		High, practical skills to accomplish English homework tasks.	Skills to accomplish English homework tasks.	Inadequate skills to accomplish English homework tasks.		
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	The purpose of this course is to encourage students to talk about their own lives, interests and opinions, enabling them to communicate more confidently and effectively in English. Students will be exposed to authentic English spoken by native speakers. (A-1)					
授業の進め方と授業内容・方法	Lessons will be structured around specific topics. Students will listen to conversations between native speakers and answer questions about recordings. Students will practice conversing about topics and encouraged to use only English. なお、この科目は学修単位科目であり、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が必要である。事前・事後学習として課題等を与える。					
注意点	Grades are based on attendance, class participation and the completion of homework assignments (40%) and tests (60%). An average grade of 60% is required to pass this course. (F-2)					
授業計画						
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	Introduction	Outline of units		
		2週	Units 1 and 2	Family and food		
		3週	Units 3 and 4	Time and home		
		4週	Units 5 and 6	Music and transportation		
		5週	Units 7 and 8	Sports and numbers		
		6週	Units 9 and 10	Best friends and TV		
		7週	Units 11 and 12	Work and vacation		
		8週	Test	Unit review		
	2ndQ	9週	Units 13 and 14	School and movies		
		10週	Units 15 and 16	Money and restaurants		
		11週	Units 17 and 18	Animals and shopping		
		12週	Units 19 and 20	Health and fashion		
		13週	Units 21 and 22	Travel and books		
		14週	Units 23 and 24	Sickness and holidays		
		15週	Final test	Unit review		
		16週				
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	60	0	40	0	0	100
配点	60	0	40	0	0	100

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	英語 V (J)	
科目基礎情報						
科目番号	0070	科目区分	一般 / 必修選択			
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	一般科	対象学年	5			
開設期	前期	週時間数	前期:2			
教科書/教材	Encounters Abroad, Michael P. Critchley, NAN`UN-DO					
担当教員	デヴィッドソン					
目的・到達目標						
In order to attain the goal of A-1 and F-2, students will develop skills and gain confidence in English communication (A-1) through completing tasks which help them to express themselves in travel and business situations. These skills will be relevant to their future careers (F-2). 基盤となる工学分野において、必要な英語の基礎力を身につける。						
ルーブリック						
	Ideal Level of Achievement (Very Good)	Standard Level of Achievement (Good)	Unacceptable Level of Achievement (Fail)			
Evaluation 1	Skills to use English while traveling.	Skills to use English while traveling.	Inadequate skills to use English while traveling.			
Evaluation 2	Skills to give presentations in English freely and effectively.	Skills to give presentations in English.	Inadequate skills to give presentations in English.			
Evaluation 3	Strong confidence in using English with others.	Confidence in using English with others.	Insufficient confidence in using English with others.			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	The objectives of this class are to prepare the students for overseas travel and to improve the students ability to make a short presentation in English.					
授業の進め方と授業内容・方法	Through the use of the text (Encounters Abroad by Michael P. Critchley, NAN`UN-DO), other exercises and role play practice the students will gain confidence to travel abroad and use English in travel and in busines. なお、この科目は学修単位科目であり、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が必要である。事前・事後学習として課題等を与える。					
注意点	Evaluation is based on Attendance (40%), Final Test (20%), Final Presentation (20%), Homework (10%) and Participation (10%).					
授業計画						
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	Course Introduction and introductory exercise	Students understand course content, evaluation , goals and introduce themselves		
		2週	Text Unit 1 p.8-11	On the airplane		
		3週	Unit 1 p.12-15	Meeting people when traveling		
		4週	Unit 2 p. 16-19	Immigration and customs		
		5週	Unit 2 p. 20-23	Immigration and customs continued...		
		6週	Unit 3 p. 24-27 assignment 1	Homework	Taking a taxi and dealing with money	
		7週	Unit 3 p. 28-31	Giving addresses and paying		
		8週	Unit 4 p. 32-35	Hotel check in, problem solving		
	2ndQ	9週	Unit 4 p. 36-39	Hotel talk continued...		
		10週	Unit 5 p. 40-43	Homework assignment 2	Asking for sightseeing advice	
		11週	Unit 5 p. 44-47	Suggestions continued...		
		12週	Review	Review of material covered.		
		13週	Test	test of course material		
		14週	Final Presentations	students will present a country to the class		
		15週	Final Presentations	students will present a country to the class		
		16週				
評価割合						
	exam	homework	final presentation	attendance	participation	合計
総合評価割合	20	10	20	40	10	100
Basic Ability	20	10	20	40	10	100
Technical Ability	0	0	0	0	0	0
Interdisciplinary Ability	0	0	0	0	0	0

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	英語 V (C)			
科目基礎情報								
科目番号	0071		科目区分	一般 / 必修選択				
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2				
開設学科	一般科		対象学年	5				
開設期	前期		週時間数	前期:2				
教科書/教材	Encounters Abroad, Michael P. Critchley, NAN`UN-DO							
担当教員	デヴィッドソン							
目的・到達目標								
In order to attain the goal of A-1 and F-2, students will develop skills and gain confidence in English communication (A-1) through completing tasks which help them to express themselves in travel and business situations. These skills will be relevant to their future careers (F-2). 基盤となる工学分野において、必要な英語の基礎力を身につける。								
ルーブリック								
	Ideal Level of Achievement (Very Good)		Standard Level of Achievement (Good)		Unacceptable Level of Achievement (Fail)			
Evaluation 1	Skills to use English while traveling.		Skills to use English while traveling.		Inadequate skills to use English while traveling.			
Evaluation 2	Skills to give presentations in English freely and effectively.		Skills to give presentations in English.		Inadequate skills to give presentations in English.			
Evaluation 3	Strong confidence in using English with others.		Confidence in using English with others.		Insufficient confidence in using English with others.			
学科の到達目標項目との関係								
教育方法等								
概要	The objectives of this class are to prepare the students for overseas travel and to improve the students ability to make a short presentation in English.							
授業の進め方と授業内容・方法	Through the use of the text (Encounters Abroad by Michael P. Critchley, NAN`UN-DO), other exercises and role play practice the students will gain confidence to travel abroad and use English in travel and in busines. なお、この科目は学修単位科目であり、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が必要である。事前・事後学習として課題等を与える。							
注意点	Evaluation is based on Attendance (40%), Final Test (20%), Final Presentation (20%), Homework (10%) and Participation (10%).							
授業計画								
		週	授業内容・方法		週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	Course Introduction and introductory exercise		Students understand course content, evaluation , goals and introduce themselves			
		2週	Text Unit 1 p.8-11		On ther airplane			
		3週	Unit 1 p.12-15		Meeting people when traveling			
		4週	Unit 2 p. 16-19		Immigration and customs			
		5週	Unit 2 p. 20-23		Immigration and customs continued...			
		6週	Unit 3 p. 24-27 assignment 1		Homework		Taking a taxi and dealing with money	
		7週	Unit 3 p. 28-31				Giving addresses and paying	
		8週	Unit 4 p. 32-35				Hotel check in, problem solving	
	2ndQ	9週	Unit 4 p. 36-39				Hotel talk continued...	
		10週	Unit 5 p. 40-43		Homework assignment 2		Asking for sightseeing advice	
		11週	Unit 5 p. 44-47				Suggestions continued...	
		12週	Review				Review of material covered.	
		13週	Test				test of course material	
		14週	Final Presentations				students will present a country to the class	
		15週	Final Presentations				students will present a country to the class	
		16週						
評価割合								
	exam	homework	final presentation	attendance	participation	合計		
総合評価割合	20	10	20	40	10	100		
Basic Ability	20	10	20	40	10	100		
Technical Ability	0	0	0	0	0	0		
Interdisciplinary Ability	0	0	0	0	0	0		

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	英語 V (M)
<b>科目基礎情報</b>					
科目番号	0072	科目区分	一般 / 必修選択		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般科	対象学年	5		
開設期	前期	週時間数	前期:2		
教科書/教材	no textbook				
担当教員	オサダ				
<b>目的・到達目標</b>					
In order to attain the goal of A-1 and F-2, students will develop skills and gain confidence in English communication (A-1) through opportunities to express their opinions and ideas in various contexts relevant to their future careers (F-2). 基盤となる工学分野において、必要な英語の基礎力を身につける。					
<b>ルーブリック</b>					
	Ideal Level of Achievement (Very Good)	Standard Level of Achievement (Good)	Unacceptable Level of Achievement (Fail)		
Evaluation 1	Skills to express their thoughts freely in English in expressive ways.	Skills to express their thoughts in English.	Inadequate skills to express their thoughts in English.		
Evaluation 2	Skills to conduct research projects in English freely and effectively.	Skills to conduct research projects in English.	Inadequate skills to conduct research projects in English.		
Evaluation 3	Skills to write reports in English freely and effectively.	Skills to write reports in English.	Inadequate skills to write reports in English.		
<b>学科の到達目標項目との関係</b>					
<b>教育方法等</b>					
概要	The aim of this course is to develop students' skills and strategies for natural and effective communication in English (A-1) through collaborative group work and individual tasks. The main focus is to work through the stages for preparing, giving, and critiquing interesting and professional presentations.				
授業の進め方と授業内容・方法	Tasks include planning and conducting a research project, and presenting findings orally and in a written report.. Students also learn how to make content appropriate to audience, and techniques for effective public speaking. Active participation is expected, and some homework is required. なお、この科目は学修単位科目であり、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が必要である。事前・事後学習として課題等を与える。				
注意点	Grades are based on active participation in classroom activities and homework preparation for tasks (50%), and on two presentations (40%) and one written report (10%), to fulfill goal (F-2). Students who achieve 60% of the total assessment will get a credit for the course. オフィスアワー 授業のあとリフレッシュルームに尋ねてください。				
<b>授業計画</b>					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	Course Overview. Introductions and Interviews	interview a partner; report information in plenary.	
		2週	Group Research Project (1): Select topics; analyse survey question types	Write a questionnaire.	
		3週	(2): Conduct a survey	Collect data; take notes.	
		4週	(3): Visuals - analyse types; language to describe visuals	Collate data; present results visually.	
		5週	(4): Structure of a research presentation	Organise information.	
		6週	(5): Preparation and practice; evaluation criteria	Prepare group presentations; practice.	
		7週	(6): Group research presentations; feedback.	Make presentations; peer evaluation.	
		8週	(7): Group research presentations; feedback	Make presentations; peer evaluation.	
	2ndQ	9週	(8): Writing a research report; organisation; useful expressions	Write a report of research project.	
		10週	Individual Presentations (1): ideas; information	Brainstorm a topic; find information	
		11週	(2): Simplifying Internet texts	Adapt written information to suit audience	
		12週	(3): Structuring a speech	Effective introductions and Conclusions	
		13週	(4): Performance aspects; Pronunciation	Practise voice; behaviour for public speaking	
		14週	(5): Preparation and practice; evaluation criteria	Prepare individual presentations; practice.	
		15週	(6): Individual Presentations; Feedback	Make presentations; peer evaluation.	
		16週	(7) Individual Presentations; Feedback	Make presentations; peer evaluation.	
<b>評価割合</b>					
		Presentation	Portfolio	Other	合計
総合評価割合		40	10	50	100
Basic Ability		40	10	50	100
Technical Ability		0	0	0	0
Interdisciplinary Ability		0	0	0	0

長野工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	特別学修 (外国語)	
<b>科目基礎情報</b>						
科目番号	0073		科目区分	一般 / 必修選択		
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般科		対象学年	5		
開設期	集中		週時間数			
教科書/教材						
担当教員	久保田 和男					
<b>目的・到達目標</b>						
学修した内容をもとに、外国語に関する資格試験・検定試験等の取得または所定の得点を得る。						
<b>ルーブリック</b>						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1						
評価項目2						
評価項目3						
<b>学科の到達目標項目との関係</b>						
<b>教育方法等</b>						
概要	資格試験・検定試験等の取得または所定の得点を得た場合に、その資格等を単位として認める。					
授業の進め方と授業内容・方法	別途定めた資格試験・検定試験等を受験する。合格した場合、単位修得申請を行う。					
注意点	<成績評価> 資格試験・検定試験等の取得または所定の得点を得た場合に、該当する資格の科目が「優」となる。  <担当教員> 各学科の科目担当教員とする。					
<b>授業計画</b>						
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	別途定める。			
		2週				
		3週				
		4週				
		5週				
		6週				
		7週				
		8週				
	2ndQ	9週				
		10週				
		11週				
		12週				
		13週				
		14週				
		15週				
		16週				
後期	3rdQ	1週				
		2週				
		3週				
		4週				
		5週				
		6週				
		7週				
		8週				
	4thQ	9週				
		10週				
		11週				
		12週				
		13週				
		14週				
		15週				
		16週				
<b>評価割合</b>						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	50	50	100
配点	0	0	0	50	50	100